

平成五年三月

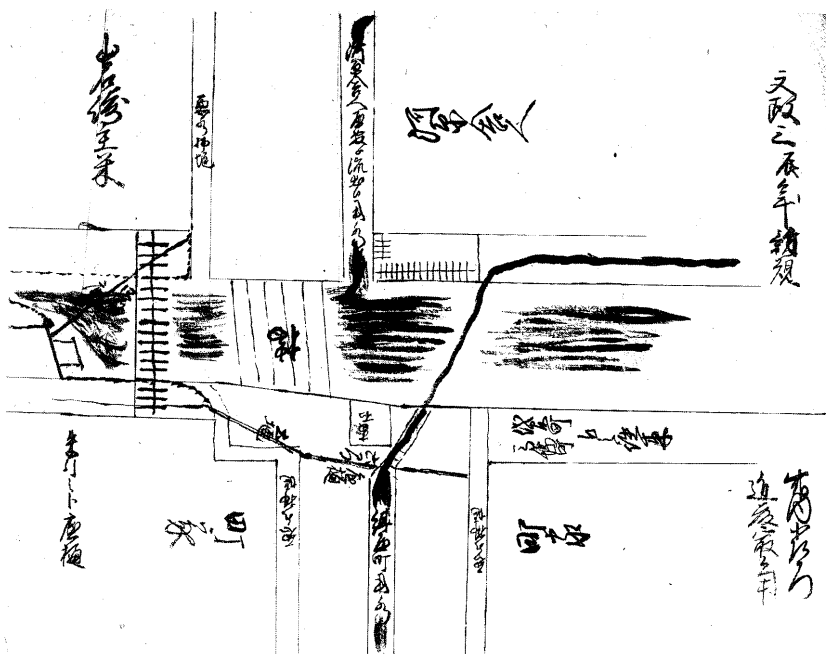
史料館所蔵史料目録 第五十九集

信濃国松代真田家文書目録
(その六)

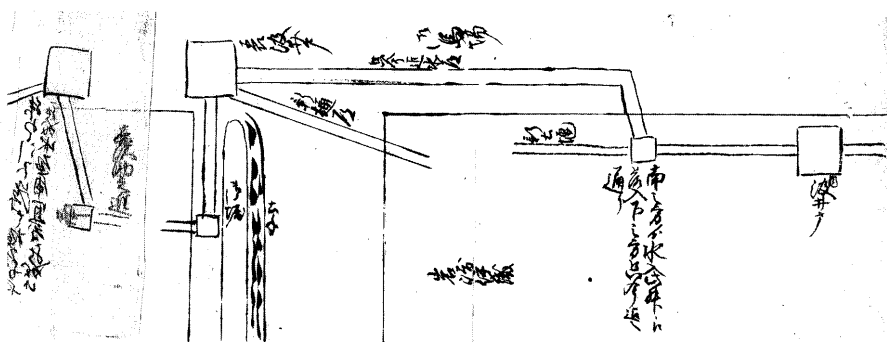
史料館

史料館所藏史料目録 第五十九集

信濃国松代真田家文書目録（その六）



①紺屋町近辺水道絵図 文政3年〔さ 127〕本文19頁



②御馬場近辺水道絵図〔さ 134〕本文19頁

行

五言古詩一首

一 定遠而清寧 一 乃也 卯庚金自煉 清月令

之。今。上。民。利。而。民。以。其。道。而。居。之。
 以。人。は。其。新。巧。を。用。ひ。て。是。を。人。は。得。て
 第。一。級。の。民。を。選。ぶ。所。に。有。り。上。は。初。め。之
 民。を。一。と。し。て。人。を。得。て。一。月。を。以。て。所。見。と。す。
 以。て。其。民。を。之。に。得。て。之。を。之。に。得。て。之。
 初。め。之。民。を。之。に。得。て。之。を。之。に。得。て。之。
 陳。大。公。金。陵。を。選。び。之。に。得。て。之。を。之。に。得。て。之。
 金。陵。を。選。び。之。に。得。て。之。を。之。に。得。て。之。
 金。陵。を。選。び。之。に。得。て。之。を。之。に。得。て。之。

柳塘春

沈氏甘肅

里禮方村
利名

天保元年七月

中村幸次郎

張山

盈齋詩集

廣利管為分海出此件為因
形之種種種種之或个相分
分乃上蓋不為相格也之律束腰
之腰即下之或个魚翅之律
及珍之甘在事所依之律元
信七律

之陽

伊人

李

李

三

休養

仲良所

宣統元年

凡 例

一 本目録は、『史料館所蔵史料目録』第五十一集に続いて、信濃国松代真田家文書目録（その六）を第五十九集として、同文書の書付型史料の一部を収めた。

一 史料は利用上の便宜を考慮して、その内容・性格等に応じ、大・中・小の項目を立てて分類配列した。大項目は二ポイント活字、中項目は一〇ポイント活字、小項目は九ポイントゴチック活字で示した。また、必要に応じて〇印で細項目を示した。なお一括史料のうち、他の項目中にも掲げることを妥当と考えた史料は、*印を付して重出した。

一 史料目録の記載欄はほぼ、(一)表題 (二)内容摘記 (三)作成者または差出人 (四)宛名 (五)作成年月日 (六)形態 (七)数量 (八)整理番号の順である。

一 表題（史料名称）は原表題の無いものが多いため仮に命名して掲げたが、() を付すことは省略した。また内容摘記は() 内に八ポイント活字をもって併記した。なお、綴物の内容摘記は、。を付して主要項目を列記したり、別行にまとめるなど便宜の方法を併用した。

一 差出人および宛名のうち複数のものは、連名には・を、別紙史料には、を用いたが、一部は適宜省略した。なお役職名は必要に応じて付した。

一 作成年次は、年月日・干支から適宜に採用した。

一 苗字を欠く人名や、年次を明記してないものも、他の史料などにより確定できるものにはそれを補い、特定し難い場合は、() または力を付して推定の文字を記した。

一 数量の上部に記した「仮」は仮綴本を示す。

一 下欄の、け及びさの記号と数字は、各史料の整理番号を示す。照合・閲覧・引用の場合に利用されたい。

一 卷末に簡単な解題を付した。

目次

口 絵

凡 例

信濃国松代真田家文書目録（その六）

目 次

目 録

解 題

頁

..... 一

..... 二

..... 三

..... 二

信濃国
松代

真田家文書目録（その六）

信濃国
松代
真田家文書目録（その六） 目次

藩政	三	家中	一四
普請	三	奥勤方 維新後家中	
用水 上水道 水道役		明治期史料	一六
京坂役場	二〇	政治所 地図取調 他藩士預 廃藩以後 家扶所	
村町方	二	その他	一九
村方騒動 南長池村紛議一件			
甲府・越奥出兵	二		
財政	二		
諸役方	二		
御勝手元 御収納郡方 御藏奉行			
給禄・手充 元方御金奉行 弘方御金			
奉行 御納戸役 御金掛 御勘定吟味			
賄役 勘定役書類 計政局			
借入金	二		
京都守衛人料	二		
奥向勘定	二		
御側御納戸 月割金 賄料 家録 被			
進金 仕切金 奥向諸勘定 御仕向			
病氣・療養 御遣物 御膳番 料理			
台所 御召馬 奥女中			

信濃国 松代 真田家文書目録（その六）

藩政

普請

用水

綿内村役人連印誓書写「大日照りの節は新田に水かけ間敷旨」 肝煎勘右衛門ら二名 桑根井村権太夫宛 貞享三年九月五日

豎

一通さ 二〇

封筒「新規堀割りの件、鼠宿・新地より幕領金井・横尾両村へ懸合の始末。二三、二五番在中」 文化一〇年

豎

一点さ 三

鼠宿三役人申上書「山田用水の水道渡いの件につき幕領横尾村と出入り。経緯および存念報告」 名主嘉右衛門ら三名 郡奉行所宛 文化一〇年一〇月

豎

一通さ 三

新池村三役人申上書「新規水道堀割りの出入り一件につき、金井・横尾両村より当村への懸合の次第報告」 名主四郎右衛門ら三名 郡奉行所宛 文化一〇年一〇月

豎

一通さ 四

山田用水堀割り紛議一件絵図 鼠宿名主嘉右衛門・新池村名主四郎右衛門 文化一〇年一〇月

一通さ 五

封筒「沓野村、山入より水引下にて畑方田直目論見伺書類。一・二八・一一九番在中」 文化一二年

一点さ 二七

沓野村水引下田直一件綴込伺書

一綴さ 二八

1 沓野村三役人誓書「田方用水引水の願人の件、当村和熟し右計画に同意の旨」 名主松右衛門ら三名 富沢勇藏宛 文化一二年八月

豎

一通

2 代官手代内々申上書 并勘定方下札「引水願人の件につき村方不承知の者もあれど、申含めて一同承知の旨、本文聞済みの節は、村方より出願せしむべき旨下札」 富沢勇藏八月

切

一通

3 郡奉行連名伺書 并附札「右一件故障あるも内詮議にて村方一同承知につき、出願方申渡すべき旨。許可附札」 菅沼九左衛門・鹿野外守（家老宛） 一〇月

切

一通

沓野村山入新水堰絵図

77×55cm

一通さ 二九

東条村堰掛り・役代等連印申上書写「東条村用水堰の仮囲い承知の旨の、役代藤十郎より提出の誓書につき申上」 堰掛慶助・役代喜八ら二名 小野唯右衛門宛 文政五年四月二十五日

豎

一綴さ

職奉行石倉源五左衛門用状「中川堰一件につき小野・町田へ差し出しの両書を送付の旨」 郡方宛 五月八日

切

一通さ 一六

職奉行石倉源五右衛門用狀「東条村一件の取り扱いは打ち込みものとすべきや、堰出入りなれば御役方のみにて処理すべきやの旨」 郡方宛 五月一四日

切紙

一通さ 六

塩崎村用水堰筋借用一件規定書写「松代藩領分に堰筋設置につき、損地分の年貢納納入の件等一三ヶ条」 塩崎村長谷郷三役人・小前惣代ら一八名 志川・八幡・郡村役人・頭立衆中宛 文政五年十一月

堅紙

一通さ 三

○文化八―文政六年
上徳間村新堀引立一件

上徳間村用水変更一件為取替一札写「上徳間村用水引入場所変更につき用水利用取極め。河川囲い普請規定」 上徳間村三役人・頭立・立入人中之条支配所下戸倉村名主・枝郷三役人宛 文化八年正月

堅紙

一通さ 六

上徳間村用水変更一件為取替一札写「同前」 下戸倉村名主角五郎・枝郷三役人 松代領分上徳間村三役人・頭立・立入人宛 文化八年三月

堅紙

一通さ 三

上徳間村用水引入場所絵図写 上徳間村三役人・頭立・立入人 下戸倉村役人衆中宛 文化八年三月

封紙 堅紙

一通さ 三
一点さ 三

上徳間村用水紛議一件済口証文「柏王村権左衛門の尽力にて用水新堀をなすも徳間村と紛議にて用水議定書の破棄を申立。この度和談の旨」 訴訟人権左衛門・下戸倉村名主・上徳間村相手方・扱入ら二四名 郡奉行所宛 (文政四年)

堅紙

一通さ 元

上徳間村用水紛議一件内済為取替証文写「柏王組権左衛門・下戸倉村名主等と上徳間村三役人・頭立等との双方の為取替証文二通分の写。権左衛門の持高七石余を直上納となす旨」 文政四年四月

堅紙

一通さ 三

上徳間村三役人願書写「寛保二年の大水以来用水揚げ口変化。下戸倉村地先よりの引水を許可ありたき旨」 名主喜左衛門ら三名 (奥書、柏王名主権左衛門) 中之条代官所宛 文政六年二月

封紙 堅紙

一通さ 三

望月権之進用狀控「上徳間村よりの出願につき、中之条手代より松代藩役人の内状を求めらるにより右聞済されたき旨」 (家老宛) 三月六日

切紙

一通さ 三

海沼与兵衛申上書并望月権之進貼添「下戸倉村地内の上徳間村用水揚げ口水破につき、別紙の通り為取替証文提出の旨」 (家老宛) 四月一〇日

切紙

一通さ 三

下戸倉村三役人等届書写「下戸倉村より上徳間村宛の為取替示談書の写。下戸倉村分地に引水場設置につき、上徳間村は冥加初二俵を年々差出すべき旨の議定」 名主角五郎ら五名 中之条代官所宛 文政六年四月

半

一綴さ 三

上徳間村三役人等届書写「上徳間村より下戸倉村宛の同文為取替示談書の写」 名主喜左衛門ら六名 同前宛 文政六年四月

半

一綴さ 三

中之条代官所手代書状「上徳間村用水揚げ口の件望月の依頼状の趣承知。両村の為取替書の写を進達いたす旨」 奥野左源太 望月権之進宛 四月一〇日

封紙 切紙

一通さ 三
一点さ 三

用水揚げ口一件為取替示談書写「三六番の内容に同じ」 下戸倉村三役人・問屋・年寄・立入人 上徳間村三役人・頭立宛 文政六年四月

封紙 堅紙

一通さ 元

用水揚げ口一件為取替示談書写「三七番の内容に同じ」 上徳間村三役人・頭立・立入人 下戸倉村三役人・問屋・年寄宛 文政六年四月

封紙 堅紙

一通さ 三
一点さ 三

職奉行石倉源五左衛門用状「中之伏奥野よりの返書為取替書写など拝見。これらを返上いたす旨」
望月権之進宛 四月一二日

切 一通さ 四

○文政六―天保一三年
網掛堰六ヶ村組合用水

上平村三役人日延願書写「六ヶ村組合用水路につき、当村分地にて砂留めを命ぜられるも当八日まで返答猶予ありたき旨」 小野唯右衛門・小林三左衛門宛 文政六年五月二日

堅 一通さ 六

網掛村等五ヶ村名主連印願書「上平村内に散水場設置の件、七千坪余の地代金九三両は過大につき引き下げを同村に命ぜられたき旨」 網掛・上五明・力石・影山・上山田村名主五名 小野・小林宛 文政六年六月

堅 一通さ 六
封紙

網掛村等五ヶ村名主連印願書「上平村散水場地代金の件、藩より示談命ぜられるも難渋につき、同所の年貢・高役を免除されたき旨」 同 前 同 前宛 文政六年六月

堅 一通さ 一
封紙

出浦沢散水場并御用水堰絵図 網掛・上平村等六ヶ村三役人一八名 文政七年四月

19×160cm 一鋪さ 一

六ヶ村名主連印願書「六ヶ村より道橋奉行へ尋答の書面提出の旨。用水路に石砂利押し出しのものととなる松木の伐採の予定箇所の件」 網掛村名主磯右衛門ら六名 小野唯右衛門・小林三左衛門・春日儀左衛門宛 文政七年五月

堅 一通さ 七

六ヶ村三役人・長百姓惣代・堰世話役連印誓書「組合用水路埋まりの御普請につき、組合より人足差し出しのこと承知。堰筋濠い等は村方自力をもつてする旨」 網掛村名主桑右衛門ら二七名 出役中宛 天保一三年八月

堅 一通さ 五

六ヶ村名主連印誓書「六ヶ村名主より上平村役人宛に提出の規定書の写。取極めに相違なき旨。用水路復旧につき堀割り・砂置場等にて上平村に迷惑をかけざる旨」 網掛村名主桑右衛門ら六名 出役中宛 天保一三年八月

堅 一通さ 六

上平村三役人願書「文政七年見分の節、当村分地に砂置場を見立てらるるも、土砂押し出し甚だしく不容易の事態。組合にて規定取極めをなすも自力困難の時は救済ありたき旨」 名主重右衛門ら三名 出役中宛 天保一三年八月

堅 一通さ 五

六ヶ村名主連印願書「土砂押し出し防止のため、冥加金上納のうえ松木伐採の許可ありたき旨」 網掛村名主桑右衛門ら六名 出役中宛 天保一三年八月

堅 一通さ 六

見分出役連名申上書「松木伐採は許可。土砂埋め回避の松堰新設の件は見合わせ。その他諸件につき復命」 小林三左衛門・草川吉右衛門・久保孫左衛門 八月

横長美 一綴さ 六

道橋方手附申上書「見分復命。沢先長谷樋の模様替、上山田村住吉堰欠落、上平村砂置場、新堰設置の諸件」 広山清太夫（奥書、志津三平） 道橋奉行所宛 八月

折紙 一通さ 三

信濃屋虎右衛門出願一件留書「1松代藩役人宛の願書写。水揚げ道具龍尾車を岩野村流川へ仕掛けたき旨。2大熊長門より家老中宛の用状写。領分差し障り有無の調査を郡奉行に差図ありたき旨」 文政八年六月

半 一綴さ 三

布施五明村村役人答書「戸井場堰土砂埋まりの件尋答。二ツ柳村は反対するも、同村分地に新松堰を設けずしては水災を免れざる旨」 名主久左衛門・組頭新十郎 小野唯右衛門宛 文政九年正月

堅 一通さ 六

布施五明村役人願書「出水につき悪水松堰を新規に設けられたき旨」 同 前 同 前宛 一通さ 一六
文政九年四月

伊勢町伝兵衛答書「寺屋村堰筋につき尋答。前々の堰幅とし、自余の空き地は開発したき旨」 堅 一通さ 一六
町田権之助・長岡藤吉宛 天保三年五月

境新田村溜池補理田直し一件綴込申上書 郡方 一綴さ 一六
道橋方 天保二年

1 水熊村三役人請書「当村鹿の入之池より境新田分引水の件、樋下大割口より割合違わしならは一同御請の旨。他」 名主小右衛門ら三名 池田 一通 一
良右衛門・寺沢松三郎宛 天保二年六月

2 境新田村役人・重立連印請書「御見分にて田直命ぜられたるうへは出精いたす旨」 名主文右衛門ら八名 同 前宛 天保二年六月 一通 一

3 見分役連名申上書「田直一件、水熊村より故障申立るも申含めたること。境新田村願の通り分水溜池を造らば、取箇増しともなるべき旨」 池田・寺沢 七月 横長半 一綴 一

4 郡方・道橋方連名申上書「見分手の申立の通り田直し申渡したるにつき、この段申上」(家老宛) 切 一通 一
七月

○天保一一年 鐘居堰用水引方異約一件

八ヶ村三役人・頭立小前惣代等連印請書「鐘居堰用水引分につき地平林村連約一件、御出役のうへ内済和談調印の旨」 汲目・西和田・桐原・中越・吉田・下越・地平林・稻積村三役人等、立入人深美甚十郎、堰守与市ら四二名 吉原伝蔵宛 堅 一通さ 一六
天保一一年二月

鐘居堰反目土居取極見取図 28×36cm 一通さ 一六

吉原伝蔵申上書并勘定役等添申上貼紙「同前一件、勘定役 御手附一同出役のうへ済口調印に至り、場所見分ののち今日引取たる旨」 勘定寺内多宮・馬場介作 二月二日 切 一通さ 一六

水井忠蔵申上書「同前一件場所見届け、内済規定書に相違なき旨」 二月 切 一通さ 一六

○天保一五年 煤花川新用水引取一件

松代中町清兵衛誓書写「煤花川より用水引取につき、堰筋損地分の年貢の処置。荒木村の用水使用など取極め」 荒木村名主仁兵衛宛 天保一五年一〇月 堅 一通さ 一六

荒木村名主仁兵衛和談書写「三三五番の清兵衛よりの申出を承知の旨」 清兵衛宛 天保一五年一〇月 堅 一通さ 一六

願人清兵衛申上書「用水堰設置につき諸村の意向報告。中之御所村九反組・市村南組は用水取揚げに同意、市村北組は畑地が冷地になるとの懸念、新田川合村は堰人足も供出の所存なるも入料金賦課には反対などの旨」 広土調掛り宛 天保一五年一〇月 横長半 一綴さ 一六

願人清兵衛願書「用水一件につき別書の通りゆえ出役見分のうへ取極められたき旨」 広土調掛り宛 天保一五年一〇月 堅 一通さ 一六

広土掛り竹村金吾内々同書「用水一件、春日儀左衛門より別紙の通り申間につき内見分を申渡すべきの旨」 一〇月 切 一通さ 一六

春日儀左衛門内々同書「用水一件、別紙のとおり関係者内談につき書類差添え内慮伺」(竹村金吾宛) 一〇月 切 一通さ 一六

広土調掛り連名伺書「関係諸村和談成立につき、

別紙見積もりの用水普請金を下ヶ渡されたきこと

等」春日儀左衛門・大塚谷平・宮川長太夫

(竹村宛) 一月

切 一通さ 三二

広土調掛り内々申上書「新用水は市村堰と命名し、

中町の清兵衛を堰守とすべく内評の旨」(竹村宛)

一月

切 一通さ 三三

新田川合村等四ヶ村名主連名誓書写「新用水堰

筋の件、荒木村地内の分は地坪を無年貢、新用水

から引水使用されたき旨」新田川合・市村北組・

同南組・九反組名主四名 荒木村役人衆宛

天保一五年一月

堅 一通さ 三三

荒木村名主仁「兵衛誓書写「用水堰筋は無年貢、用

水使用の入料はのちに相談すべき旨」新田川

合村等四ヶ村役人衆宛 天保一五年一月

堅 一通さ 三六

新用水堰組合四ヶ村内規定書「堰筋年貢、幕領荒

木村との為取替、普請入料配分、村々分水、本堰

より小堰筋への取入れ、毎年堀浚い等の諸件」

四ヶ村三役人二〇名

堅 一通さ 三七

四ヶ村三役人・願人清兵衛連印願書「新用水堰

につき些かの差し障りもなし、普請入料は御下ヶ

金をなしたされたき旨」九反組名主十兵衛ら一

一名 春日・大塚・宮川宛 天保一五年一

月

堅 一通さ 三八

組合新堰堀割御人足并諸色入料見積書 市村南

組清太夫・林平 広土調掛り宛 天保一五年

一月

横長半 一綴さ 三九

家老恩田頼母差函書「別紙両伺書、附札の通り心

得べき旨」竹村金吾宛 一月一七日

切 一通さ 四〇

広土掛り竹村金吾伺書并附札「煤花川新堰の件、

別紙の通り広土引当金の内より普請金を下された

き旨。許可の附札」(家老宛) 一月

切 一通さ 四三

煤花川組合新堰見取図繪図面

広土調掛り連名伺書「丹波嶋・久保寺村内の新田

開発を申含め、別紙の通りの普請金につき広土御

出方の内より御下ヶ金ありたき旨」春日・大塚・

宮川 (竹村宛) 一月

切 一通さ 四三

丹波嶋・久保寺両村分地開発場圃、犀川除御普

請積 広土調掛り 一月

折 一通さ 四四

広土掛り竹村金吾伺書并附札「丹波嶋・久保寺

両村地囲い普請の件、調掛りより別紙の通り御下

ヶ金を申立につき聞済まされたく、掛り一同評議

のうえ伺い。許可の附札」(家老宛) 二月

切 一通さ 三五

道橋奉行祢津綾之介用状「小市・久保寺の儀、大

塚らより申上のとおり差し障りもなきこと、掛り

の者存念あらば大塚らへ申遣わすにつき含みおか

れたき旨」(竹村金吾宛 カ) 二月一九日

切 一通さ 三六

大塚谷平用状草案「丹波嶋・久保寺両村広土地囲

普請の遣、差し障り有無取調べのところ、何方よ

りも差し支えなき旨」春日儀左衛門宛 一一

月二一日

切 一通さ 三六

○嘉永六―安政四年

綿内村用水引揚口紛議一件

67x74mm 一通さ 三六

松代藩郡奉行等連名書状控「須坂領綿内村、用水

引揚げ口の強化に事寄せて手堅い川除普請をなす

由、大豆嶋村より訴出につき善処ありたき旨」

山寺源太夫・宮島守人 須坂役人河野主税・青

木軍右衛門宛 (嘉永六年) 五月二八日

半 一綴さ 三九

道橋方・公事方両手附連名用状「現地へ出役す

るも須坂側の出役なし。綿内村の引水は保護する

も不容易の普請は早急に撤去せしむべき旨」小

林藤兵衛ら四名 詰合中宛 五月二九日

切 一通さ 四〇

七

須坂藩役人連名書状「綿内村揚水口の川除笈の撤去は迷惑の由。松代藩役人への不束の返答の件驚入り不行き届き至極の旨」 河野・青木 山寺・宮島宛 五月二十九日

切継

一通さ 壹

綿内村三役人誓書写「引水のため牛嶋村分地借用し揚水口の根固め普請をなすこと、二百十日後には元形にて返地の旨」 名主仲治ら五名 牛嶋村役人衆宛 嘉永六年六月

堅

一通さ 一

牛嶋村三役人申上書写「綿内村三役人より牛嶋村宛の誓書の写。川並あしきため揚水口の根固め普請をなすも、仕継普請は勿論、一切の迷惑をかける旨」 名主仮役文蔵ら三名 道橋奉行所宛 安政四年九月

堅

一通さ 二

○ 沓野村三役人・小前惣代連印請書「佐野村堰路一件、不満なれど御外聞に拘わるにより御請の旨」 名主安吉ら六名 郡奉行所宛 文久三年十一月

美

一綴さ 壹

琵琶池引水一件為取替証文「湯田中・沓野両村の為取替証文の届。沓野村内琵琶池の用水放出の件、両村土目録引誤に関する償金の件」 両村三役人八名 同前宛 文久三年十一月

美

一綴さ 壹

○万延元一慶応二年
小松原村等操穴用水開発一件

見分出役内々申上書草案「四ツ屋村辺用水普請の件、莫大の国益につき金百両の支出を聞済みありたき旨」 申(万延元年) 九月六日

切継

一通さ 一五

新用水掛り連名内々申上書控「用水堀抜き普請の件、岩石多く、来年五月までの開発は困難」 諏訪部市郎治・田中万作 柘植嘉兵衛宛 申(二月九日)

切継

一通さ 七

新用水掛り連名申上書「水門付近の瀬川普請出来まで用水堀抜き普請を見合わせとの命なれど、同普請はこのまま進められなく、入料も下されたき旨」 大峽治郎右衛門・田中力馬・田中万作 柘植宛 西(文久元年) 六月二十八日

切継

一通さ 八

新用水掛り申上書控「万延元年以降の堀抜き普請の経緯言上」 田中万作 (柘植宛) 子(元治元年) 正月

切継

一通さ 二〇

新用水掛り内々申上書控「小松原村荒地開発につき泥入堀の普請の件。諏訪部との確執のいわれ報告」 田中万作 (竹内宛) 寅(慶応二年) 九月

切継
付箋

一通さ 三
一点

小松原・四ツ屋両村三役人連印願書「水災などにて開発不調。開発冥加粉を暫く猶予ありたき旨」 小松原村名主吉郎ら八名 倉田三之丞・北島元之助・鈴木富治宛 慶応二年十一月

美

一綴さ 三

小松原・四ツ屋両村三役人連印願書「難波のため操抜きを、藩の御普請となす旨を道橋奉行に出願につき宜しく執りなされたき旨」 同前 出役中宛 慶応二年十一月

美

一綴さ 三

見分出役連名申上書「両村田直しの箇所六町余、上納粉六九俵に上ること。開発冥加粉は一両年有免ありたき旨」 倉田・北島・鈴木 寅(二月)

切継

一通さ 九

小松原・四ツ屋村操穴用水掛開発場絵図面

119×160mm 一舗さ 二四

見分出役連名御尋物答書「四ツ屋村など弘化地震にて犀川引水不可となるも、操穴用水引水にて荒地起返り、田地の位も上昇すべきこと勘弁されたき旨」 倉田ら三名 十一月

切継

一通さ 一六

○明治元年
犀口用水出張御取締一件

差紙「即刻御用、御城下」 館孝右衛門宛

紙片

一通さ 三七

師岡源兵衛差図書「別紙の通り仰渡につき心得べき旨」 館孝右衛門宛 (慶応四年) 六月七日	切	一通さ 三六	正木才三郎口上覚「松代藩館孝右衛来りて今井村の不法の行為を取締くれとの申入あること、赤沢氏へは当方より伝言の積りの旨」 柳原喜助宛 六月一二日	切繼	一通さ 三九
鎌原伊野右衛門差図書「館孝右衛門に御内用勤むべきこと、委細は道橋奉行に申談ずるよう申渡すべき旨」 師岡源兵衛宛 六月七日	切	一通さ 三元	春日千左衛門用状「戸部村の件につき上田藩役人と談判下され安堵。戸部村に分水を承服させられたき旨」 館孝右衛門宛 六月一二日	切	一通さ 三〇
塩崎領役人連名書状「両水鉋村民、今晚より樋留のうえ下水。明朝御旅宿へ参上にて委細申上ぐべき旨」 松平主計家来柳原喜久助・赤沢丈之助 館宛 (慶応四年) 六月八日	切繼 封紙	一通さ 三一	用水紛議一件名前書「中水鉋村は青木某、戸部村は松本民五郎に問合せられたき旨」 (上田藩役人) 館孝右衛門申上書控「犀口用水の件、旗本塩崎領・上田藩領の村々とも合意の旨」 刑部丞宛 六月九日	切	一通さ 三一
高野平作用状「丹波嶋発の書状、正四ツ時に松代到着し受領の旨」 丹波嶋村三役人中宛 六月九日	紙片	一通さ 三三	上田藩役人中村虎助書状「用水引入の件につき水上村々に嚴重申渡しおくこと、委細は民五郎に問合わせられたき旨」 館孝右衛門宛 六月一三日	切繼	一通さ 三三
春日千左衛門用状「塩崎側は今夕刻まで下水の由なれど、小嶋田村難渋につき暫く領水鉋村樋口を留切るべく厳しく命ぜられたき旨」 館孝右衛門宛 六月九日	切繼	一通さ 三四	館孝右衛門書状下案写「用水一件心得違ひの者につき、急速出張のうえ悉く御教諭のこと拝謝の旨」 中村虎助宛 六月一三日	切繼	一通さ 三三
春日千左衛門用状別紙「昨日到来の別紙は運右衛門に持たせて返上、落手ありたき旨」 同前宛 六月一〇日	切	一通さ 三五	春日千左衛門用状「小森村民は塩崎役場へ吟味受けたき由なれど、手重につき内済取計られたき旨」 館孝右衛門宛 六月一二日	切繼 封紙	一通さ 三四
春日千左衛門用状「用水堰通水の件、上田藩戸部村に別紙の通り不実の次第あり。上田藩役人へ懸合ありたき旨」 同前宛 六月一	切	一通さ 三六	赤沢丈之助書状「原沢堰用水の樋口の寸法を巡る小森・今井村の争論の次第」 同前宛 六月一四日	切繼	一通さ 三五
水鉋村近傍用水分水堰筋繪図		一通さ 三七	用水紛議一件名前書「両水鉋村は中水鉋村割番清水多仲、今井村は庄屋小井吉右衛門ないし町田専助」 (塩崎領役人) 今井村役人・堰世話方等連印請書「字式百石堰の樋口寸法は当面現状のままのこと、向後樋手入れの節は堰守立合のうえにてなすべき旨」 庄屋小林吉右衛門ら四名(奥書、堰守 中沢弥七郎・久左衛門) 館孝右衛門宛 慶応四年六月	切繼	一通さ 三六
上田藩役人正木才三郎書状「赤沢丈之助宛の書面を戸部村まで差し出したきたき旨」 館孝右衛門宛 六月一日	切繼	一通さ 三八	今井村役人・堰世話方等連印請書「字式百石堰の樋口寸法は当面現状のままのこと、向後樋手入れの節は堰守立合のうえにてなすべき旨」 庄屋小林吉右衛門ら四名(奥書、堰守 中沢弥七郎・久左衛門) 館孝右衛門宛 慶応四年六月	切繼	一通さ 三七

原村三役人請書「小森・今井村係争の原沢樋口寸法の件、当面現状のままたること当村も異議なき旨」名主大久保忠左衛門ら三名 同前宛 慶応四年六月

美 一綴さ 三八

館孝右衛門用状控「一四日付の赤沢書状への返報。用水不足から人氣不穩につき中氷鉋村へ出向のうえ教諭ありたきこと、諸件尽力への礼状。今井・小森村の内済規定書の写」 赤沢丈之助宛 六月一五日

半 一綴さ 三九

東福寺村三役人請書「上田藩戸部村の不法引水より紛議発生するも、内済和談」 名主吉沢真次郎ら四名 館宛 慶応四年六月

美 一綴さ 三〇

小森村三役人・年寄連印請書「松平主計知行所今井村、樋留を無視して乱暴を働き引水を強行。右一件内済和談に至ること承知の旨」 名主町田莊右衛門ら六名 同前宛 慶応四年六月

美 一綴さ 三三

小島田兩村三役人請書「上田藩領・塩崎知行所の両氷鉋村不法の引水をなすところ、内済整い通水をなして村内鎮まる旨」 名主太左衛門ら六名 同前宛 慶応四年六月

美 一綴さ 三三

小森村代表連名書状「原沢堰一件、昨日示談整い帰村のところ村内承服せず公訴に決定」 中村莊作・小沢寅重 今井村庄屋宛 六月二二日

切繼 封筒 一通さ 三三 一点

赤沢丈之助書状「今井・小森村紛議一件、小森村内不服なれど内済に至りたるうへは、小森村代表の中村・小沢に迷惑の及ばざるよう教諭ありたき旨」 館孝右衛門宛 六月一四日

切繼 一通さ 三四

館孝右衛門内々申上書控「小森・今井村係争の件、上田役人赤沢よりも別紙書状あり、村方も一同安心の旨」 六月一七日

切繼 一通さ 三三

小森村三役人・重立連印請書「中村・小沢より今井村庄屋宛に心得違いの手紙差し出したところ、塩崎役人より右手紙返却され有り難き旨」 名主町田莊右衛門ら六名 館孝右衛門宛 慶応四年六月

美 一綴さ 三八

館三郎(孝右衛門)申上書「明治元年の犀口堰筋紛議一件の経緯説明。一件の証書・印書功勞者の人別、御賞調べの書面を添えて申上」 一二月

切繼 一通さ 三〇

犀口用水一件御賞調并名面「春日千左衛門、小松原村吉岡運右衛門、四ツ屋村堰守飯島久右衛門、丹波嶋村柳嶋市郎左衛門の四名」 館三郎 一月

切繼 一通さ 三三

館三郎申上書「三沢清美、紛議解決に尽力により熨斗目・長上下を御賞として下されたき旨」 一二月

切繼 一通さ 三三

三沢清美申上書「犀口紛議一件御賞調べ。館三郎・春日千左衛門・中沢義市ら計六名分」 戊(明治七年) 一二月

切繼 一通さ 三三

犀口用水紛議一件書付目録「上氷鉋村願書一通、同村請書一通、鯨堰示談書一通 上待居一〇ヶ村 答書一通、堰守尋答一通、図面一通など」

切 一通さ 三六

原村三役人歎願書写「犀川渇水にて難波。犀口中堰組合村々、揚水の方策を列挙して御普請を歎願」 名主大久保忠左衛門ら三名 慶応四年九月

美 一綴さ 三六

四ツ屋村三役人内々願書「犀川出水にて犀口土砂埋没。下堰組合のうちより新堰筋の設置を申入れられるも、当村の田地減少のため示談不調」 名主中沢弥七郎ら三名 郡奉行所宛 明治元年一〇月

美 一綴さ 三六

四ツ屋村三役人・地主・頭立小前惣代連印申上書「犀口用水絶水の件、地代金受取などの条件にて堰幅拡張、土揚げ場拡大に同意。八五番と一括」

地主惣太郎ら一五名郡奉行所宛明治三年五月

塚田源吾持山木品献木伐出本数調「安政六〇明治二年分、犀口梓立普請入用材木。四口合せて金四四一兩余」

美
一綴さ 六
横長半
一綴さ 一六

明治二一三年

上水鉋村用水引入一件

上水鉋村三役人数願書「田方用水の新堰設置の件立入人の見込書は承服しがたく、田植え時期につき今日中に田水引入れたき旨」庄屋代幾太ら四名 郡・道橋奉行所宛 明治二年五月一七日

美
封紙
一綴さ 一四

用水一件立入人見込書写「用水一条につき上水鉋村昨年より不手順につき組合に託入のこと、鯨沢堰水の水掛地は、高二二五石の割合となすこと等」五月一六日

美半
封紙
一綴さ 一四

犀口用水諸堰筋絵図「上堰・中堰・下堰・鯨堰・小山堰・上待居堰・下待居堰・島堰」

75×88cm
一鋪さ 一四

上水鉋村請書案「鯨堰への組合加入については昨年は三百石勤め、向後は二百石勤めとなす旨」

切紙
一通さ 一四

新堰用水掛り田畑石高調「上水鉋村の新堰の水掛地の高明細。〆二百石余」(立入人) (五月二五日)

切紙
一通さ 一四

用水堰普請入料見積書

切紙
一通さ 一四

上水鉋村請書案「用水割合高九百石の各用水堰への按分の件」(松代藩役人)

切紙
一通さ 一四

犀口下堰用水掛り諸村一覧「上待居組合、下待居組合、新鯨堰筋の村名書上。岸島堰等の由来説明」

切
一通さ 一四

上水鉋村用水堰一件覚書

三通さ 一四

四ツ屋村三役人連名返答書写「上水鉋村地境の用水堰紛議一件につき、示談掘り方を同村へ仰含められたき旨」名主惣太郎措置二名 郡政役所宛 明治三年五月

半
一綴さ 一六

小松原村等七ヶ村三役人連印願書「犀口用水堰土手、危険箇所合掌普請を郡政役所に依頼につき、宜しく執りなされたき旨」小松原・五明・瀬原田・高田・二ツ柳・伊平川・上田領岡田村三役人二七名 犀川掛り出役中宛 明治三年六月

美
一綴さ 一四

犀川用水堰開い川除普請筋絵図「六五の付属」

26×92cm
一通さ 一六

明治二年

入有旅村新溜池築立一件

入有旅村開発人惣代・名主等連印歎願書「当村田地開発の溜池築立の節、中山新田村分地の芝切取をなし同村より抗議。同村より別紙誓書の調印を強要され難波の旨」惣代健之助ら四名 郡・道橋奉行所宛 明治二年六月

美
一綴さ 一四

入有旅村開発人惣代等連名誓書下案「新池築立につき中山新田村に迷惑かけざること、地所譲渡の節は急度申送るべき旨」出作人惣代・開発人惣代・組合受人 中山新田村両組中宛

堅
一通さ 一四

入有旅村開発人惣代・三役人連名誓書下案「新池の件、中山新田村に土手先六間懸りたるに相違なきこと、万一地所異変の節は迷惑かけざらる旨」中山新田村両組中宛

堅
一通さ 一四

入有旅村開発人惣代連名誓書下案「四七番・四八番の両内容を合したるもの」健之助・勝蔵 中山新田村両組衆中宛 慶応三年

堅
一通さ 一四

入有旅村開発人惣代連名誓書下案「芝生立まで年貢粉一斗を差出すべき旨」 健之助・勝蔵 中山新田村両組衆中宛 明治二年六月

豎 一通さ 兎

入有旅村名主・開発人惣代等連印請書「中山新田村との済口書面に、芝切取場所の年貢を今一ヶ年分差出との一項の追加を同村より要求。藩側の要請にて承服するも後日に困難生ぜざるよう取計れたき旨」 名主佐左衛門ら五名 広土掛り役所宛 明治二年七月

美 一綴さ 四

新池築立紛議一件済口差上証文「入有旅村より切取の芝生立まで年貢粉一斗を納入のこと等」 中山新田村両組三役人・頭立、入有旅村開発出作人惣代・名主等、立入人一七名 広土掛り野中喜左衛門宛 明治二年七月

美 封紙 一綴さ 四

中山新田村騒動参与者名面「犬石組名主五郎兵衛以下九名、競石組名主弥重郎以下一三名」

切継 一通さ 四

溜池借地一件為取替証文下案「入有旅村にて新溜池築立のため中山新田村の分地八四坪を無心、この年貢粉一斗五升を同村より納入すべき旨」 中山新田村両組三役人・頭立惣代等八名 入有旅村役人中宛 明治二年六月

豎 一通さ 五

溜池借地一件為取替証文下案「五〇番に同じ。修正付箋あり」 同前 同前宛

豎 一通さ 五

入有旅村開発人惣代・名主等連印届書「中山新田村との為取替証文の写。五〇番に同じ。」 惣代勝蔵ら七名 広土掛り野中宛 明治二年八月

美 一綴さ 四

○明治二年 小嶋田村犀口入料免除願一件

小嶋田村釜屋・荒尾両組惣代連名歎願書写「同年六月付の道橋奉行所宛の歎願書の写。両組は寛保二年の大水にて皆畑となり犀口分水を用いざるにつき、犀口入料の賦課を免除されたき旨」 惣代忠作・佐平・善蔵 郡奉行所宛 明治二年八月

美 一綴さ 一六

郡政副主事御尋物答書控「小嶋田村両組の犀口用水入料割合免除の件。同村のみ動高免除せば区々となり困難、示談を申論すべき旨」 二月

切継 一通さ 一五

郡政副主事御尋物答書控「犀口堰掛り村々入料割合の動高の件。東福寺・小森村は村高より堰入料動高が減、中沢村は動高が増にて不同の旨」 二月

切 一通さ 一六

東福寺村等三ヶ村犀口下堰入料動高一覧

切継 一通さ 一六

諸村犀口下堰入料動高一覧「上中下水鉋村、塚村、上下小嶋田村、上田藩領上布施村等、下堰用水掛りの諸村」

横長半 一綴さ 一三

犀口下堰入料動高一件草案「一六〇・一六一の草案」

一綴さ 一三

松代藩役人連名書状「犀口用水堰の枠立普請につき、請負人・材木山師への支払いのため御蔵方へ談ぜられたき旨」 甚左衛門・富之助軍兵衛宛 五月八日

切継 一通さ 一四

普請掛り郡政算師申上書「上堰操抜き用水路・土堤川表岸囲御普請の件。出願の村々より見積り費用のうち三五両出金の請書も提出の旨」 七月二〇日

切継 一通さ 一五

計政副主事御尋物答書「網嶋村等組合広土用水路水門建替の件。御普請見積り伺いの趣、余儀なきことゆえ聞済まされたき旨」 六月

切 一通さ 一六

松代藩役人連名申上書「犀口用水取揚げ御普請・諸所用水樋・渡船矧立の入用金明細、早急に下ヶ金ありたき旨」 中沢義市・春日千左衛門 已 (明治二年) 二月

切継

一通さ一六

玉井繁之助伺書 并 郡政副主事貼添「上今井村御普請入料につき、官札二百両の中借を聞済まされたき旨」 一〇月二三日

切継

一通さ一六

杵淵・小森村普請惣代等連印歟願書「犀口下堰水門等普請入料につき、材木代・人足賃金高騰ゆえ二七〇両余の下ヶ金ありたき旨」 犀口出役惣代山崎宇吉ら三名 松代県役所宛 明治四年七月

美

一綴さ一五

○明治三年
小市村操普請用水普請一件

郡政副主事申上書控「小市村用水普請入料につき計政方御答書面への見解。同村田方荒廃にて地位下りゆえ、年貢免相引き下げのうえ、用水は村力普請となすべき旨」 (明治三年五月二〇日)

切継

一通さ一五

小市村三役人・世話人連印願書「犀川よりの揚水困難にて田方壊滅。吉窪村より当村境まで六百間の操買堰を計画し、朝廷民部省より二百両の下賜金あるも不足につき、二千両の拝借ありたき旨」 名主龍蔵ら六名 倉田三之丞宛 明治三年六月

美

一綴さ一五

倉田三之丞用状「小市村用水普請の件、察当を致すもなお申立。余儀なく差上につき勘弁ありたき旨」 二人宛 六月二〇日

切継

一通さ一五

倉田三之丞申上書「小市村用水普請につき別紙の通り出願。千五百両を許可し、半金を御手充、半金を利付の拝借金となすべきやの旨」 六月

切継

一通さ一五

郡政副主事伺書「別紙倉田三之丞申立のうち七百両を拝借になし下されたく、自余は村方自力を申含めたき旨」 七月

切継

一通さ一五

郡政副主事伺書草案「一五三番の草案兼控」 (七月八日)

切継

一通さ一五

執政方達書「別紙伺書の件、七百両を一割五分の利付にて貸し下げ。但し当座三百両下げ、残りは操合わせ次第渡すべき旨」 郡政副主事宛

切継

一通さ一五

○明治五年
犀口床上ヶ普請入料一件

犀口床上ヶ御普請入用金請払写「明治五年五月付の元土木司大嶋平助の請払明細書、矢野唯見の申上書等の留」 (明治五年五月)

半

一綴さ一五

犀口床揚御入用金請払写 大嶋平助 壬申五月一九日

半

一綴さ一五

矢野唯見申上書「大嶋平助、明治元年以来犀川床上普請掛りのところ国役普請掛りへ転役の際、行違ひにて四三両の下ヶ金不足出来の由、同人申聞の旨」 一月

切継

一通さ一五

郡政算師申上書 并 草間一路貼添「犀川床上ヶ仕越普請につき至急に中借金ありたき旨」 二月二八日

切継

一通さ一五

中澤義市用状「犀口普請流失分の四九両余は何方の出金やの旨問合」 倉田三之丞宛 六月 日

切継

一通さ一六

郡政副主事伺書「湯田中・沓野両村用水につき館三郎の別紙申立の件伺い」 十二月

切継

一通さ一六

郡政副主事申上書草案「両村の辛勞維持の大沼池等、中野支配となりては歎わしき旨」

切

一通さ一七

袋「用水堰被下金一卷内伺入。二二二・二二五番在中」	一点さ三二	伊勢町伝兵衛等二名連印内水願書「裏柴町の抱屋敷へ内水願ひ」願人伝兵衛・西木町肝煎元治水道役所宛 文政八年十一月	堅	一通さ六
川合村荒所開発場坪数并開発場絵図「御拝借金一五〇両にて五万坪余の開発完了」	一綴さ三三	柴町喜兵衛内水願書「南水路流水を住居内へ引水。不浄禁止、旱水時内水停止、等の誓約」(奥書、肝煎全兵衛) 水道奉行所宛 天保五年四月	堅	一通さ六
新田川合村荒所開発場坪数并開発場絵図「一七万坪余開発計画のうち八万坪余完了」	一綴さ三三	大林寺地中嘉兵衛内水願書「南表流水からの引水」(奥書、肝煎太三郎) 同前宛 天保七年四月	堅	一通さ七
四ツ屋村荒所開発場坪数并開発場絵図「開発場一万八千坪余、費用金三二両余」	一綴さ三四	柴町末南小路市郎治等連印内水願書「同前」市郎治・又右衛門(奥書、肝煎喜兵衛) 同前宛 天保一〇年七月	堅	一通さ七
勘定役連名申上書草案「小松原村莊兵衛、復旧川除普請に出精ゆえ頭立の身分を許され旨」(春日) 儀左衛門ら二名 六月	一通さ三五	柳沢喜代治組彦左衛門内水願書「自分屋敷へ鈴木家用水の流末を引水」 同前宛 万延元年四月一日	堅	一通さ七
上水道		西木町忠左衛門内水願書「曲輪用水の当屋敷内への引水」(奥書、抱屋敷役代与右衛門) 水道奉行所宛 天保八年八月	堅	一通さ七
坂口佐平太等二名連印上水証文「柴町下境北河原池、御曲輪用水の水上につき入念管理」 坂口佐平太・一色平八 道橋方中間茂右衛門宛 寛延三年七月	一通さ二六	三輪徳左衛門用状「新代官町と西条村への用水分流」 完人・内蔵助・清美・旗之助宛 七月二十四日	切	一通さ七
山寺庄左衛門等二〇名連印請取証文「竹山町用水樋のため本丸泉水の古樋一挺払い下げ」 石野庄七・長谷川四郎治宛 宝暦二二年閏四月	一通さ二八	三輪徳左衛門用状控「九七番用状の別案」 同前宛	切	一通さ六
同心町町役人連印願書「同心町の堀浚普請願ひ」 肝煎和平・組頭又左衛門 水道奉行所宛 寛政八年四月	一通さ二八	源蔵用状「西条村田方用水不足につき同心町上用水の夜中拝借願ひ」 水道方宛 (文政九年) 五月二十六日	切	一通さ六
外田町源右衛門・町役人等連印託状「表流の御用水へ麦ぬかを流し入れ」 源右衛門・同組合惣代吉右衛門ら四名 水道奉行所宛 文化一二年九月	一通さ二七	源五左衛門用状「西条村同前件、馬場町上堤水の夜中拝借願ひ」 水道方宛 五月二十九日	切	一通さ二〇
紙屋町五人組惣代連印誓書「用水口せき留の不埒一件、当水下組合に犯人なき旨」 金作・新五郎 名主戸佐久・長町人久作宛(奥書、戸佐久・久作より水道奉行所宛) 文政二年二月	一通さ二六	道橋方用状「清野村よりの別紙出願、許可」 水道方宛 六月二三日	切	一通さ二〇

源五左衛門用状「早魃につき一八日頃まで村方へ樋口を総て開放」水道方宛 六月一四日	切継	一通さ二三
介作用状「同前件、西条村へ同心町上池水の夜中拝借願い」水道方宛 六月二二日	切	一通さ二三
源五左衛門用状「同前件、西条村へ馬場町上堤水の夜中拝借願い」水道方宛 六月二九日	切	一通さ二四
介作用状「同前件、西条村田水引取りの神田川并同心町上堤引下げ願い」水道方宛 八月五日	切継	一通さ二五
佐久間衛守用状「馬場町用水の西条村へ分水の件、昼間もなすは先日の返事と異なる旨」塩野完示・谷口民馬宛 七月九日	切継	一通さ二二
水道方役人連名用状「柘植氏より水一件にて別紙提出。存慮如何」完人・内蔵助・清美・旗之助徳左衛門宛 七月二三日	切継	一通さ二三
水道方役人連名用状「西条村へ三分一の分水の件」徳左衛門宛 一〇月	切継	一通さ二三
水道方役人連名用状「一二三番の正文」同前宛 一一月	切継	一通さ二四
某用状「西条村へ三分一、代官丁へ三分二の分水と両御役方にて評議之旨」	紙片	一通さ二五
池田平角書状「自分門前の水道滞り、下方用水差支えの件」塩野完示・金井彦右衛門宛 六月二三日	切	一通さ二六
徳島八左衛門等連名願書写「屋敷火の用心のため馬場町用水より引水」徳島・志村友之丞ら七名相沢嶋右衛門・湯本十学宛 (亥年) 三月	切	一通さ二七
宮沢丹下等連名用状「御泉水漏水につき各種用水を半途より分水の旨」宮沢・小林奥左衛門 七月一八日	切	一通さ二八
佐藤三九郎等連名用状「同 前」佐藤・水野房五郎 七月一〇日	切	一通さ二九
白川寛藏書状「表流用水の自分屋敷への引水。用水保全の誓約」水野房五郎・山本権平宛 (天保九年カ) 一〇月一四日	切継	一通さ二〇
伝兵衛抱屋敷役代等連印願書「御曲輪用水の揚口普請願い」役代周三郎・組惣代忠左衛門・元治水道方役所宛 天保一四年九月	堅継	一通さ三
西木町役代詫証文「当組にて下水掃除の際、用水川筋へ塵を混入」役代平兵衛代印祖吉 同前宛 嘉永五年二月	堅	一通さ四
井戸・井桁見積直段書「石井戸、石井戸一ハヶ所の代金一七兩一分」紙屋町喜左衛門 同前宛 (袖印形、成沢勘左衛門・瀧川源五兵衛) 卯年四月	堅継	一通さ五
清野村三役人願書「神田川枯渇につき御泉水を明七日より二日まで拝借の旨」名主伴右衛門ら四名 同前宛 戌年六月	堅	一通さ六
森兎毛書状「屋敷内への内水引入れ許可。内水出入りの保全」落合重藏・竹内小左衛門宛 文化二年九月二五日	切	一通さ七
大嶋広江等連名書状「隣家も同意ゆえ内水を取入れたき旨」大嶋・河原与市・宮嶋友之進・宮下民馬 小林奥左衛門・佐藤三九郎宛 (文政八年) 四月一四日	切	一通さ八

平林縫殿進等連名書状「屋敷内水の件、御用番間 濟みとなり忝なき旨」 平林・中川忠右衛門・松 村喜兵衛 佐藤三九郎・水野房五郎宛（文政九年） 齋藤善藏書状「屋敷内水許可につき保全方誓約」 佐藤・水野宛（文政一〇年）三月二二日	切繼	一通さ 三六	池田平角書状「干水につき、私方堰普請出来にて 水道疎通まで内水停止のこと承知」 塩野・金井 宛 八月二一日	切繼	一通さ 三六
遠藤五郎右衛門書状「同 前」 水野・山本権 平宛（天保八年）四月一八日	切繼	一通さ 三七	富岡孫三郎書状「自分屋敷へ是迄通り内水引入れ たき旨」 落合・竹内宛 正月二八日	切繼	一通さ 三六
志村友之丞等連名口上覚「沢十右衛門方の水道を 絵図面通り、私共屋敷まで引入れ」 志村西沢右 門 齋藤治右衛門・相沢嶋右衛門宛（戊午）八 月	切	一通さ 三三	金井長三郎等連名書状「門前の用水を内水に引入 れたき旨」 金井・恩田十郎兵衛 竹内小左衛門・ 瀧沢音門宛 五月一五日	切	一通さ 三七
草間一路用状「河原舎人屋敷東の曲輪掛水道より 内水取りの件」 右兵衛宛 二月五日	切	一通さ 三三	矢嶋源二左衛門等連名書状并返書控「龍泉寺へ 用水十分一の水頼入れの件」 矢嶋・高山平十 郎ら四名 宮下嘉平太・山中見弥宛 九月三日	切	一通さ 三六
某用伏案「池田平角内水につき堰筋埋立ての件、存 念問合わせ」 七月一九日	切繼	一通さ 三六	宮本慎助書状「屋敷内へ神田川分水引入れ」 山 本権平・三井栄助宛 九月二六日	切繼	一通さ 三三
藤田文蔵書状「自分屋敷への内水取入れの件、依 頼」 山本権平・三輪徳左衛門 四月二七日	切繼	一通さ 三六	高山平十郎等連名書状「私共用水一切参らず、龍 泉寺の落水を制限されたき旨」 高山・河野与左 衛門・保科内蔵太 宮下嘉平太・石野伝蔵宛 六 月四日	切	一通さ 三三
松村喜兵衛書状「今後内水は先年通り平林友助方 へ差遣わしの旨」 水野・山本宛（天保七年） 八月八日	切	一通さ 三〇	某左金太書状「自分屋敷内水の件、宜しく頼 入 れ」 水野房五郎宛 九月一五日	切	一通さ 三三
平林縫殿進等連名書状「松村方より内水取入れ、 千喜良方より本川へ戻したき旨」 平林・中川清 右衛門・千喜良民之助 塩野・金井宛 八月九日	切繼	一通さ 三三	松村五太夫書状「屋敷内水、表流用水から直接取 入れたき旨」 三輪清左衛門・山本権平宛 四月 一六日	切	一通さ 三三
中川忠右衛門書状「平林方の用水、千喜良方へ遣 わすを止め、自分屋敷より本川へ差戻し」 佐藤・ 水野宛 三月二二日	切	一通さ 三三	村田成瀬書状「表流用水から自分屋敷へ分水致し たき旨」 落合・竹内宛 二月	切	一通さ 三三
本条孫之丞書状「自分拝領屋敷へ町内の用水引入 れ願ひ」 平林縫殿進宛 九月二一日	切	一通さ 三三	山口助太郎書状「屋敷内水、今後は表用水へ落と す旨」 三輪・山本宛 四月一六日	切	一通さ 三七
			千喜良三吉等連名書状「是迄は中川方より引水す るも、今後は表用水から引入れ」 千喜良・星野 清之助 佐藤・水野宛 三月二二日	切繼	一通さ 三六

小野斎二書状「屋敷用水の懸り口を東の方へ引替え」 竹内・瀧沢宛 二月二六日	切継	一通さ三六	御奥元々・御守役連名伺書「城内井戸払底につき御奥井戸一ヶ所増したき旨」 六月	切継	一通さ三三
宮崎清左衛門書状「隣家大嶋方より引入れの水道逆流」 竹内宛 二月八日	切継	一通さ三六	某申渡覚書「赤沢助之進屋敷への引水の件」	紙片	一通さ六
河口利右衛門口上覚「自分屋敷内へ水道取入れたき旨」 塩野完示宛 四月七日	切継	一通さ六二	桶屋町甚右衛門等連印歎願書「水道方の用水取扱いの件」 甚右衛門・組合清兵衛（宛所不明） （年不明）二月	堅継	一通さ三
白井平左衛門口上覚「同 前」 塩野・金井宛 二月	切	一通さ三三	馬場町末同心町役人連印願書「同心町上境埋れ、普請ありたき旨」 水道奉行所宛（年月不明）	堅	一通さ五
柳沢彦三郎口上覚「同 前」 相沢嶋右衛門・湯本十学宛（亥年）四月	切	一通さ三〇	足軽文蔵口上覚「自分屋敷へ水道を引入れたき旨」 同前宛 四月一八日	堅	一通さ三三
渡辺友右衛門等連名書状「同 前」 渡辺・関根嘉膳 同前宛 六月二日	切継	一通さ六四	三日月御堀堰樋入料積り書	切	一通さ二五
片岡半十郎書状「同 前」 金井・塩野宛 五月一〇日	切	一通さ六六	樋口紀八郎書状「隣家与良弥門方の水道、私方へ流入せず迷惑の旨」 佐藤三九郎宛 一〇月二八日	切継	一通さ二七
窪田岩右衛門書状「同 前」 同前宛 五月二八日	切	一通さ六二	与良弥門口上書取「樋口方の雪隠の位置変更あらば用水遣わす旨」 （佐藤三九郎） 二月五日	切継	一通さ二五
藤岡善左衛門書状「内水出願の件、却下のこと承知」 金井彦右衛門宛 三月一三日	切継	一通さ六五	与良弥門書状「水道切落しの件、樋口には再度断わりたる旨」 佐藤宛 二月七日	切継	一通さ二五
金井織江書状「屋敷内水の取入れ口の変更」 平林縫殿進宛 七月一三日	切	一通さ六七	樋口紀八郎書状「与良方との紛儀の調停依頼」 佐藤三九郎・水野房五郎宛 二月一八日	切継	一通さ二四
藤井彦九郎等連名書状「同 前」 藤井・宮下八郎左衛門・金井織江 同前宛 同日	切継	一通さ六八	与良弥門書状「樋口との和談不調のときは用水を水上にて切落とす由、不承服」 同前宛 二月二〇日	切継	一通さ二五
石倉金右衛門書状「内水取入れ口の変更」 平林宛 八月一三日	切	一通さ六〇	樋口・与良両屋敷水道絵図	堅	一通さ二五
古川健治口上覚「内水を石倉方へ差遣したき旨」 八月	切継	一通さ二六	飯島・与良両屋敷水道絵図	小紙	一通さ二七

佐久間衛守等連名書状「西条村へ分水の馬場町用水、昼間も水不足にて迷惑」 佐久間・成沢縫殿右衛門ら四名 塩野完治・谷口民馬宛 六月晦日	切継	一通さ一三
村田成瀬書状「当町用水堰、逆水につき堀割普請願い」 落合重蔵・竹内小左衛門宛 六月二八日	切継	一通さ一七
大手御堀南土手置上 并御水道筋堀替等普請積り弥兵衛書状「用水一件につき水道方へ申遣しの手紙の件」 嘉兵衛宛 一月三日	切継	一通さ二〇
平林縫殿進書状「松村方の用水を通し、中川方へ差遣し」 佐藤・水野宛 三月二日	切	一通さ二七
某御尋物答書控「大宝村用水堰出来につき道橋方より御賞筋申立の件。一代羽織御免」 四月	切継	一通さ二二
成沢元之助等連名書状「私共屋敷添表堰につき清野村より引水願い」 成沢・河口要吉・花岡兼左衛門 塩野・谷口宛 六月二五日	切継	一通さ二〇
嘉兵衛書状「代官町上用水の相談のため当方役所まで出向かれたき旨」 水道方宛 七月一七日	切継	一通さ二五
三輪徳左衛門書状控「吞用水へ田水引入れの是非」 藤蔵宛 七月二八日	切継	一通さ二九
湯本十学書状「一町用水の浄不浄は不明なれど田水が笹堀へ流入は明らか」 徳左衛門宛 七月晦日	切継	一通さ二六
某書状「一件用水は田へ入らざる前の浄水の由承り安堵」 徳左衛門宛 八月二日	切継	一通さ二八
樋口与兵衛等連名書状「龍泉寺地中分水場、石土居に仕直し」 樋口・小川瀧治・中村左膳 佐藤・水野宛 八月一八日	切継	一通さ二四
水道奉行廻状「家中屋敷境堰曲根等の修繕、用水保全につき入念糾すべき旨、用番家老より仰渡」 (明和六年) 二月	切継	一通さ一五
水道奉行連名廻状「御泉水掛り減少につき用水を分水」 佐藤・水野 真田家中宛 (文政一〇年々) 六月八日	切	一通さ一三
水道奉行連名廻状「同前件、各方内水掛口を暫く引払いの旨」 同前 同前宛 (天保三年七月一日)	切	一通さ一六
水道奉行連名廻状「同 前」 宮下丹下・小林奥左衛門 同前宛 七月一八日	切	一通さ一三
水道奉行連名廻状「同前件、湯本十学脇にて分水の旨」 金井彦右衛門・坂口利左衛門 同前宛 七月二〇日	切	一通さ一五
水道奉行連名廻状「旱天にて城内用水減少につき内水取入れ停止の旨、用番恩田頼母より仰せ」 堤右兵衛・山本権平 同前宛 (嘉永元年) 八月一日	切	一通さ一八
水道奉行連名廻状「立田玄迪宅にて人參製造につき用水保全」 山本・三輪 同前宛 六月二〇日	切	一通さ一八
水道奉行廻状「同 前」 村田新五兵衛 同前宛 七月一八日	切	一通さ一三
水道奉行廻状「用水保全のため屋敷方堰曲根等の修繕」 山本権平・(三井栄助) 三月	切継	一通さ一四
水道奉行廻状草案「同 前」 二月	切継	一通さ一七
家老仰渡書「家中屋敷の境堰曲根、内水など例年通り入念糾すべき旨」 二月	切継	一通さ三三
家老仰渡書「水路掃除のため見回り心付くべき旨」 水道役中宛 (文政九年) 一〇月一五日	切継	一通さ一五

清須町水道絵図	豎	一通さ二三	紺屋町近辺水道絵図	77×16cm	一鋪さ二五
清須町水道絵図	豎	一通さ二四	紺屋町近辺水道絵図	55×15cm	一鋪さ二五
武家屋敷地水道絵図	56×51cm	一鋪さ二三	代官町近辺水道絵図	61×139cm	一鋪さ二五
松代城曲輪近辺水道絵図	豎	一通さ二六	代官町近辺水道絵図	59×108cm	一鋪さ二五
紺屋町近辺水道絵図	豎	一通さ二七	関屋川分水場普請箇所絵図	31×49cm	一鋪さ二六
小六院近辺水道絵図	豎	一通さ二五	臥樋普請箇所絵図	45×62cm	一鋪さ二六
西木町水道絵図	豎	一通さ二六	用水堤通路境界絵図	68×10cm	一鋪さ二六
長刀堀近辺水道絵図	豎	一通さ二三	看町・鍛冶町五ヶ町名主奉行宛	五通さ二五	
武家屋敷地水道絵図	39×15cm	一鋪さ二〇	水道絵図		
長刀堀近辺水道絵図	豎	一通さ二五	水道役		
代官町近辺水道絵図	豎	一通さ二三	水道役申付書	140	継一通け二〇七
武家屋敷地水道絵図	豎	一通さ二三	申付書	141	
御馬場近辺水道絵図	小紙	一通さ二四	村田善助挨拶返書	141	一通け二〇八
武家屋敷地水道絵図	豎	一通さ二五	書		
袋「御泉水掛并御曲輪其外水道一式絵図面入。」	一点さ二五		水道役申付書	宿紙162	一通け二〇九
野房五郎	文政九年三月		太・石野伝蔵	宿紙145	一通け二一〇
武家屋敷地水道絵図	86×116cm	一鋪さ二五	水道役所廻状	123	一通け二一一
古土手敷絵図	86×91cm	一鋪さ二五	水道役所廻状		
清洲町近辺水道絵図	24×56cm	一鋪さ二五	水道役所廻状		
臥樋普請箇所絵図	92×120cm	一鋪さ二五			

京坂役場

巳年京地発火一件書類〔明治二年三月一九日京東山の山内唯七下宿にて火薬暴発し近隣に死傷七人六月九日に大塚村政吉夜番中用心銃暴発して通行人致死の両件〕

四束け二〇三

1 館三郎申上書〔二件総括報告〕	戊一二月	158	一通
2 館三郎申上書〔二件御賞調并名面〕	戊一二月	161	一通
3 館三郎内々申上書案〔怪我人報告〕	三月二〇日	158	一通
4 長谷川平次郎用状〔差出書面につき意見〕	三月二七日	180	一通
5 松代藩公用人届書下書 長谷川平治郎 弁事宛	三月	178	一通
6 怪我人 并 看病人御賄被下人数書出		159	一通
7 小林太一郎用状〔看病人差出人数報告〕	館三郎宛 三月二四日	宿紙 158	一通
8 出役町役人名面扣〔三月一九・廿日出役〕		166	一通
9 届書扣〔武具方手付助善吉死去届〕	三月二〇日	161	一通
10 武具方手附届書〔同前〕 割番所宛	三月晦日	宿紙 157	一通
11 館三郎申上書扣〔怪我人病状報知〕	三月二〇日	162	一通
12 吉原一庵書状〔松之助娘ふじ死去始末〕	四月四日	168	一通

13 三浦健左衛門書状〔主人賀川武蔵介診察要請の返書〕	駒村佐十郎宛 四月六日	165	一通
14 吉原一庵書状〔松之助女房容躰急変ニ付帰宅要請〕	山内唯七宛 四月七日	159	一通
15 書状下書〔急往診依頼 館三郎より賀川武蔵介宛カ〕	四月七日	160	一通
16 賀川武蔵介書状〔施薬指示及往診予定〕	館三郎宛 一四日	150	一通
17 賀川武蔵介書状〔同前〕	同前宛 四月一八日	163	一通
18 館三郎申上書案〔賀川武蔵介へ被下物之義〕	五月	横折 124	一通
19 駒村佐十郎内願書〔館三郎滞京中御賞筋〕	一一月	173	一通
20 館三郎添書〔飛玉一条書類提出添書〕	戊一二月	159	一通
21 館三郎申上書〔六月一件総括報告〕	戊一月一八日	156	一通
22 松代藩公用人届書下書〔六月事件届〕	長谷川平治郎 京都府役所宛 六月九日	162	一通
23 館三郎差出書下書 同前宛	六月一〇日	163	一通
24 館三郎申上書扣〔飛玉一条御調手続報告〕	八月二〇日	140	一冊
25 刑法官呼出状 真田信濃守公用人宛	七月九日	176	一通
26 館三郎差出書案〔飛玉一条風聞弁論〕	刑法官宛 七月五日	173	一通

27 松代藩公用人申上書扣 刑法官役所宛 八月二日	180	一通	
28 下京廿八番組年寄断書 館三郎宛 明治二年三月一九日	242	一通	
29 下京廿八番組年寄断書 京都政府宛 明治二年三月一九日	242	一通	
30 下京廿八番組年寄口上書〔松之助娘ふじ死去を京都府へ届出の取扱〕 明治二年四月三日	245	一通	
31 遊行前北側町年寄口上書扣 京都政府宛 明治二年四月三日	244	一通	
32 ふじ葬式差出一札写 長行寺 金光寺宛、北側町年寄 金光寺宛 明治二年四月三日	249	仮一冊	
33 ふじ葬式差出一札写 同前 同前宛	251	一通	
34 館三郎申上書扣〔ふじ死去取扱〕 四月五日	251	一通	
35 越中屋松之助請一札〔居宅修復、養育料等請取〕松代役人宛 明治二年六月二六日	252	一通	
駒村佐十郎・長岡茂市用伏 六月中京都人料凡積取調帳共〔京都役場財政事情〕 酒井市治・水野清右衛門宛 五月二九日	横125 152	仮一冊 一通	け一〇〇
前島友之進申上書〔四日夜半京都表騷擾報知〕 一〇月六日	154	一通	け一〇一
前島有年申上書〔京都表引拂ニ付藩邸処分及諸借入金返済方等送り〕 一二月	177	一通	け一七七
関田恭蔵用状別紙〔大坂表切迫事情を説明して送金依頼〕 酒井市治・水野清右衛門宛 閏一〇月一〇日	199	一通	け一七九
京坂借入金元利滞高取調書 関田恭蔵 明治四年	229	仮一冊	け一八四

村 町 方

村 方 騷 動

○天明五年

牛嶋村大豆嶋村論所一件

封筒「牛嶋村大豆嶋村地論之事。九二六・九二七番在中」 小川多次 午(天明六)年六月

封紙「牛嶋村、大豆嶋村より提出書付の封紙」

牛嶋村大豆嶋村論所一件書付綴

1 見分出役連名申上書「双方気向、落着の次第調査復命」 三輪六十郎・菊池伊惣治 巳七月

2 大豆嶋村牛嶋村三役人連印願書「争論場所の麦は両村立会いのうえ大豆嶋村で刈取りの旨」大豆嶋村名主伊左衛門・牛嶋村名主弥三郎ら六名 郡奉行所宛 天明五年二月

3 大豆嶋村三役人答書「宝暦年中の境目絵図に調印の件尋答。惣代の者心得違ひにて不調法の旨」伊左衛門ら三名 郡奉行所宛 天明五年七月

4 牛嶋村三役人・一件惣代等連印願書「麦作刈取りは大豆嶋村、よって当秋作は当村にて致したき旨」 弥三郎・惣代義兵衛ら六名 天明五年六月八日

5 牛嶋村三役人・案内人等連印申上書「明和六年の大豆嶋村地所改の絵図面写につき、方角相違もあり、本絵図を調べられたき旨」 弥三郎・義兵衛ら二五名 同前宛 天明五年七月

6牛嶋村三役人御訴書「大豆嶋村は無断にて麦刈を致したる旨」 弥三郎ら三名 同前宛 天明五年五月二十八日 堅 一通

7牛嶋村三役人・案内人等連印申上書「大豆嶋村より境目となす十九ヶ鼻の地名不審、吟味下されたきこと。他二件」 弥三郎・儀兵衛ら一五名 同前宛 天明五年八月一七日 堅 一通

8牛嶋村三役人・案内人等連印申上書「大豆嶋村提出の下絵図は本書と相違あるべき旨」 同前 同前宛 天明五年八月一八日 堅 一通

○寛政二年瀬戸川村
土地引請連印偽判出入一件

瀬戸川村七左衛門答書「三十年以前の件を今に出願のこと尋答。その節自分幼年にて力無きこと、当該証文は謀書なる旨」（奥書、組主惣右衛門） 代官所宛 寛政二年三月 堅 一通さ100七

瀬戸川村成就組権六答書「両対証文印判間違いの件尋答。古往間違いたるまま預け置の旨」（奥書、組主惣右衛門） 代官所宛 寛政二年三月 堅 一通さ100六

七左衛門答書「六太郎所持田地一石六斗余につき宝暦九年、与五兵衛の半分引受の願書に私の加判ある件尋答。与五兵衛の謀計、右田地は与五兵衛・権六・私の三人にて引受くべきもの」 勘定所宛 寛政二年五月 堅 一通 100六

瀬戸川村三役人申上書「権六と七左衛門は伯父甥ゆえ内済和談を試みるも不調の旨」 名主甚左衛門ら三人 勘定所元々役所宛 寛政二年一〇月一六日 堅 一通さ100九

七左衛門請書「権六持地に私より鋤入にて紛議。詮議完了まで一切手出し致すまじき旨」（奥書、三役人） 郡奉行所宛 寛政三年六月 堅 一通さ1010

七左衛門願書「謀書の証拠は自分印判は丸印なれど、これは六角印判のこと」（奥書、ナシ） 郡奉行所宛 寛政三年一〇月 堅 一通さ1011

○文化八一〇年
羽尾村境論一件

袋「羽尾村明德寺地境、同村九郎治相手取り境論一件。二二二、二二三番在中」 菅沼九右衛門 文 一点さ二三

職奉行連名添翰「地境一件、郡奉行所へ出願につき宜しく取計れたき旨」 竹内藤馬・金井縫殿丞 渡辺友右衛門・綿貫五郎兵衛・菅沼九左衛門宛 （文化八年） 一一月二八日 切 一通さ二三

職奉行連名用状「地境一件、郡奉行所の内済申渡に一同承服の旨、返報」 竹内藤馬・師岡七郎右衛門 同前宛 三月九日 切 一通さ二三

地境見分役連名申上書「境論証拠不分明につき双方より和談内済申立て。復命」 田中井右衛門・矢野倉直右衛門、立合伊藤小一右衛門 西（文化一〇） 年二月 横 一綴さ二四

羽尾村論所絵図「1. 地境見分絵図 2. 和談内済絵図」 1. 明德寺役代団右衛門・九郎治・村役人ら一二名 見分役三名宛 文化一〇年二月 2. 明德寺・九郎治・村役人・扱人ら七名 見分役宛 同年三月 131×104cm 一鋪さ三五

萱場売渡証文写「売渡し文言に「実正ニ無御座」と詭計」 売主長吉ら三名 佐右衛門宛 文政六年三月 堅 一通さ三七

萱場売渡証文写「同 前」 同前 同前宛 同年三月 堅 一通さ三六

○文化一四年
幕領・松代領作徳米出入一件

中之条代官所手代連署状「幕領今里村更級左門より松代領民の作徳米金滞りにつき江戸出訴の件。近領のことゆえ解決方打診」中島小太郎・松野平太郎 岡野弥右衛門・菅沼九左衛門・鹿野外守宛 正月晦日	切懸 一通さ 四〇元 封紙
中之条よりの米状 井左門申立写「四〇九番米状写、作徳米金の滞り人別・員数」文化一四年	半 一綴さ 四二〇
鬼無里村小作人・三役人連印請書「左門より預り地の作徳年貢滞り分、濟方承知の旨」仁左衛門・銀右衛門・太左衛門・三役人 郡奉行所宛 文化一四年二月	堅懸 一通さ 四二五
小鍋村小作人・名主等連印請書「同 前」太右衛門・請人・名主ら四名 同前宛 同年二月	堅懸 一通さ 四元
後町村小作人・三役人等連印請書「同 前」伝兵衛・清八・請人・三役人ら七名 同前宛 同年二月	堅 一通さ 四三
北上野村小作人・三役人等連印請書「同 前」七左衛門・請人・三役人ら六名 同前宛 同年二月	堅 一通さ 四三
鬼無里村小作人・三役人連印請書「同 前」佐平治・八郎兵衛・三役人ら七名 同前宛 同年二月	堅懸 一通さ 四三
下越道村小作人・三役人等連印請書「同 前」常右衛門・請人・三役人ら一〇名 同前宛 同年二月	堅懸 一通さ 四四
川口村小作人・三役人等連印請書「同 前」喜惣治・請人・三役人ら五名 同前宛 同年二月	堅 一通さ 四三
和平村小作人・三役人等連印請書「同 前」市郎左衛門・名代金左衛門・三役人 同前宛 同年二月	堅 一通さ 四六
柵越村小作人・三役人等連印請書「同 前」善五郎・名代弥兵衛・三役人 同前宛 同年二月	堅懸 一通さ 四七
中挟村小作人・三役人等連印請書「同 前」喜金治・名代嘉右衛門・請人・三役人 同前宛 同年二月	堅懸 一通さ 四六
吉窪村小作人・三役人等連印請書「同 前」太左衛門・請人・三役人 同前宛 同年二月	堅 一通さ 四元
下宇木村小作人・三役人連印請書「同 前」長右衛門・三役人 同前宛 同年二月	堅 一通さ 四〇
上松村質主・小作人・三役人連印請書「同 前」質主嘉左衛門・半兵衛・地預り伊三郎・松藏・三役人 同前宛 同年二月	堅 一通さ 四二
伊折村小作人・三役人等連印請書「同 前」市右衛門・請人・三役人ら七名 同前宛 同年二月	堅 一通さ 四三
久保寺村三役人請書「幸右衛門ら五名、同前」名主伊惣治ら四名 同前宛 同年二月	堅懸 一通さ 四〇
北長池村三役人御訴書「当村利惣治の左門方滞り分、今日皆済の旨」名主庄左衛門ら三名 代官所宛 文化一四年二月(六日)	堅 一通さ 四四
久保寺村三役人日延願書「幸右衛門ら五名の左門方滞り分の返済、当月二九日まで日延べ」名主伊惣太ら四名 郡奉行所宛 同年二月(六日)	堅懸 一通さ 四〇
下宇木村小作人・三役人連印日延願書「左門方滞り分返済、当月末まで日延べ」長右衛門ら四名 同前宛 同年二月	堅懸 一通さ 四五
上松村小作人・三役人連印日延願書「同 前」嘉左衛門・半兵衛・伊三郎・松藏ら七名 同前宛 同年二月	堅懸 一通さ 四六

吉窪村小作人・三役人等連印日延願書〔同前〕 太左衛門・請人善左衛門ら六名 同前宛 同年二月	堅	一通さ 四七	北上野村三役人届書〔左門方滞り分、昨七日に皆済〕 名主吉九郎ら三名 郡奉行所宛 同年三月（六日）	堅半	一通さ 四五
小鍋村小作人・名主等連印日延願書〔同前〕 太右衛門・請人幸藏ら四名 同前宛 同年二月	堅繼	一通さ 四六	後町村小作人・三役人連印届書〔左門方滞り分、昨日皆済〕 清八ら四名 小野唯右衛門宛 同年三月	堅	一通さ 四六
北上野村小作人・三役人等連印日延請書〔同前〕 七左衛門・請人弥惣治ら六名 同前宛 同年二月	堅	一通さ 四三	後町村小作人・三役人連印届書〔同前〕 伝兵衛ら四名 小野唯右衛門宛 同年三月	堅	一通さ 四七
長井村小作人・三役人連印日延請書写〔同前〕 仲七・三役人 更級左衛門宛 同年二月	堅	一通さ 四三	根越村三役人日延願書〔彦左衛門・兵右衛門は今日返済するも、弥兵衛はなお二五日まで日延べ〕 名主長左衛門ら三名 代官所宛 文化一四年四月九日	堅	一通さ 四七
長井村小作人・三役人等連印日延請書〔同前〕 仲七・請人卯八ら六名 郡奉行所宛 同年二月	堅	一通さ 四四	中之条代官所よりの来状 并更級左門訴状写	半	一綴さ 四二
小鍋村小作人・名主等連印日延届書〔左門方滞り分、なお来月一五日まで日延べ〕 太右衛門・請人惣三郎ら四名 同前宛 同年二月	堅	一通さ 四九	1 中之条代官手代連署状写〔左門方滞り分、二七人は返済するも四〇人は未済。左門の江戸出訴を許可の旨〕 中嶋・松野 岡野・菅沼・鹿野宛 三月一七日		
後町村小作人・三役人連印日延届書〔伝兵衛ら四名の返済、同前〕 伝兵衛・名主甚十郎ら七名 同前宛 同年二月	堅繼	一通さ 四三	2 今里村更級左門届書写〔松代領小作人滞り分和平村市郎右衛門ら一件内済〕 中之条役所宛 文化一四年三月		
伊折村小作人・三役人等連印日延届書〔市右衛門の返済、当月二五日まで日延べ〕 市右衛門・請人平左衛門ら七名 同前宛 同年二月	堅	一通さ 四三	3 今里村更級左門願書写〔松代領善五郎ら日延願いを繰返して埒明かず。江戸出訴願い〕 同前宛 同年三月一日		
伊折村小作人・三役人連印日延届書〔市右衛門滞り分七両余のうち今日二両余を持参するも左門受取らず。なお三月五日まで日延べ〕 市右衛門・名主利右衛門ら五名 同前宛 同年二月	堅	一通さ 四八	中之条代官手代連署状〔四二一番1の正文〕 中嶋・松野 岡野ら三名宛 三月一七日	切繼	一通さ 四四
上松村小作人・三役人連印日延願書〔二月末までの滞金返済不調。なお当月五日まで日延べ〕 半兵衛・嘉左衛門・半左衛門ら六名 同前宛 文化一四年三月	堅繼	一通さ 四六	松代藩郡方返書案詞〔中之条への返書二通分の案詞。難渋百姓ゆえ返済遅滞の段勘弁ありたきこと。太右衛門ら三名は皆済〕 郡方 中嶋・松野宛 三月一八日	横長半	一綴さ 四三
			中之条代官所との往復書状留	横長半	一綴さ 四三

1 松代藩郡方連署状案詞「此節滞り分すべて皆済の旨」 郡方三人 中嶋・松野宛

2 中之条代官手代連署状写「左門よりも皆済を届出のこと、安堵の旨」 中嶋・松野 岡野ら三名宛 五月一九日

○文化八―文政一〇年
網掛村諸上納滞り一件

袋「網掛村大八・三郎右衛門出入り一件訴答書類」

一点さ 癸元

網掛村六郎経兵衛・親類組合・三役人連印願書

「身代潰れにつき屋敷家財売却にて借金返済の旨」組合三郎右衛門ら九名 代官所宛 文化八年一〇月

堅継

一通さ 癸二

網掛村三郎右衛門答書「自分上納滞り分につき名主大八より訴訟の件。安永年中に大八親政野右衛門の過分取立てと相殺すべき旨」(奥書、三役人) 代官所宛 文政四年十一月

堅継

一通さ 癸三

網掛村大八答書「三郎右衛門方の過納一件は寛政年間に勘定相殺にてすでに和談」(奥書、三役人) 同前宛 文政八年十一月

堅継

一通さ 癸三

網掛村三郎左衛門答書「寛政年間の勘定相殺関係の帳簿等の吟味請求」(奥書、三役人) 同前宛 文政八年二月

堅継

一通さ 癸三

網掛村蔵本役替一件綴込伺書 (代官野村雄蔵宛) 文政九年十一月

一綴さ 癸六

1 代官野村雄蔵伺書「網掛村より別紙願出。三郎右衛門不法者にて吟味ありたき旨」 一一月

切

一通

2 網掛村三役人願書「三郎右衛門、入札にて当村蔵本に決定するも拒絶。同人召喚のうえ敵命ありたき旨」 名主十蔵ら三名 代官所宛 文政九年一〇月

堅継

一通

3 網掛村古蔵本茂左衛門願書「同 前」 同前宛 同年一〇月

堅継

一通

4 三郎右衛門親類組合連印答書「同前件尋答。同人強情申し立て迷惑の旨」 新八・恒左衛門 同前宛 同年十一月

堅継

一通

三郎右衛門親類組合惣代・三役人連印請書「三郎右衛門病氣申し立てにつき快気まで村預け」武兵衛・源五衛門・名主十蔵ら五名 郡奉行所宛 文政九年十一月十五日

堅継

一通さ 癸四

網掛村三役人申上書「三郎右衛門病気の件、医師久保良仙より別紙提出」 名主十蔵ら三名 郡方手附坂口惣三郎・内山忠治宛 同年十一月

堅

一通さ 癸五

上平村医師久保良仙容鉢書「三郎右衛門喘息病にて出頭困難」 坂口・内山宛 十一月二三日

切継
封紙

一通さ 癸四
一点

郡方手附連印申上書「三郎右衛門病氣申立ての件、別紙の通り」 坂口・内山 (郡奉行宛) 十一月一日

切

一通さ 癸五

三郎右衛門一件吟味覚書「蔵本拒絶など三郎右衛門不埒諸件の尋問心覚え」 (郡奉行)

切継

一通さ 癸六

三郎右衛門親類組合連印請書「三郎右衛門快気の節は早速御訴の旨」 武兵衛・源五右衛門 坂口・内山宛 文政九年十一月

堅継

一通さ 癸六

網掛村名主十左衛門御訴書「三郎右衛門病氣全快の旨」 代官所宛 文政一〇年三月二二日

堅

一通さ 癸七

三郎右衛門親類組合惣代・三役人連印請書「三郎右衛門、詮議中手鎖にて町宿預け」 新八ら五名 郡奉行所宛 同年三月(二十六日) 堅 一通さ 六

網掛村役人連印答書「白州吟味中に三郎右衛門、古名主十歳の病没時期につき錯誤の申上の件。吟味流しとされた旨」 名主十左衛門・組頭源五右衛門 同前宛 同年三月(二十六日) 堅 一通さ 六

紛議一件訴答・立入人・三役人連印願書「安永七年の年貢過納と文化年間の年貢滞りとの紛議、和談内済の旨。内済取極め事項」 願人大八・相手三郎右衛門・立入人・三役人ら七名(奥書、小宮山弥治兵衛) 郡奉行所宛 文政一〇年七月 堅 一通さ 六

年貢勘定紛議一件内済為取替証文「同前条件での内済取極め」 同前 同前宛 同年七月 堅 一通さ 六

三郎右衛門親類組合・三役人連印願書「三郎右衛門病氣申立て役所不出頭、しかも他行いたす不埒の段赦免方」 熊三郎・新八ら七名 見性寺・前典庵寺宛 文政一〇年八月 堅 一通さ 六

見性寺・前典庵寺連印歎願書「同前件、吟味赦免の旨」 郡奉行所宛 同年八月 堅 一通さ 六

○文政三―五年
上布施村松尾大明神紛議一件

上布施村松尾大明神紛議一件願書等写 半 一綴さ 〇三四

1上田領戸部村松尾神主田中長門願書「上布施村産神松尾大明神は往古より自分持宮なるを、同村にて村方持の宮と唱えるにつき糾明ありたき旨」 松代職奉行所宛 文政三年七月 堅 一通

2上布施村三役人答書「社内枯木の無断伐採、神主地所の小作枲を差留めたる段、一言申訳なき旨」 名主喜伝治ら三名 郡奉行所宛 文政四年十二月 堅 一通

3上布施村三役人答書「村方は扱人へ手切れを申立てるも、和談を模索にて日数経過の旨」 同前 職奉行所宛 文政四年十二月 堅 一通

4上布施村三役人申上書「一件内済のため中町東作・東寺尾村三郎治兩人扱いくれども、手切れの旨」 同前 職奉行所宛 文政五年一月 堅 一通

職奉行岡野弥右衛門用状「一件手切れにつき郡方にて吟味なさるや、または田中長門は他領人ゆえ添簡無き出訴として願書返却すべきや、この段相談」 金井左源太・岡嶋莊藏宛 一月晦日 切 一通さ 〇三三

郡奉行金井左源太用状「岡野用状には返書認め箱に入置くゆえ御覽ありたきこと、また神社除地に村方より手差し致すまじき旨」 岡嶋莊藏宛 二月一日 切 一通さ 〇三六

○文政三―六年
北高田村公事入用割合紛議一件

代官成沢文治伺書「北高田村伊兵衛、辰年御答蒙りて北小堀村へ引移り、そのち元村に対し公事をなす。手詮議不能につき書類差添伺い」 (郡奉行所宛) 十一月 切 一通さ 九三

北高田村五分一組願人団右衛門等連名願書「親伊兵衛に対し元組合より上様御手充金千三百両の差出要求。よって組合一同召喚のうえ糾明ありたき旨」 団右衛門・民右衛門・北堀村九兵衛 郡奉行所宛 文政三年十二月 堅 一通さ 九六

北高田村三役人・頭立小前惣代連印日延願書「御白洲での申渡に対する請書提出の日延べ願い」 名主吉兵衛ら五名 同前宛 文政五年十二月 堅 一通さ 九六

北高田村三役人日延願書「来春まで請書日延べ願い」 名主吉兵衛ら三名 同前宛 文政五年十二月二十五日 堅 一通さ 〇四〇

紛議一件訴答人連印請書「時分柄につき訴答人と
も連印人のみを残して帰村のこと」 訴訟人名主
吉兵衛ら五名・相手方小前惣代善右衛門ら三名
同前宛 年月欠

豎 一通さ 四二

紛議一件訴答人連印請書「上納方繁多につき来春
中吟味のこと」 同前 同前宛 文政五年二月

豎 一通さ 四三

北高田村紛議一件名前書「公事召喚者の名前書」
(郡奉行) 文政五年二月八日(同六年正月二
五日)

切 四通さ 四六

紛議一件立入人連印日延願書「内洛調停のため御
吟味延引ありたき旨」 東寺尾村三郎治・中町五
兵衛 郡奉行所宛 文政六年二月七日

豎 一通さ 四七

紛議一件覚書「地所出入りの公事夫銀、欠落・潰
百姓の引負夫銀などの処置方、同村村法など書上」

切 一通さ 四八

○文政四年、入山村
九左衛門借財紛議一件

入山村隆三郎・親類組合惣代・村役人連印申上
書「借財返済不能につき銅山堀子の処罰を動むべ
き旨」 名主三郎右衛門ら四名 代官所宛 文政
四年八月

横長半 一綴さ 四九

入山村七左衛門屈書「幕領西条村治太夫方へ書面
差し出し、隆三郎は病氣につき町宿に控えさせお
る旨」 代官所宛 同年一〇月一三日

豎 一通さ 五〇

1 西条村名主治太夫屈書写「自分親類隆三郎を
入山村新左衛門打擲し、名主も善処方を聞き
入れざる旨」 荒井平兵衛中之条役所宛 同
年一〇月

2 隆三郎親類組合惣代連印誓書写「隆三郎を
無事松代まで届けるにより、同人を引渡し
れたき旨」 七左衛門・惣左衛門 治太夫宛
同年一〇月一〇日

切 一通さ 五一

入山村市郎右衛門答書「先月二六日、自分宅にて
の隆三郎と新左衛門との話合の模様。兩名とも無
事に帰るたる旨」(奥書、名主・長百姓) 郡奉行
宛 同年一〇月

豎 一通さ 四六

入山村庄吉答書「同前件、自分は隆三郎の伯父ゆ
え同人に自重すべきを意見せし旨」(奥書同前)
同前宛 同年一〇月

豎 一通さ 四七

入山村新左衛門答書「隆三郎、自分を相手取り出
訴一件につき同人を打擲の儀一切なき旨」(奥書、
同前) 同前宛 同年一〇月

豎 一通さ 四八

隆三郎親類組合惣代・村役人等連印請書「隆三
郎吟味につき腰縄にて町宿預け承知の旨」 七左
衛門・町宿善兵衛ら五名 同前宛 同年一〇月
(二六日)

豎 一通さ 四九

入山村七左衛門請書「兄隆三郎病氣逆上につき私
へ腰縄にて御預け承知の旨」(奥書、村役人) 同
前宛 同年一〇月一七日

豎 一通さ 五〇

隆三郎腰縄赦免一件請書

豎 一通さ 五一

1 入山村七左衛門請書「今般隆三郎の腰縄赦免
にて私へ御預け承知の旨」 郡方手附忠治・
熊右衛門宛 同年一二月

2 入山村村役人奥書「同前件、有難き旨」 名
主林左衛門・長百姓甚右衛門

3 郡方手附役人奥書「同前件、執行のうえ請書
を取りたる旨復命」 忠治・熊右衛門

九左衛門潰一件立入人連印申上書「諸帳面詮議
のところ七左衛門は私欲非分なく、役元にて働く
べき者の旨」 同心町吉左衛門・妻科村幸蔵・新田
川合村吉郎右衛門 代官所宛 巳年(文政四)一
一月

切 一通さ 五二

九左衛門潰一件立入人連印申上書「潰一件内調のところ影山組清兵衛・大飼組林左衛門は正路の人物ゆゑ褒美下されたま旨」 同前 同前宛 巳十一月

切継

一通さ 四三

九左衛門潰一件立入人連印申上書「入山村は大村に過ぎて迷惑。村方の者、小村切りに年貢収納不納并済を願ひおる旨」 同前 同前宛 巳十一月

切継

一通さ 四四

立入人吉左衛門極内々申上書「九左衛門跡式借財を巡って親類の七左衛門と新右衛門対立。名主三郎右衛門と川合村吉郎右衛門が新左衛門と同腹ゆゑ村方混雜の元をなすこと等」(宛所ナシ) 一月

横長美

一綴さ 四五

入山村三郎右衛門請書「名主役勤め中の不取計の段は御情にて吟味流し、役前取上のこと承知」(奥書、長百姓甚右衛門・林左衛門) 郡奉行所宛 文政四年十一月

堅

一通さ 四六

九左衛門親類連印願書「九左衛門跡式の隆三郎の借財片付方」 入山村七左衛門・上ヶ屋村藤太(奥書、名主林左衛門・長百姓甚右衛門 立入人吉左衛門・幸藏) 同前宛 同年十二月

堅継

一通さ 四七

九左衛門親類連印請書「九右衛門家屋敷は親類兩名へ引上預け、隆三郎は七左衛門へ永預けのこと承知」(奥書、同前) 同前宛 文政五年閏正月六日

堅継

一通さ 四八

○文政六十九年、上小嶋田村
重右衛門父子所替赦免願い一件
封筒「一件勘定証文類 六通」 矢野倉惣之進 二月

一点さ 八二

上小嶋田村三役人・頭立等連印願書「重右衛門・幸右衛門ら九名紛議の因として村替を命じられるも一村平和のため破棄されたま旨」 名主団蔵ら六名 郡奉行所宛 文政六年九月

切継

一通さ 八三

上小嶋田村民蔵答書「重右衛門、御問書にて答を命じられるも、重病にて不能」(奥書、三役人) 郡奉行所宛 文政九年三月二二日

堅継

一通さ 八三

上小嶋田村村役人申上書「重右衛門容態見届けに參るも、女房の言に出頭不能の旨」 組頭兵左衛門ら三名 同前宛 文政九年四月九日

堅

一通さ 八四

上小嶋田村三役人・町宿連印請書「重右衛門女房のふ、詮議中町宿預け」 名主六郎左衛門・町宿忠左衛門ら四名 同前宛 文政九年四月二二日

堅

一通さ 八五

重右衛門子泰助・同親類組合連印請書「重右衛門申募り譲渡地所、早速片付くべき旨」 親類市右衛門ら三名(奥書、三役人) 同前宛 文政九年四月一六日

堅継

一通さ 八六

医師倉田長順容牒書「重右衛門子泰助の病氣は風邪、柴胡加桂枝湯を用いたる旨」 同前宛 戊辰四月一六日

切

一通さ 八二

中之条代官所役人連署添簡「下戸倉村本陣十郎右衛門、重右衛門家内居住を歎願の旨」 青津等右衛門・奥野右源太 岡野弥右衛門・石倉源五右衛門宛 四月二五日

切継

一通さ 八三

下戸倉村十郎右衛門・差添人等連印歎願書「極老の祖母と家内の者の小嶋田村居住。重右衛門と泰助も婦村許容ありたま旨」 十郎右衛門・牟礼村緇人浅右衛門ら四名 松代役所宛 文政九年四月

堅継

一通さ 八〇

下戸倉村十郎右衛門・差添人連印歎願書写「重右衛門より提出の答書文面は代官の差図によるものにて、御咎赦免ありたき旨」 十郎右衛門・差添人助右衛門 松代役所宛 文政九年四月

半 一綴さ 八四

下戸倉村十郎右衛門・差添人連印歎願書写「先の文面は役所を相手取りたるにあらず、不法の申立をなす名主六郎右衛門ら九名と対決したき旨」 十郎右衛門・差添年寄勝右衛門 松代役所宛 文政九年五月

半 一綴さ 八五

下戸倉村十郎右衛門訴訟一件覚書「八八四番訴状の各項目についての弁明」 (郡奉行岡嶋莊藏カ)

横長半 一綴さ 八三

上小嶋田村伝蔵等連印答書「地押改不正一件につき経緯説明。伝蔵ら五名の申口」 伝蔵・仁平・岩右衛門・藤治郎・伊左衛門 (奥書、三役人) 郡奉行所宛 文政九年五月

美 一綴さ 八六

地押改不正一件申口覚「寺院御朱印地引高を巡る不正。伝蔵・仁兵衛・伊左衛門と重右衛門との応答についての各人の申口」

半 一綴さ 八六

地押改不正一件申口覚「寺院御朱印地引高の取扱いをめぐる関係者の申口」

半 一綴さ 八七

下戸倉村十郎右衛門・差添人連印願書「重右衛門病氣快方につき小河原村新田へ引越したき旨」 十郎右衛門・勝右衛門 (奥書、組人浅右衛門・久兵衛) 文政九年八月

縦 一通さ 八九

上小嶋田村三役人御訴書「重右衛門病氣快方につき小河原新田へ引越し、女房は老母看病のため居村に暫く留まる旨」 名主六郎右衛門ら三名 代官所宛 文政九年八月三〇日

縦 一通さ 八六

上小嶋田村三役人・重右衛門親類等連印請書「一件申渡の請書。重右衛門不埒につき家内一同住居替を命ずるも、老母病身につき家内は居住許容」 名主六郎右衛門・与右衛門ら六名 文政九年九月 (一八引)

縦 一通さ 八七

○文政七・九年、上徳間村用水普請等入用紛議一件

袋「上徳間村訴答書類・伺書入。一〇一一番在中」 野村雄蔵 (文政九年)

一点さ 〇

上徳間村小前百姓連印一札「用水・川普請入用の村役人不正。御上への出訴費用は連印人数のうちより拠出すべき旨誓約」 伝吾・嘉助ら五九名 文政七年一二月

縦 一通さ 一

上徳間村重右衛門・同人親類組合連印請書「小前騒動の頭取にて荒所開発の処罰刑の件。赦免のこと」 重右衛門・親類柳左衛門・組合直左衛門 (奥書、村方三役人) 職奉行所・郡奉行所・道橋奉行所宛 文政八年一二月

縦 一通さ 二

上徳間村曾右衛門・同人親類組合連印請書「同前」 曾右衛門・親類銀右衛門・組合柳左衛門 (奥書、同前) 同前宛 同八年一二月

縦 一通さ 三

上徳間村三役人・頭立小前惣代連印願書「先年の紛議入用を頭取の重右衛門ら支払い拒否につき難渋」 名主左五兵衛・組頭亀三郎・長百姓伝右衛門ら六名 代官所宛 同九年二月

縦 一通さ 四

上徳間村亀吉・重右衛門連印願書「村役人に二重賦課の嫌疑。夫錢帳面の公開を命ぜられたき旨」 代官所宛 同九年二月

縦 一通さ 五

上徳間村小前無印惣代利右衛門答書「先年紛議の際、頭取から藩への願書を連印を求められるも拒否の旨。小前一九名を連記」 (奥書、三役人) 代官所宛 同九年一月

縦 一通さ 六

上徳間村伝左衛門・孫左衛門連印答書「先年紛議の連印に無印の理由尋答。帳下にて印形不所持、連印の趣旨には賛同ゆえ名前のみ記す旨」(奥書、三役人) 代官所宛 同九年二月	堅繼	一通さ	七
上徳間村龜吉・重右衛門連印請書「紛議夫錢の件、小前の者らの日割合にて勘定のこと承知」 郡奉行所宛 同九年二月	堅	一通さ	八
上徳間村三役人・小前惣代連印請書「夫錢一件につき仰渡の旨承知」 名主左五兵衛ら四名 郡奉行所宛 同九年二月	堅	一通さ	九
連印除小前百姓名前書「先年紛議の際、連印除を願いたる者の詳細類別」 上徳間村三役人 同九年二月	横長美	一綴さ	一〇
代官野村雄蔵伺書「小前のうち連印除の者の入用割合につき、三役人より出願の件取計方」 一月	切繼	一通さ	二
○文政八年 専納村政右衛門投込願書一件			
姓不詳又八郎書状「別紙書付、自宅門内に投込の旨」 岡嶋莊蔵宛 七月一三日	切	一通さ	二五
専納村小前百姓連印内々願書「小前の者ら政右衛門のために紛議難決。同人召出のうえ所替を命ぜられたき旨」 専左衛門・兵八 郡奉行所宛 文政八年七月	堅繼	一通さ	二六
専納村小前百姓連印内々願書「同 前」 同 前 大目付役所宛 文政八年七月	堅繼	一通さ	二七
○文政九年 保科村小作年貢引方騒動一件			
保科村小作人騒動一件書類		一綴さ	六八

1 郡方出役伺書断簡「保科村小前ら騒動一件、見分復命」 (吉沢十助・池田良右衛門) (郡奉行宛)	切	一通	
2 保科村三役人・頭立等連印答書「小作人ら悪作につき代官所へ引方歟願の旨」 名主八郎治ら八名 吉沢・池田宛 文政八年二月晦日	堅繼	一通	
3 川田村問屋・宿年寄連印申上書「小作引方紛議の詳細報告」 西沢又右衛門・健左衛門 同 前宛 文政八年二月晦日	堅繼	一通	
見分出役連名申上書「一件経緯復命。西沢ら別紙願出につき聞済まされるべきやの旨」 吉沢十助・池田良右衛門 一月晦日	切繼	一通さ	六三
家老恩田頼負差函書「騒動一件、村役人等閑ゆえ三役人を糾すべきや評議のうえ伺うべき旨」 金井左源太宛 正月七日	切繼	一通さ	六六
小作年貢引方之始末覚書「一件発端より騒動の経緯詳細」 文政九年二月	堅	一綴さ	六七
保科村町上組中間置届書「町下組小組頭義助らより当村宛の一札。上組藤太と五左衛門を下組へ編入の件」 (宛所ナシ) 文政九年二月	美	一綴さ	六八
吟味人親類答書「自分親武右衛門病氣容態尋答。大便不通、腹内不定にて横臥」 十郎治(奥書、三役人四名) 郡奉行所宛 文政九年二月	堅	一通さ	六九
武右衛門親類組合惣代・村役人連印誓書「武右衛門の病氣難決につき村方へ差戻したき旨」 治助・八郎治ら五名 郡方手附内山忠治・平井安右衛門宛(奥書、内山・平井) 文政九年二月一〇日	堅繼	一通さ	七〇
東川田村医師小泉玄貞容牒書「武右衛門ただ今の容牒にては召連れは困難」 内山忠治・平井安右衛門宛 二月一〇日	切繼	一通さ	七二

保科村藤太答書「当村の小作引方の相場勘定の規定につき尋答。このたび一件にては小作料一文も受取らざる旨」西沢又右衛門宛（奥書、西沢より代官所宛） 文政九年二月	堅継	一通さ八三	吟味人喜兵衛・三役人等連印請書「喜兵衛・金藏町宿預けのところ村下り許可」喜兵衛ら六名 郡奉行所宛 文政九年二月	堅	一通さ八三
小作人連印答書「悪作につき地主と小作年貢引方の交渉の次第説明」太吉・甚蔵ら九名 西沢又右衛門宛（奥書、西沢より代官所宛） 文政九年二月二二日	堅継	一通さ八四	吟味人親類組合惣代・三役人等連印請書「太源治・儀兵衛・定吉ら牢舎につき牢扶持を命ぜられ承知」久治郎・名主文助ら七名 職奉行所宛 文政九年二月一九日	堅継	一通さ八三
吟味人親類組合惣代・三役人等連印請書「太源治、詮議中手鎖にて町宿預け」太源治親類惣代久治郎・八郎治ら七名 郡奉行所宛 文政九年二月	堅	一通さ八三	吟味人親類組合惣代・三役人等連印請書「大吉吟味中・手鎖・腰縄にて村預け」彦五郎・文助ら六名 郡奉行所宛 文政九年二月	堅	一通さ八三
吟味人親類組合惣代・三役人等連印請書「大吉同前」大吉親類惣代彦五郎・八郎治ら七名 同前宛 文政九年二月	堅	一通さ八三	吟味人親類組合惣代・三役人等連印請書「儀兵衛・定吉・太源治、吟味中手鎖にて町宿預け」九野右衛門・文助ら一名 同前宛 文政九年二月	堅継	一通さ八四
太源治・唯吉連印答書「当組和十郎方にて藤兵衛・儀兵衛らの申立に従い町川田村まで出たること恐れ入る旨」郡奉行所宛 文政九年二月	堅	一通さ八六	高岡村小作人連印答書「一件荷担の有無尋答。当日小作勘定合に保科村へ出たところ、名前書留て帰村、相談には加わらざる旨」伊助ら九名（奥書、三役人）郡奉行所宛 文政九年二月	堅継	一通さ八五
吟味人親類答書「自分親武右衛門病気容態尋答。大便不通、腹内不定にて横臥」十郎治（奥書、三役人四名）郡奉行所宛 文政九年二月	堅	一通さ八六	一件答書綴 郡奉行金井左源太（家老宛）三月一日		一綴さ八四
吟味人親類組合惣代・三役人等連印請書「弥五右衛門詮議中、町宿預け」三郎右衛門・八郎治ら七名 同前宛 文政九年二月	堅	一通さ八四	1町上組小組頭利右衛門答書「当組小作人より一件への荷担人なし」（奥書、三役人）郡奉行所宛 文政九年二月	堅継	一通
吟味人親類組合惣代・名主等連印請書「長百姓重三郎詮議中、村預け」新五郎・八郎治ら五名 同前宛 文政九年二月	堅	一通さ八六	2瀧崎組小組頭園右衛門答書「同前」（奥書、三役人）同前宛 文政九年二月	堅継	一通
吟味人親類組合惣代・三役人等連印請書「喜兵衛・金藏子勘五郎、吟味中町宿預け」小右衛門・名主文助ら九名 同前 文政九年二月	堅継	一通さ八四	一件答書綴 職奉行石倉源五左衛門・郡奉行金井左源太（家老宛）三月		一綴さ八六
			1大吉答書 郡奉行所宛 文政九年三月	堅継	一通
			2保科村各組惣代答書 同前宛 同月	堅継	九通

3 重三郎答書 同前宛 同月	堅継	一通	吟味人・小作人地主惣代・三役人等連印請書 〔処罰申渡書。太源治・定吉・儀兵衛は持地欠所の うえ鬼無里村御林内の開発労働。地主惣代藤太は 叱。その他〕 太源治・文助ら三九名 職奉行所・ 郡奉行所宛 文政九年三月一八日	堅継	一通さ 八三
4 酉年名主八郎治等連印答書 同前宛 同月	堅継	一通	処罰人親類組合惣代・三役人等連印請書〔儀兵 衛・定吉・太源治、二三日まで手鎖にて町宿預け〕 丹藏・惣七ら一一名 郡奉行所宛 文政九年三 月一八日	堅継	一通さ 八六
5 酉年組頭利根吉答書 同前宛 同月	堅継	一通	処罰人親類・三役人連印請書〔太源治ら三人の山 詰中の賄いを親類にて致すべきこと〕 清六・惣 七ら一〇名 職奉行所・郡奉行所宛 文政九年三 月	堅継	一通さ 八六
6 保科村各組小組頭連印答書 同前宛 同月	堅継	一通	処罰人親類・三役人連印請書〔大吉、過怠夫とし て御蔵屋敷役大調役所へ引渡し、賄いは親類にて 致すべきこと〕 彦五郎ら五名 同前宛 文政九 年三月	堅	一通さ 八六
7 喜兵衛・金藏連印答書 同前宛 同月	堅継	一通	三役人・処罰人親類組合惣代等連印誓書〔定吉 ら持高欠所につき村方にて預り、年貢上納致すべ き旨〕 文助・惣七ら九名 和田忠左衛門宛 文 政九年三月	堅継	一通さ 八七
8 太源治親太野右衛門答書 同前宛 同月	堅継	一通	手代和田忠右衛門申上書〔儀兵衛と定吉の持地と 持山の欠所地明細書上〕 戌三月	切継	一通さ 八七
9 在家上組小組頭徳之丞答書 同前宛 同月	堅継	一通	処罰人親類・三役人連印願書〔吟味人親族悲嘆ゆ え赦免願い〕 藤太・五左衛門ら三名（奥書、三 役人） 代官所宛 文政九年三月（一六日）	堅継	一通さ 八七
一件吟味人名前書〔大吉、町下組小組頭儀助ら〕	切継	一通さ 八八	地主義右衛門等連印歎願書〔藤太同様、地主らも 赦免願い〕 義右衛門・七左衛門ら一六名（奥書、 三役人） 同前宛 文政九年三月（一七日）	堅継	一通さ 八八
一件頭取名前書〔久保組騒動発端、頭取武右衛門。 須釜組頭取儀兵衛、在家組頭取大吉など。頭立藤 太の申立て〕	切継	一通さ 八八	郡奉行金井左源太申上書〔小作相場引下げ一件は 小作人の増長にて地主に非分なき旨。別件隠れ酒 造事件の書付付属〕（家老宛） 三月	切継 付属	一通さ 八八 一通 八三
吟味人申口〔須釜組和四郎、町下組幸藏、町上組助 三郎らの申口〕	切継	一通さ 八八	郡奉行連名同書 并家老附札〔一件処罰案。大吉 は二〇〇日過怠夫、扶持方は親類賄い。重三郎は 役儀取上げ過料錢二貫文、その他〕 金井左源太・ 岡嶋莊藏 三月	切継	一通さ 八八
地主藤太・同親類連印歎願書〔吟味人親族悲嘆ゆ え赦免願い〕 藤太・五左衛門ら三名（奥書、三 役人） 代官所宛 文政九年三月（一六日）	堅継	一通さ 八八			
地主義右衛門等連印歎願書〔藤太同様、地主らも 赦免願い〕 義右衛門・七左衛門ら一六名（奥書、 三役人） 同前宛 文政九年三月（一七日）	堅継	一通さ 八八			
郡奉行金井左源太申上書〔小作相場引下げ一件は 小作人の増長にて地主に非分なき旨。別件隠れ酒 造事件の書付付属〕（家老宛） 三月	切継 付属	一通さ 八八 一通 八三			
郡奉行連名同書 并家老附札〔一件処罰案。大吉 は二〇〇日過怠夫、扶持方は親類賄い。重三郎は 役儀取上げ過料錢二貫文、その他〕 金井左源太・ 岡嶋莊藏 三月	切継	一通さ 八八			

処罰人大吉・同親類・三役人連印請書「過怠夫日数内なれど貞実につき赦免」彦五郎・文助ら六名 郡奉行所宛 文政九年七月（二十九日）

武右衛門答書「一件荷担有無尋答。居組より事発りたる段申訳なき旨」（奥書、三役人） 郡奉行所宛 文政九年七月二十九日

伊勢町宿周兵衛請書「太源治ら三名、下山のうえ町宿預け」 郡方手附内山忠次宛 文政九年一月一日

処罰人・同親類・三役人連印請書「定吉・儀兵衛、改悛につき下山」 定吉・惣七ら八名 郡奉行所・道橋奉行所宛 文政九年一月（二十二日）

処罰人・同親類・三役人請書「太源治、降雪時につき下山のうえ過怠夫」 太源治・久治郎ら六名 同前宛 （文政九年） 一月一日

処罰人・同親類・三役人請書「定吉・儀兵衛の欠所地・家財返還につき年貢上納」 定吉・惣七ら六名 同前宛 文政九年一月一日

○文政九一〇年
中牧村本郷由緒紛議一件

封筒「中牧村出入一件書類入、九二〇〇九二四番在中」 師田幾五郎

中牧村三役人・頭立連印申上書「郷絵図町数書上の件につき石津組と池田組は共に自村を元村と主張。先年の書上は池田組より致したること」 名主政右衛門ら五名 郡奉行所宛 文政九年七月

中牧村三役人別紙申上書「池田組より書上との文面（証拠不分明にて修正を命じられるも同村不承服につき、先月提出の書面を受納ありたき旨」 名主政右衛門ら三名 同前宛 文政九年八月

堅 一通さ 八〇〇

堅 一通さ 八〇〇

堅 一通さ 八〇〇

堅 一通さ 八〇〇

堅 一通さ 八〇〇

堅 一通さ 八〇〇

一点こ 九九

堅 一通さ 九三

堅 一通さ 九三

石津組中牧村願人惣代等連印願書「当村が元村たること証拠あり、町数書上は当村より命じられたき旨」 惣八・源重郎ら四名 文政九年一月

石津組中牧村願人惣代等連印答書「外組は石津組を元村と唱えおるやの旨尋答。中牧村の郷名所持のうえは一郷その心得なるべし」 惣八・源重郎ら三名 文政一〇年一〇月

池田組惣代連印答書「先年町数書上の証拠有無尋答。書上の控えはあれど当方に証拠は無き旨」 弁重郎・仁兵衛（奥書、三役人） 代官所宛 文政一〇年一〇月

○文政一〇年
杭瀬下村儀太夫質入地所一件

上山田村八郎右衛門・村役人等連印日延願書「杭瀬下村儀太夫より金百両を質地証文にて借用。返済を二月一〇日まで日延べ願ひ」 請人大八・口入重吉ら八名 郡奉行所宛 文政一〇年一月

上山田村八郎右衛門・村役人等連印日延願書「日延べ明けにつき返済致すため一七日まで延期ありたき旨」 名主勘右衛門・立入人三郎治ら九名 同前宛 文政一〇年一月

上山田村八郎右衛門・請人等連印答書「儀太夫より訴訟の件尋答。公訴となりても藩へ夫銀難用の無心せざる旨」 請人大八・口入重吉（奥書、村役人） 同前宛 文政一〇年二月

郡奉行岡嶋莊蔵用状「別紙儀太夫申立の趣に相違なきやの旨、問い合わせ」 十郎左衛門・勘助・諫宛 四月一七日

某内々同書控「上布施村田中原太、儀太夫よりの借用金一〇両の返済滞り一件。田中は並百姓の扱いや否や差図ありたき旨」（岡嶋カ）

堅 一通さ 九三

堅 一通さ 九〇

堅 一通さ 九四

堅 一通さ 二〇三

堅 一通さ 二〇三

堅 一通さ 二〇四

切 一通さ 二〇五

切 一通さ 二〇六

某内々伺書草案「一〇六六番の草案」

切 一通さ二〇七

某用状「田中原太身分の照会への回答」

切 一通さ二〇六

日記抜書「一〇六八番の付属文書。田中原太、天保四年七月に武芸出精につき御酒下され」

切 一通さ二〇六

○文政一一年
栃原村質地紛議一件

包紙「栃原村十左衛門質地取扱につき同村庄右衛門駈込訴」代官竹花庄左衛門 代官町御屋敷宛
文政一一年

一点さ三三

栃原村庄右衛門願書「自分祖父庄蔵、同村十左衛門より取置の質地、半金にて返還し当節残金を求めるも拒絶」郡奉行所宛 文政一一年一月

堅継 一通さ三三

栃原村庄右衛門願書「芝山書人にて十左衛門より金子借用の件」文政七年貢上納物の差配の件」同前宛 文政一一年四月

堅継 一通さ三四

庄右衛門諸願書留書「二三三・二二四番と同文願書など」

横長美 一綴さ三九

栃原村某内密申上書「十左衛門の悪行次第。若者共の腰押しをなして名主を困惑」

横長美 一綴さ三〇

麻畑質地証文写「麻高五斗九升余、代金四両」置主重左衛門・五人組・三役人 庄蔵宛 明和三年三月

堅 一通さ三五

金子借用証文写「麻畑を引当に上様拝借金を借用」十左衛門 庄蔵宛 明和八年一月二八日、安永四年二月二六日

堅 一通さ三六

○文政一一年
湯田中村御下ヶ金など不正一件

湯田中村戌年年貢勘定書「年貢の不足分・過納分につき人別と金額の書上げ。原告方より下札で反論」古名主彦右衛門（宛所欠） 文政一一年二月

横長美 一綴さ三三

彦右衛門借金勘定書「彦右衛門預かりの家屋敷代金、同人借金、無尽金の勘定書上」園右衛門後家たよ・九左衛門・三役人ら五名 郡奉行所宛 文政一一年三月一日

横長美 一綴さ三三

彦右衛門借金勘定書「彦右衛門の借財と同人の持高・地所・家屋敷の勘定明細」

横長美 一綴さ三三

湯田中村彦右衛門・同親類組合連印答書「御下ヶ金、分量金御用辻金、御無尽金割合の三件疑惑につき尋答。これら四郎役中のこと、下ヶ金は自分出府中に女房より金二分余を納入するも残余を等閑となし恐入。その他詳細弁明」 文政一一年三月

堅継 一通さ三六

湯田中村三役人・頭立・小前惣代等連印申上書「彦右衛門横領一件一四ヶ条申立。同人追放の旨」名主善右衛門ら二一名 郡奉行所宛 文政一一年三月

美 一綴さ三九

某申上書「彦右衛門公金横領一九件の風聞報告」（郡方手付カ）

横長半 一綴さ三〇

湯田中村三役人・頭立・小前惣代等連印申上書「年貢過納分を彦右衛門返還せず配符も出さざること。過納者九名連印」名主善右衛門ら一五名 郡奉行所宛 文政一一年二月

横長美 一綴さ三九

湯田中村三役人・頭立・小前惣代等連印答書「市ノ正家財物代金を彦右衛門取込み一件尋答。別紙受取証文の通りの旨」名主善左衛門・頭立与五右衛門・小前惣代儀左衛門ら一五名 郡奉行所宛 文政一一年二月

堅継 一通さ三七

湯田中村儀左衛門子平左衛門答書「彦右衛門より借金無尋答。同人の偽証、むしろ年貢過納金・無尽金など貸せども一向無沙汰の旨」(奥書、三役人) 同前宛 文政一一年二月九日 一通さ九六

湯田中村兵十郎願書「潰百姓甚右衛門の家財払物代金を預かるころ、その金額誤りて先日申上、また溜池普請の節に金一両を支出の旨」(奥書、三役人) 同前宛 文政一一年三月 一通さ九四

湯田中村八右衛門答書「弟彦右衛門の悪事存じおれども、等閑にして申上げざる旨」(奥書、三役人) 同前宛 文政一一年四月 一通さ九六

湯田中村彦右衛門親類組合・三役人連印請書「彦衛門不埒につき鬼無里村高小屋へ新田開発所替の旨」 親類兵十郎・組合伝蔵ら八名 同前宛 文政一一年四月一八日 一通さ九五

○天保二年
広瀬村直右衛門不埒出願一件

封筒「広瀬村頭立直右衛門、入山村七左衛門儀につき不埒の出願致し吟味のところ、寺院絶訴訟申立て。承済み、役元出席他行留申渡」 興津権右衛門 天保二年二月 一点さ二四四

広瀬村直右衛門・親類・三役人連印絶書「潰百姓七左衛門不埒牢舎のところ、直右衛門郡奉行所へ連印人偽造のうえ直訴致し、また町宿差控えのおり外出など不埒至極のこと」 親類新左衛門・名主新左衛門ら六名 松参寺宛 天保二年二月 一通さ二四七

広瀬村元組松参寺願書「直右衛門不埒赦免願ひ」 郡奉行所宛 天保二年二月 一通さ二四六

広瀬村直右衛門・親類・三役人連印請書「一件吟味流し、農業のほか役元出席并他行差留」 親類新左衛門・名主新左衛門ら六名 郡奉行所宛 天保二年二月六日 一通さ二四九

○天保三―一〇年
下真嶋村寅吉不法田畑譲渡一件

袋「下真嶋村寅吉不法田畑譲渡一件。七五六、七九九番在中」 天保一〇年 金児丈助 一点さ七五

下真嶋村三役人答書「寅吉、瀧治郎不行状一件尋答。寅吉の所払いを同人母より申立て困惑の旨」 名主佐文治ら三名 郡奉行所宛 天保三年九月(二九日) 一通さ六九

瀧治郎答書「親類らの異見により農業出精の旨」(奥書、三役人) 郡奉行所宛 天保三年九月(二九日) 一通さ七〇

寅吉答書「母の隠居料に一〇石遣し、自分持高二〇石は本家与右衛門に預けて同人の厄介となる旨」(奥書、三役人) 郡奉行所宛 天保三年九月(二九日) 一通さ六八

寅吉親類連印答書「寅吉の不行状は同人母の弟を偏愛するによる旨」 北村与右衛門ら八名(奥書、三役人) 代官所宛 天保三年九月晦日 一通さ六八

寅吉母親類組合惣代・三役人連印請書「寅吉母親類組合へ預けの旨」 重右衛門ら六名 郡奉行所宛 天保三年九月(一〇月一日) 一通さ七二

寅吉・瀧治郎等誓書写「寅吉らより親類一同宛のภายใน和合、農業出精の誓書の写」 北村与右衛門ら八名 代官所宛 天保三年閏二月 一通さ七五

寅吉親類并立入人連印絶書「寅吉より規定書差出しのうちは吟味流しにされたき旨」 北村与右衛門ら八名 代官所宛 天保三年閏二月 一通さ七五

寅吉・瀧治郎等誓書写「寅吉らより親類一同宛の誓書の写。ภายใน取締りの規定書遵守の旨」 北村与右衛門ら八名 郡奉行所宛 天保三年閏二月 一通さ七二

寅吉親類組合惣代・三役人等連印請書「寅吉、母きし、瀧治郎の吟味流し承知の旨」北村与右衛門ら八名 代官所宛 天保三年閏一月	堅繼	一通さ 五〇
北村与右衛門書状「親類の者の様子并巳年の渡証文、御内意により差上げの旨」宮下善左衛門宛 二月九日譲	切	一通さ 五九
田地譲渡証文并地代金請取覚「持高二石一斗余、代金四二両余にて譲渡」譲主寅吉・請人喜祖之丞ら四名（奥書、三役人）佐文治宛 天保四年二月（請取覚は天保五年四月）	堅繼	一通さ 五九
田地譲渡証文并坪入余金請取覚「持高二石七斗余、代金四三両余にて譲渡」寅吉ら三名（奥書、三役人）助三郎宛 天保四年二月（請取覚は天保五年七月）	堅繼	一通さ 五二
御白洲吟味次第書取「寅吉、親類健助、名主源左衛門、喜祖之丞ら白洲での吟味の留書」（郡奉行所）（二月二日、三日）	美	一綴さ 五三
矢沢監物差函書「寅吉金子出入一件、吟味筋は如何につき委細認取り申聞らるべき旨」金児丈助宛 二月二十四日	切	一通さ 五七
郡奉行所申上書控「寅吉らの吟味次第の報告。一同町宿預けの旨」（金児丈助）（家老矢沢監物宛） 二月	半	一綴さ 五四
郡奉行所申上書草案「七六四番の草案」	半	一綴さ 五五
郡奉行所伺書控「評定所にて一件再吟味ありたき旨。七五九番書付など添付」（金児丈助）（家老宛） 二月	半	一綴さ 五七
寅吉親類五名連印願書「寅吉不行状再発、田地売払いなど困惑。佐文治も荷担につき一同吟味ありたき旨」重右衛門・健助ら五名 代官所宛 天保五年一〇月	堅繼	一通さ 五三
寅吉親類・三役人等連印願書「同前一件仲裁につき吟味流しありたき旨」重右衛門・立入人覚左衛門ら二名 郡奉行所宛 天保五年二月	堅繼	一通さ 五四
寅吉・同人親類・三役人等連印請書写「寅吉の他行禁止、同人田地・印形は親類預かりの旨」健助・辰年名主佐文治ら三名 職奉行所・郡奉行所宛 天保六年一月二日	半	一綴さ 五五
下真嶋村三役人訴書「助三郎より職奉行所宛の願書の届。寅吉出奔、親類ら地代金不納の旨。七七六〇七八五番一括」名主源右衛門ら三名 郡奉行所宛 天保九年二月	堅繼	一通さ 五三
下真嶋村三役人訴書「寅吉組合惣代安右衛門ら一〇名より職奉行所宛の請書の届。寅吉首鎖、重右衛門手鎖腰縄、健助ら七名町宿預けの旨」名主源右衛門ら三名 郡奉行所宛 天保九年二月	堅繼	一通さ 五三
下真嶋村三役人申上書「寅吉吟味答書提出の猶予を願ひ、金子返済の手段に着手しおる旨」同前宛 同前宛 天保九年二月	堅繼	一通さ 五三
下真嶋村三役人訴書「寅吉ら職奉行所に召出のうえ金子返済を命ぜられたる旨」同前 同前宛 天保九年二月	堅繼	一通さ 五〇
某内々申上書「寅吉・親類一同より喜祖之丞・立入人覚左衛門宛の誓書の届。助三郎・佐文治の地代金返済いたす旨」（郡奉行所宛） 天保九年二月三日	横長美	一綴さ 五七
下真嶋村三役人聞置届書「地代金返済の件和談成立につき吟味流しありたき旨」名主源右衛門ら三名 代官所宛 天保九年二月八日	堅繼	一通さ 五二

地代金請取覚「元利金七・二兩二分」助三郎 重右衛門・健助ら六名宛 天保九年二月八日	堅切	一通さ 六三	寅吉親類六名連印答書「同 前」(同前) 同前宛 天保一〇年二月	堅繼	一通さ 六四
地代金請取覚「元利金六・八兩一分余」佐文治 同前宛 天保九年二月八日	堅切	一通さ 六四	寅吉地代金一件答書綴 金児丈助 (家老宛)	美	一綴さ 六七
下真嶋村三役人訴書「三役人より職奉行所宛の願書の届。別紙の通り金子返済につき吟味流されたき旨」 名主源右衛門ら三名 郡奉行所宛 天保九年二月一〇日	堅繼	一通さ 六二	1 寅吉答書「御預け田地を助三郎へ譲渡一件尋答。自分と喜祖之丞にて助三郎・佐文治へ交渉、奥書印形は佐十郎の取計いの旨」(奥書、仮三役人) 郡奉行所宛 天保一〇年二月二三日		
下真嶋村三役人訴書「寅吉・同親類ら一名より職奉行所宛の請書の届。一件内済につき以後和熟の旨」 同前 同前宛 天保九年二月一〇日	堅繼	一通さ 六五	2 喜祖之丞答書「同前尋答。取繕いの和談規定書差上げたる旨」(同前) 同前宛 同日		
寅吉親類惣代連名誓書写「一件吟味流れのうえは実意の振舞いをなす旨」 助三郎・健助□上真嶋村繁吉宛 天保九年二月	堅繼	一通さ 六〇	3 助三郎答書「同 前」(同前) 同前宛 同日		
吟味人親類組合惣代・三役人仮役等連印請書「佐文治・喜祖之丞ら手鎖・重右衛門・健助ら腰縄 名主源右衛門は村預けの旨」 米蔵・名主仮役浜治ら一五名 郡奉行所宛 天保九年二月二七日	堅繼	一通さ 六六	4 佐文治答書「同 前」(同前) 同前宛 同日		
吟味人親類組合惣代・三役人仮役等連印請書「助三郎ら吟味中町宿預けの旨」 門右衛門・町宿覚左衛門ら一五名 郡奉行所宛 天保九年二月	堅繼	一通さ 六二	5 源左衛門・源治郎連印答書「同 前」(同前) 同前宛 同日		
佐文治答書「寅吉地所一件の済口証文、先年の証文と相違の段尋答。不調法恐入る旨」(奥書、仮三役人) 郡奉行所宛 天保一〇年二月	堅繼	一通さ 六三	6 寅吉親類六名連印答書「同 前」 重右衛門・健助ら六名(奥書、同前) 同前宛 同日		
助三郎答書「同 前」(同前) 同前宛 天保一〇年二月	堅繼	一通さ 六三	7 町宿覚左衛門答書「同 前」 同前宛 天保一〇年二月晦日		
喜祖之丞答書「同 前」(同前) 同前宛 天保一〇年二月	堅繼	一通さ 六三	郡奉行所連名同書 并家老附札「寅吉一件仕置伺い。御仕置規定による振律」 寺内多宮・岡嶋莊蔵・金児丈助 三月	切繼	一通さ 六六
			吟味人・親類組合・三役人仮役等連印請書「寅吉過怠夫・喜祖之丞過料粉一〇俵など」 寅吉・助三郎ら二七名 郡奉行所宛 天保一〇年三月(二〇日)	堅繼	一通さ 六八
			一件吟味人名前書「白洲へ召喚の寅吉・助三郎の名前書」(郡奉行所) (二月)	切	二通さ 六九

某内々申上書「名主源左衛門・佐文治ら一〇名の当三日月洲での吟味次第報告。職奉行所にては拷問吟味の旨」

横長美

一綴さ 五五

某内々申上書「寅吉田地譲渡一件の事情、内実の報告」

横長美

一綴さ 五五

某申上書「一件済口証文に不埒あり、郡方より職方に申談じて再吟味致すべき旨」（目付カ）

切

一通さ 五九

封筒「下真嶋村寅吉家内不和合不行跡につき天保六年答筋申付たところ改心、親類預け」 岡嶋莊藏 天保一三年七月

一点さ 二五

下真嶋村寅吉親類・三役人等連印願書「村預けの寅吉、改心につき赦免願ひ」 半右衛門・天保三年名主佐文治・名主仲右衛門ら一〇名 職奉行所・郡奉行所宛 天保一三年七月

堅繼

一通さ 二六

下真嶋村寅吉請書「他行差留赦免、持地・印形所持も許可」(奥書、親類惣代半右衛門・重右衛門・三役人) 同前宛 天保一三年七月一日

堅繼

一通さ 二六

郡奉行岡嶋莊藏用状并勘返状「別紙出願の件相談。本件は当方の日記に見えたれど職方にその節の同書など在于問合せ」 職奉行菅沼弥惣右衛門宛 七月六日

切

一通さ 二六

郡奉行岡嶋莊藏用状并勘返状「先年の伺は郡方にて行いたること。出願取扱いは先例の通り致す旨」 菅沼宛 七月一〇日

切

一通さ 二六

○天保四一六年、
里穂苅村小前惣代欠訴一件

里穂苅村小前惣代善藏等連印願書「村役人・頭立の者ら猥りに借財し、ゆえなき村弁金を村民より徴集するを停止されたきこと。代官所へ謀計の借財元帳を差し上げおる旨」 善藏・組合差添嘉右衛門 代官所宛 天保四年二月(一六日)

堅繼

一通さ 四六

里穂苅村小前惣代善藏等連印願書「四四八番と同文」 同前 郡奉行所宛 同年二月

堅繼

一通さ 四九

里穂苅村役印留書面扣写「村役人の奥印による不法借財一件の関連文書の写」 善藏 同年二月

堅繼

一通さ 四〇

里穂苅村小前惣代善藏等連印訴書「重立栄助ら謀略をもって村中の連印を掠め取ること度々につき糾明ありたき旨」 善藏・嘉右衛門 代官所宛 同年三月

堅繼

一通さ 四二

里穂苅村善藏答書「栄助方と山地売買紛議の際酒を呑むこと小前の身として不行届きの旨」 郡奉行所宛 同年三月

堅繼

一通さ 四三

里穂苅村新九郎答書「自分隣家源藏と栄助惣栄左衛門との萱薪の紛失紛議。当村神主中沢主鈴の仲裁にて収まる旨」 嘉右衛門代子新九郎 同前宛 同年三月

堅繼

一通さ 四三

里穂苅村利左衛門答書「萱薪紛失一件。神主母の錯誤とて神主より源藏方へ萱八把を差遣しの旨」 同前宛 同年三月

堅繼

一通さ 四四

里穂苅村小前惣代善藏等連印答書「栄助役中不正取立て一件。安養寺への返済金の由なれど虚偽の旨」 善藏・新九郎 中村幸太夫・丸山平左衛門宛 同年四月

堅繼

一通さ 四五

里穂苅村三役人・栄助連印答書「村方借用金元帳は小野唯右衛門掛りにて明細調査のうえ出来の旨」 名主市三郎ら五名 同前宛 同年四月

堅繼

一通さ 四六

里穂苅村利右衛門答書「金子借用の節、所持高より過分に書入れのこと恐れ。されど借金は元利返済の旨」 同前宛 同年七月

堅繼

一通さ 四七

里穂苅村長百姓利左衛門答書「自分新役ゆえ借財御書上帳作成の節に取調落となり恐入。されど謀計の借財御書をなしたることはなき旨 同前宛 同年七月 堅 一通さ 四六

里穂苅村采助組合人藤八等連印答書「謀書奥印の詮議なされずば印形はしめこと。吉兵衛の役請印形を妨害する意にはなき旨 藤八・孫右衛門組合藤左衛門 同前宛 同年七月 堅 一通さ 四六

里穂苅村采助答書「藩役人よりの借財は返済。吉兵衛名主役請印形の件は頭取をなすにあらず等」 同前宛 同年七月 堅 一通さ 四六

里穂苅村小前惣代善藏等連印答書「采助、引当無しの拝借金に嫌疑を否定につき再尋答」 善藏・新九郎 同前宛 同年七月 堅 一通さ 四六

里穂苅村七左衛門答書「藩よりの拝借金は返済、ただし引当の地所に不足ありしこと恐入」 同前宛 同年七月 堅 一通さ 四六

里穂苅村三役人願書「吟味にて引上げの拝借元帳、本年の取立てのため下渡されたき旨」 名主市三郎ら四名 同前宛 同年十一月 堅 一通さ 四三

里穂苅村甚之丞答書「采助より金六両借りるも返済。居宅破損のため修復、土蔵も建てたる旨」(奥書、三役人) 郡奉行所宛 天保五年十一月 堅 一通さ 四三

里穂苅村徳藏答書「采助よりの借金二分は返済職人を頼んで庭を拵らえとは誇張」(奥書、三役人) 同前宛 同年十一月 堅 一通さ 四三

里穂苅村藤左衛門答書「采助よりの借金一〇両は返済 作庭するも華美にあらず」(奥書、三役人) 同前宛 同年十一月 堅 一通さ 四三

里穂苅村三役人・頭立・采助等連印答書「村役人等、文政一〇年の村定を破り村役奥印にて引当なき借財を重ねたる等、全一二件の尋答。一同恐入の旨」 名主市三郎ら一名 代官所宛(押紙、郡奉行所宛) 天保四年三月(押紙、同六年三月) 堅 一通さ 四六

里穂苅村不正借財一件内済済口証文「采助不埒につき役場出席停止、伝馬役勤仕。頭立孫左衛門・利右衛門は退役願出。借財元帳は扱人にて封印、等」 善藏・采助・三役人・扱人ら一八名 郡奉行所宛 天保六年四月 堅 一通さ 四七

里穂苅村三役人請書「この度一件にて提出の帳面、返却され請取る旨」 名主吉兵衛・組頭三之丞・長百姓佐次右衛門 代官所宛 同年四月 堅 一通さ 四六

里穂苅村三役人答書「頭立七左衛門は江戸に松原奉公につき、吟味中呼び戻すも等閑。早急に呼び戻す旨」 同前 同前宛 同年五月 堅 一通さ 四六

里穂苅村七左衛門・三役人連印縋書「七左衛門代官の召喚差図を無視の一件、赦免執りなし方歎願」 名主吉兵衛ら四名 願行寺・上条村源真寺宛 同年閏七月 堅 一通さ 四七

源真寺・願行寺連印歎願書「七左衛門ら教示致すにより赦免ありたき旨」 岡野弥右衛門・岡嶋莊藏・金児丈助宛 同年閏七月 堅 一通さ 四七

職奉行岡野弥右衛門覚書「一件書類入封筒の上書」 天保六年八月 紙片 一通さ 四三

○天保四一六年
御林桑甘草苗代金滞納一件

御桑代借金年延証文「閑屋御林御用桑頂戴にて蚕業仕たるところ不作にて勘定滞り、来年まで年延べ」 閑屋村郡左衛門 吾妻銀右衛門宛 天保四年一二月 堅 一通さ 四六

吾妻銀右衛門口上覚「郡左衛門別紙延証文を出すも今に勘定なまず、同人親幸五郎も御林桑世話仕向方より金三両余取込み。甘草苗代金をもって返済との偽りをなす旨」 郡奉行所宛 天保六年七月

堅継

一通さ 六三

吾妻銀右衛門口上覚「郡左衛門と幸五郎、甘草苗かたりの儀を糾明のところ幸五郎出奔の旨」 七月八日

切 一通さ 六〇

関屋村軍左衛門・三役人連印請書「御林桑代金など滞金七両余の返済方」 名主団蔵ら四名 郡奉行所宛 天保六年七月九日

堅継

一通さ 六六

関屋村軍左衛門・三役人連印申上書「御林桑代金・幸五郎の甘草苗代金七両余滞り、うち五両余出来 残金は来年六月までに返済の約定にて済口の旨」 名主団蔵ら四名 郡奉行所宛 天保六年七月

堅継

一通さ 六四

関屋村軍左衛門・三役人連印答書「家屋敷田地譲渡にて代金返済のため盆中の済方は困難の旨」 同前 同前宛 天保六年七月

堅継

一通さ 六五

御桑代借金日延証文「御桑代五両余、来る二〇日まで日延べ」 幸五郎・軍左衛門 吾妻銀右衛門宛 天保六年二月九日

堅

一通さ 六二

○天保五年
酒造道具代金滞り一件

封筒「吾妻銀右衛門酒造道具を西条村茂作らに売払い代金の滞り紛議関係書類」 郡奉行興津権右衛門 天保五年

一点さ 二三

西条村茂作日延願書写「酒造道具代金滞り一件、来る二〇日まで猶予ありたき旨」 吾妻銀右衛門役代彦左衛門宛 天保五年二月

堅

一通さ 二三

吾妻銀右衛門願書「酒造道具払い代金四両余、茂作日延べ願いを繰り返して支払滞り」 郡奉行所宛 天保六年七月

堅継

一通さ 二三

○天保五十八年、
西寺尾村諸役動向混雑一件

包紙「西寺尾村有地改にて引高等の儀、岡神明組と紛議。一件内済和談書類」 寺内多宮 天保八年一〇月

一点さ 三三

西寺尾村三役人願書「伝馬人足役の件、去年の有地改にて持高変更のため伝馬役勤仕の者ら居屋敷高割合を主張して村内紛議」 名主弥平ら三名 代官所宛 天保五年四月

堅継

一通さ 三三

西寺尾村伝馬人足勤仕者答書綴 天保五年五月

一綴さ 三四

1 西寺尾村伝馬持人別惣代連印答書「寛文年中の伝馬元帳は混雑ゆえ、去年有地改の居屋敷高にて役負担ありたき旨」 清右衛門・甚平 代官所宛 同五年五月

堅継

一通

2 西寺尾村三役人申上書「伝馬持惣代の書面内容は不服につき奥印を拒否の旨」 名主弥平ら三名 同前宛 同月

堅継

一通

3 西寺尾村伝馬不持人別惣代連印答書「伝馬人足役の村高割の和解案への返答。」 徳右衛門ら五名（奥書、三役人） 同前宛 同六月

堅継

一通

西寺尾村伝馬不持人別惣代連印答書「寛文水帳にても伝馬役と屋敷所持とは不一致の旨」 徳右衛門ら五名（奥書、三役人） 代官所宛天保五年五月

堅継

一通さ 三五

西寺尾村三役人答書「紛議につき三役人の見解上申。村内融和を第一とすべき旨」 名主弥平ら三名 同前宛 同五年五月

堅

一通さ 三六

西寺尾村頭立七人答書綴

一綴さ 三六

1 西寺尾村頭立治左衛門答書「紛議一件につき尋答。伝馬役の往古の勤方は不詳、今は惣村高割合となすが至当の旨」(奥書、三役人) 代官所宛 同五年六月

堅懸

一通

2 西寺尾村頭立平助・久右衛門連印答書「伝馬役、惣村高にても居屋敷高懸りにても村方平均明白に勤めたまき旨」(奥書、同前) 同前宛 同年五月

堅懸

一通

3 西寺尾村頭立嘉伝治等三名連印答書「寛文年中より伝馬役は居屋敷高割合なれど寛保二年の水害にて一変。今は惣村高割合が至当。藤左衛門のみ居屋敷懸りを主張」 嘉伝治・助左衛門・藤左衛門(奥書、同前) 同前宛 同年五月

堅懸

一通

4 西寺尾村頭立彦右衛門答書「屋敷高にても惣高にても平均明白にありたまき旨」(奥書、同前) 同前宛 同年五月

堅懸

一通

5 西寺尾村頭立藤左衛門答書「先の答書の内容訂正。伝馬勤方は村惣高割合が至当の旨」(奥書、同前) 同前宛 同年六月

堅懸

一通

西寺尾村岡神明組小前惣代答書綴 天保五年六月

一綴さ 三六

1 岡神明組小前惣代磯五郎等連印答書「当組は西寺尾村の枝郷にて、伝馬役の惣高割合は迷惑の旨」 磯五郎・九郎治・惣兵衛 代官所宛 同年六月

堅懸

一通

2 西寺尾村三役人申上書「岡神明組答書のうち本郷とすべて耕地切の処理との文言不相当につき奥書印形を拒否の旨」 名主弥平ら三名 同前宛 同年六月

堅

一通

3 岡神明組小前惣代磯五郎等連印答書「伝馬役は日割りをもって当村切の惣高割合にて勤めたまき旨」 磯五郎ら三名(奥書、三役人) 同前宛 同年六月

堅懸

一通

西寺尾村御竿役懸り頭立等連印願書「天保四年の有地改による二一九石余の永引高の配分をめぐる紛議処置方」 頭立彦右衛門ら五名 郡奉行所宛 天保八年九月

堅懸

一通さ 三九

西寺尾村三役人仮役・御竿役懸り頭立連印願書「欠高二一九石余の役勤方、内評不調につき善処方」 名主仮役左仲太・頭立平助ら二〇名 同前宛 同年九月

堅懸

一通さ 四〇

西寺尾村御竿役懸り頭立等連印願書「欠高配分の件、欠高持人別へは新田を割取らせたまき旨」 頭立藤左衛門・弥平ら一一名 同前宛 同年九月

堅懸

一通さ 四一

西寺尾村頭立・御竿役懸り等連印答書「川欠高御役勤方、村東の川欠高の分は当該新田にて引請。村西千曲川の新田は村中持とし、役も村中持と致す旨」 頭立彦右衛門・御竿役懸り清右衛門ら五名 同前宛 同年一〇月

堅懸

一通さ 四二

西寺尾村頭立・御竿役懸り等連印答書「永引川欠高および新田高の配分の件」 同前 同前宛 同年一〇月

堅懸

一通さ 四三

西寺尾村頭立・御竿役懸り等連印答書「二一九石余の永引高割合の紛議の際、御改惣高にて割合うべしとの不調法の上申一件、赦免ありたまき旨」 同前 勘定所元役所宛 同年一〇月

堅懸

一通さ 四四

西寺尾村御竿役懸り惣代等連印答書「千曲川筋の干潟新田は川欠高持人別にて高請。よって引高の分の御役勤めは欠高持人別にてなすべき旨」 藤左衛門・磯五郎ら五名 有地改掛り町田権之助・小野左金太宛 同年一〇月

堅懸

一通さ 四五

西寺尾村永引高御役勤方紛議一件「口証文」「欠高持人別にて新田割地を所持にて二九石余の役を勤むべき旨」 欠高持人別惣代平助ら五名、不持人別惣代藤左衛門ら一名、三役人仮役、扱人丹波嶋村勘左衛門 郡奉行所宛 天保八年十一月

堅継

一通さ四六

西寺尾村伝馬役勤方紛議一件「口証文」「別紙規定書の趣にて本郷・岡神明組和解の旨」 名主仮役左仲太ら三名、頭立平助ら七名、有地改役掛り左源治ら一〇名、扱人勘左衛門 同前宛 同年一月

堅継

一通さ四七

伝馬役勤方紛議一件内済規定書「岡神明組は伝馬役を組切にて勤仕。年貢は組にて取り集め、うえ名主元へ持参のこと等」一ヶ条 同前 同前宛

堅継

一通さ四八

○天保七年

小根山村紛議一件

小根山村吉兵衛・弥惣吉連印答書「砂渕へ徒党寄合一件の吟味返答。当日不参加の旨」(奥書、三役人) 郡奉行所宛 天保七年五月

堅継

一通さ三七

小根山村小前惣代・三役人等連印願書「名主手元の勘定諸帳面の疑惑騒動一件、恐入る旨」 治郎兵衛ら一二名 郡奉行所宛 同年六月

堅継

一通さ三八

小根山村小前惣代・三役人等連印願書「一件町宿預けの者ら赦免方」 治郎兵衛・名主桑右衛門・立入人周兵衛ら一六名 法蔵寺宛 天保七年六月

堅継

一通さ三九

小根山村年貢勘定紛議一件内済規定書 治郎兵衛・三役人・立入人ら八名 郡奉行所宛 同年六月

堅継

一通さ三〇

古山村法蔵寺歎願書「小根山村小前惣代治郎兵衛ら六人・徒党一件の赦免方」 寺内多宮・岡嶋莊藏・金児丈助宛 同年六月

堅継

一通さ三一

小根山村一件吟味人名前書「角右衛門・親類組合幾右衛門・治郎兵衛・役人代弥左衛門・町宿周兵衛」

切

六通さ三九

小根山村一件吟味覚書

切

三通さ三〇

小根山村一件吟味覚書 (郡奉行岡嶋莊藏)

切

二通さ三一

小根山村小前願人惣代連名申上書写「頭立桑右衛門の年貢勘定疑惑につき役前諸帳面の吟味願い」 角右衛門・吉兵衛ら四名 郡奉行所宛 天保七年一〇月

堅継

一通さ三二

○天保七―一一年

清野村新田地代金等混雜一件

袋「清野村一件尋答帳面、歎願書、答書など三帳・四通在中」 関田守之丞・小野左金太 六月

一点さ三〇

御小役万夫銀納物間銀割合帳「三口ノ銀四貫一〇四匁余 他」〇石につき四四匁三分余」 清野村名主伴右衛門 天保七年一二月

横長半

一綴さ三七

一件訴答人・三役人・頭立小前惣代等連印内々願書「吉右衛門へ村中請新田地を譲渡一件、内談取極案」 訴訟人重左衛門・相手方吉右衛門・扱人丈右衛門ら一八名 春日儀左衛門宛 天保八年五月

堅継

一通さ三八

吉右衛門・三役人・頭立小前惣代等連印申上書「譲渡地所の明細書上げ」 名主喜右衛門・立入人丈左衛門ら九名 郡奉行所宛 天保九年一二月

堅継

一通さ三九

封筒「清野村吟味火事品々書類入。天保一一年五月より」

一点さ三六

名主喜右衛門内々申上書「新田譲渡一件、不正の内談に参加の人名列挙」 天保一一年五月

堅継

一通さ四〇

新田改入用勘定帳「入用各項目につき附札をもって尋答」申年名主伴右衛門・三役人ら七名 関田・小野宛 天保一年五月	横長美	一綴さ 八九
清野村三役人願書「伴右衛門・吉右衛門、役人中正の筋にて吟味中町宿預なれど農繁期につき村下げありたき旨」 喜右衛門ら四名 関田守之丞・小野左金太宛 天保一年五月	堅繼	一通さ 八五
伴右衛門・親類文三郎連名答書「夫銀割不審一件尋答。向後、明朗の処置をなす旨」(奥書、三役人・頭立惣代) 関田・小野宛 天保一年六月	堅繼	一通さ 八二
伴右衛門・新田改宿・頭立・年番等連名答書「新田改役人逗留中、賄賂など不正一切なき旨」改宿吉右衛門・頭立熊之助ら一八名 関田・小野宛 天保一年六月	堅繼	一通さ 八三
伴右衛門・親類文三郎連名答書「申年割合帳に印形なき慶左衛門ら五名分の印形を差上げ。同村頭立・年番の由来職掌につき尋答」(奥書、三役人・頭立) 関田・小野宛 天保一年六月	堅繼	一通さ 八三
文三郎・二役人連印詫状「伴右衛門村預けのところ、番人付添いも等閑のこと」 名主喜右衛門ら五名 郡方手付坂口惣三郎・瀧沢平作宛 天保一年六月	堅繼	一通さ 八四
名主喜右衛門答書并 関田・小野連名下札「郡役上納分、夫銀割高、薪葉納、諸夫銀一五割など諸項目ごとの尋答」(奥書、組頭・長百姓) 天保一年七月(九日)	堅繼	一通さ 八〇
立入人・組惣代連印申上書「一件和談取極案。新田古道形共地代金・残地所とも立入人へ受取り」宗藏・富治ら二五名(奥書、三役人) 郡奉行所宛 天保一年九月	堅繼	一通さ 八七
立入人・組惣代連印申上書「一件和談取極の次第報告。八〇七番に同文」宗藏・富治ら二七名(奥書、三役人) 同前宛 天保一年一〇月(六日)	堅繼	一通さ 八六
清野村三役人・立入人・組惣代連印申上書「五反田組・難山組は新田割合に申分なき旨」 名主喜右衛門・弥市ら一〇名 同前宛 天保一年一〇月	堅繼	一通さ 八五
吉右衛門親類・三役人連印詫状「吉右衛門村預けのところ不慎の旨」 弥兵衛ら五名 郡方手付平井安右衛門・小林愛吉宛 天保一年一月	堅繼	一通さ 八八
吟味人伴右衛門等連印請書「村役人ら新田割合に不正取計いにつき処罰。伴右衛門・吉右衛門・吉十郎・嘉右衛門ら二〇名分」 伴右衛門ら二〇名 郡奉行所宛 天保一年一月(二三日)	堅繼	一通さ 八三
小前惣代幾五郎等連印請書「昨日白洲にての申渡の趣、有難き旨」 幾五郎・左兵衛(奥書、三役人) 同前宛 天保一年一月(二四日)	堅繼	一通さ 八四
清野村役人不正一件答書綴「1 伴右衛門 2 吉右衛門 3 吉十郎 4 喜右衛門ら三名 5 喜祖丞ら六名 6 左衛門ら五名 7 利左衛門 8 三役人の八通分」 郡奉行金児丈助(家老宛) (天保一年) 一月	堅繼	一綴さ 八六
一件出役連名申上書「新田改入用帳、小役夫銀割合元帳の不審箇条を村方に尋問するも不明。取調一卷、村方欺願書を添えて内々申上」 関田守之丞・小林左金太 (郡奉行所宛) 六月	横長半	一綴さ 八三
一件出役連名申上書「村方入用の不審諸件の取調べの所感報告」 関田・小林 (同前宛) 六月	横長半	一綴さ 八三
一件出役連名申上書「新田改入用帳の諸項目につき村方に尋問の次第報告」	横長半	一綴さ 八〇

夫銀割合帳写 清野村	横長半	一綴さ 八八	清野村文八申上書「命により存寄の趣申上。組割新田・道成無役本田とも吉右衛門に金五〇両にて売却。その小作紙屋町矢野右衛門は上納方を拒否して難渋」 代官所宛 天保一一年四月	堅繼	一通さ 六七
申年小役勘定帳抜書「御勘定帳之方」と「村方仕立置候帳面之方」の双方の比較」(関田・小野カ)	横長半	一綴さ 八三	組合惣代良右衛門答書「新田売却代金、出火時人足への賄ひ、巡見時人足役への手充、夫銀増加、名主喜右衛門病氣など五件につき実否尋答」 郡奉行所宛 天保一一年五月一日	堅繼	一通さ 八五
一件処罰申渡書草案「頭立、一郎兵衛、常右衛門、庄右衛門、小河原村東組名主、組頭、小前惣代」(郡奉行)	堅	一通さ 八四	組合惣代吉五郎答書「同前件尋答。地所売却のことなど承らざる旨」 宛所欠 天保一一年五月一日	堅繼	一通さ 八六
清野村諸勘定不正一件書類「申上書、吟味人名前書、仕置筋伺書、一件取調書、勘定書」	切 二三通	さ 八五	組合惣代富治答書「同 前」 宛所欠 天保一一年五月一日	堅繼	一通さ 八七
申年貢小役配符写「天保七年の成三郎分の畑地一石一斗余の年貢・小役・夫銀の皆済証文」 伴右衛門 成三郎宛 天保八年三月	切繼	一通さ 八四	組合惣代十郎右衛門答書「同 前」 代官所宛 天保一一年五月一日	堅	一通さ 八八
申年貢小役配符写「愛之助分田地一石六斗余の同前皆済証文」 伴右衛門 愛之助宛 天保八年三月	切繼	一通さ 九五	江戸詰左平郎等連名答書「新田等売却の件、等閑にて恐れ入り」 左平郎・子熊五郎・喜三郎 代官所宛 天保一一年五月一日	堅繼	一通さ 八九
年貢小役配符「小役新代、萱代など銀一貫四四七匁」 伴右衛門・親類代印文三郎 宛所欠 年欠	切繼	一通さ 九六	江戸奉公常治等連名答書「役場向きのこと、若年にて奉公に出ており承知せず」 常治・弥兵衛・金作 代官所宛 天保一一年五月一日	堅繼	一通さ 九〇
某申上書「旧名主伴右衛門の新田割地の取計方穿鑿命令の復命。売払い地所代金百両余、郡役御手充金九両余を着服の風説」 差出部切断 (草川吉右衛門カ) (天保九年) 一二月	切繼	一通さ 九三	小前百姓連印答書「新田は二一組にて割合の筈を、役場の者ら無断で吉右衛門に五〇両で売却のこと不当。また同人より町方へ譲渡につき小前ら難渋」 重右衛門子重助・五左衛門・仁兵衛組合富三郎ら 五名 上宛 天保一一年五月	堅繼	一通さ 九六
小袋「清野村一件内々申上」 草川吉右衛門 一二月		一点さ 九八	五人組惣代弥平太答書「吉右衛門への新田売却代金は各組合にて預かりたきこと、小役夫銀の不正疑惑など全八ヶ条、組合評議のうえ返答」 代官所宛 天保一一年五月	堅繼	一通さ 九八
某内密申上書「近年夫銀倍増、新田売却代金不明、田畑年貢手充しも割戻しなし、役中不正利得の疑惑、等。伴右衛門の不法の処置は春日儀左衛門承知のうえでのこと」 (四月二十八日)	切繼	一通さ 九二			

会田組惣代清左衛門等連印答書「われら小前は役場出席できず事情不案内にて歎わしきこと。一三ヶ条申し立て」 清左衛門・銀六ら五名 子五月 一通さ 六二

腰組惣代勇吉答書「組割新田地売却の節、所持希望の者を募るも難渋者ばかりにて応募なし。売却代金割合のこと等閑、名主役は二、三年任期制とすべきこと、小前も割合出銀の節は役場出席致しなきこと」 代官所宛 天保一一年五月 一通さ 六二

組合惣代丈三郎内々申上書「村役場の者、新田売却代金・新田改入用金などの割戻しを致さぬこと、小前も役場出席ありなきこと」 郡奉行所宛 天保一一年五月 一通さ 六四

五人組合惣代久右衛門等連印答書「当該新田は難渋者に作取りさせおるところ地所引上げ売却となり小前ら迷惑、名主役は三年任期の入札制と致すべきこと」 久右衛門・愛之助ら七名 代官所宛 天保一一年五月 一通さ 六六

組合惣代良兵衛答書「組割新田売却には当村より応募無きこと。三件尋答」 代官所宛 天保一一年五月 一通さ 六六

小前百姓重三郎等連印答書「新田地売却には応募せざること。七件尋答」 重三郎・義右衛門ら七名 代官所宛 天保一一年五月 一通さ 六七

島貝塚組小前惣代幾五郎答書「同前六件尋答。名主役は二、三年任期制」 代官所宛 天保一一年五月 一通さ 六八

栄治組小前惣代友治答書「小前の者ら役元寄合評議に不参加ゆえ返答不能」 同前宛 天保一一年五月 一通さ 六八

伴右衛門・仙之助連印答書「役人・頭立ら評議も致さず新田地売却のこと、村役人にも小前の相応の商いを致す者に任せられたきこと」 同前宛 天保一一年五月 一通さ 六三

組合惣代重助答書「村役人・頭立ら新田地を無断売却のため小前難渋、春日儀左衛門の調停にて右地所取戻せども売却代金は不明」 同前宛 天保一一年五月 一通さ 六四

組合惣代富三郎答書「九〇四番にほぼ同文」 同前宛 天保一一年五月 一通さ 六五

組合惣代重兵衛答書「村方三役人も小前から勤めたく、二年任期制とすべきこと」 同前宛 天保一一年五月 一通さ 六六

五反田組世話番三郎・忠蔵連印答書「当組は町方入作同様の取扱にて、上納・夫銀も町宿へ差出、村方寄合に加わらざること」 同前宛 天保一一年五月 一通さ 六六

某申上書「新田一件穿鑿復命。名主伴右衛門ら地所代金六、七〇兩取得、和談扱いの春日儀左衛門は村役人と同腹の由、名主喜右衛門は四月二〇日ころ理由なく出奔のこと」 五月 一通さ 六三

一件吟味覚書「新田地売却代金、村役人はその利にて上納取替をなすと唱えるも、小前ら承服せざること」 (郡奉行) 紙片 一通さ 六七

○天保八年 里村山村新田所持出入一件

封筒「里村山村孫八譲渡の地所をめぐる重吉と喜祖七の公事出入一件、内済和談書類」 岡嶋莊蔵 天保八年三月 一点さ 六七

屋敷譲渡証文写「政右衛門分屋敷高二斗余、屋敷附・新田とも譲渡、代金二〇両」里村山村議主喜右衛門・請人理右衛門・弥吉 当村兵八・三役人宛 天明五年三月 豎 一通さ 六九

里村山村願人重吉願書「祖父の代に政右衛門より本田一石五斗余と新田五斗を譲り受け、本田はそののち兵八と七右衛門に譲り、新田は私所持の筈なれど、間違ひにて喜三七の所持となる。同地所差戻されたき旨」代官所宛 天保七年六月 豎 一通さ 七七

里村山村重吉答書「喜三七所持の古証文を覆す証ある旨」代官所宛 天保八年二月 豎 一通さ 七九

代官西沢軍治伺書「同前件、証拠なき申立につき手詮議不能、書類差添伺い」(郡奉行所宛) 三月 切繼 一通さ 八六

里村山村喜三七・三役人連印答書「家屋敷附并新田高合二斗九合世は天明五年に喜右衛門より譲り受け、五〇年貢上納、諸役動仕の旨」名主常右衛門ら四名 代官所宛 天保八年三月 豎 一通さ 八八

里村山村喜三七答書「政右衛門所持田地の水帳記載の抜粋、石高明細」(奥書、三役人) 吉沢十助・中村孝太夫宛 天保八年三月 豎 一通さ 九一

里村山村三役人答書「政右衛門地所の明和九、安永二、同六年の転移次第、喜右衛門所持に至る経緯説明」名主常右衛門ら三名 代官所宛 天保八年三月 豎 一通さ 九四

里村山村喜三七・三役人答書「喜三七所持の新田高の明細書上。兵八分、善右衛門分、丈右衛門分、政右衛門分など九筆」名主常右衛門ら四名 同前宛 天保八年三月 豎 一通さ 九七

立入人善助・善之助連印答書「重吉所持の質地古証文を内見するも決しかね、金三両にて和談を試みるも同人は拒否の旨」(奥書、三役人) 吉沢十助・中村孝太夫宛 天保八年三月 豎 一通さ 九三

地所紛議一件済口証文「重吉証拠もなき不当の申立をなし町宿預けとなるも、同人難波者ゆえ喜三七より融通致すことで和談」願人重吉・相手喜三七・扱人善助・三役人ら七名 郡奉行所宛 天保八年三月 豎 一通さ 九三

○天保八年 夫食米引取延引一件

矢代村願人松崎平左衛門・三役人等連印請書「当村夫食差支えにつき松本藩預所市野川村よの米穀買付け、運搬用会符一〇枚は外目的に使用せぬ旨」名主七郎兵衛・世話人新治郎ら一〇名 郡奉行所宛 天保八年正月二十四日 豎 一通さ 九〇

松代領矢代宿年寄与惣左衛門等連印誓書草案「新次郎の米駄差留一件。同米は押野村栄三郎より買取りの駄に致し、麻積宿とは内和談の旨」与惣左衛門・志川村伝蔵 松本御預所麻積宿役人中宛 年月欠 豎 一通さ 九三

夫食米運搬紛議一件為取替証文「市野川村にて買入の米、麻積宿にて通し馬の嫌疑を受け差留め。和談成立」矢代村名主代新次郎・麻積宿役人惣代儀右衛門ら四名 天保八年二月 豎 一通さ 九一

矢代村組頭与惣左衛門等連印願書「松本藩預所六二ヶ村穀留にて市野川村与三右衛門より新次郎へ売却のこと露見し混雑。会符を取戻すゆえ平左衛門の吟味猶予ありたき旨」与惣左衛門・平左衛門代志川村伝蔵 勘定所元役所宛 天保八年三月二十八日 豎 一通さ 九三

矢代村三役人・吟味人連印歎願書「米穀買付け
差支え一件、平左衛門察当を蒙る。貴寺に緋りの
旨」名主七郎兵衛・平左衛門・新次郎ら一〇名
生蓮寺宛 天保八年四月 堅継 一通さ六尺

願行寺歎願書「平左衛門察当の件赦免ありたき旨」
寺内多宮・岡嶋莊藏・金児丈助・菅沼弥惣右衛
門宛 天保八年四月 堅継 一通さ九尺

○天保九一〇年
妻科村御飯米代金割合紛議

封筒「妻科村市右衛門・佐兵衛頭取にて御飯米代金
割戻し金子、内借高勤め的小前に割合うべしとて
紛議。不埒につき懸合の者ら咎筋申付伺書類」
金児丈助 天保一〇年三月 一点さ二〇五

妻科村三役人内々申上書「出作人より御飯米代金
を取集め小前へ代粉を渡す慣例とて、市右衛門惣
代となり役人中へ強談判」名主与市ら四名 代
官所宛 天保九年一二月 美 一綴さ二〇五

妻科村紛議一件答書綴 一綴さ二〇五

1 妻科村三役人答書「御飯米代金銀は出作人より
受取り、御飯米品納めの由来返答」同前相原
惣右衛門・丸山平左衛門宛 天保一二年二月 堅継 一通

2 妻科村和十郎・三役人連名誓書「親類佐兵衛
病氣は偽りにて自分へ御預けのこと」名主与
市ら五名 郡方手附小林愛吉宛 天保九年一二
月二二日 堅継 一通

3 妻科村市左衛門等連印答書「与市・政右衛門ら
勝手次第の取計にて村方難渋。また市右衛門・
申立の趣にも疑問の旨」市左衛門・伊右衛門・
儀左衛門 郡奉行所宛 天保九年一二月 堅継 一通

4 妻科村重兵衛答書「市右衛門申立は不相当にっ
き示談を取計の旨」同前宛 天保九年一二月 堅継 一通

5 一件処罰申渡書草案「善之丞・栄八は急度叱り、
三役人は沙汰なし」 堅 一通

妻科村紛議一件答書・請書綴 一綴さ二〇五

1 妻科村名主与市答書「御飯米上納差滞りと私よ
り承ったとの市右衛門の白洲での申立につき尋
答。その事実なき旨」代官所宛 天保九年一
二月 堅 一通

2 妻科村吟味人親類組合・三役人連印請書「市
右衛門手鎖・佐兵衛腰縄にて村預け」市右衛
門親類兵左衛門・同組合福松ら六名 郡奉行所
宛 天保一〇年二月 堅 一通

3 妻科村吟味人親類組合・三役人連印請書「義
左衛門・伊右衛門・市郎右衛門・重兵衛・吟味
中農業のほか他行禁止」義左衛門親類平左衛
門・同組合沖右衛門ら一二名 同前宛 天保一
〇年三月 堅 一通

4 一件為取替和談証文写「文政一〇年よりの一二
ヶ年分の御飯米代銀弁銀の儀、和談」組代重
兵衛・市郎右衛門・名主与市・頭立八郎兵衛・
恒右衛門ら一〇名 天保九年 堅 一通

5 妻科村吟味人・三役人連印絶書「一件示談内
済につき吟味流しありたき旨」重兵衛・伊右
衛門ら八名 郡奉行所宛 天保九年一二月 堅 一通

6 妻科村三役人答書「勘定所にて三役人、市右衛
門一同召出のうえ御飯米代銀取扱いの件尋答」
名主与市ら四名 同前宛 天保九年一二月 堅 一通

7 吟味人重兵衛等連印答書「御飯米弁銀の儀市右
衛門・佐兵衛兩人の不法の申立に委せおくこと、
組代の詮もなく恐入の旨」義左衛門・伊右衛
門ら四名（奥書、三役人）同前宛 天保一〇
年三月 堅 一通

8 吟味人市右衛門等連印答書「出作の者より徴集の御飯米代銀、村方へ割戻すよう組代重兵衛ら四名并小前一同より頼まれ、証拠もなく村方を混雑させたる旨」市右衛門・佐兵衛（奥書、三役人） 同前宛 天保一〇年三月

堅継

一通

9 妻科村三役人答書「出作人より徴集の御飯米代銀を村方の臨時入用に繰り回したる段、不調法の取計い恐入」名主与市ら四名 同前宛 天保一〇年三月

堅

一通

妻科村三役人内々申上書「市右衛門人跡、内心良しからざる者にて諸人難渋。不正の廉もあり、強氣者ゆえ此段含み置かれたき旨」名主与市ら四名 代官所宛 天保九年一二月

美

一綴さ二九

○天保一〇年
中町名右衛門役代粉紛議一件

西寺尾村分村和談規定書写「岡神明組と本郷との分村、伝馬役高割に関する和談規定」 双方惣代（奥書、西寺尾村三役人） 郡奉行所宛 天保八年一〇月

横長半

一綴さ九

西寺尾村三役人・惣代連印願書「中町名右衛門、岡神明組に所持の四石余の役代粉を不納 同人に理解を加えられたき旨」名主左仲太・惣代藤左衛門ら五名 代官所宛 天保一〇年正月

堅継

一通さ九七

西寺尾村出作中町名右衛門答書「役代粉不納一件尋答。本郷居住人は岡神明組に田地所持するとも役代粉不納、出作役代のみ一ヶ村役代二人となるは不合理の旨」 代官所宛 天保一〇年二月三日

堅継

一通さ九六

西寺尾村三役人・惣代連印答書「名右衛門答書への反駁」名主治左衛門・惣代藤左衛門ら五名 同前宛 天保一〇年二月

堅継

一通さ九六

中町名右衛門答書「同前件再尋答。役代粉不納は海沼源十郎ら他にもある旨」 同前宛 天保一〇年二月一二日

堅

一通さ九六

西寺尾村惣代・三役人連印答書「船頭分諸役御免高と役継の關係尋答。名右衛門田地は諸役勤仕に相違なき旨」 惣代藤左衛門ら五名 同前宛 天保一〇年三月

堅継

一通さ九二

西寺尾村惣代・三役人連印答書「船頭分諸役御免高三石九斗余と名右衛門所持田地との關係」 同前 宛所欠 天保一〇年四月

堅継

一通さ九三

西寺尾村古役・三役人連印答書「名右衛門役代の人間につき間違ひ申上げ恐入、ただし同村居住人と入作人とは差別ある旨」 古役左仲太・名主治左衛門ら八名 郡奉行所宛 天保一〇年五月

堅継

一通さ九三

西寺尾村三役人・惣代連印申上書「川除普請等臨時夫銀は入作人に相談なく村方の判断で賦課のこと、名右衛門に役代粉納入を命じられたき旨」 名主治左衛門ら五名 勘定所元々役所宛 天保一〇年五月

堅継

一通さ九四

中町名右衛門答書「海沼源十郎はそののち役粉皆済の旨」 郡奉行所宛 天保一〇年五月二日

堅

一通さ九五

西寺尾村岡神明組古役・三役人等連印答書「海沼源十郎は役粉納入すれども配付に金に殘金あり、役粉皆済と申せしは不調法の旨」 申年長百姓与右衛門・酉年同磯五郎ら七名 郡奉行所宛 天保一〇年七月

堅継

一通さ九六

西寺尾村惣代・三役人連印答書「海沼の三ヶ年上納殘金皆済のこと、勘定明細書上」 藤左衛門ら五名 郡奉行所宛 天保一〇年七月

堅継

一通さ九七

役代紛紛議一件済口証文「一件種々入組みて解決不能ゆえ和談。名右衛門より金五兩を西寺尾村役人に預け、年毎利分をもって役粉金を差配、名同人所持六石五斗余のうち四石二斗余は無役高にて差引の旨」 藤左衛門・名右衛門・立入人喜左衛門ら九名 郡奉行所宛 天保一四年四月	堅繼	一通さ九六	鹿野外守申上書「西寺尾村本郷と岡神明組との紛議、別紙の通り内済和融」 四月五日	切	一通さ二八四
代官岡部八十喜伺書「役代紛紛議一件、名右衛門は先年通り平助を役代に差置きたてを申立て内済不服。手限り穿鑿困難につき吟味ありたき旨」 (郡奉行宛) 二月	切繼	一通さ二六五	○天保一〇年 佐野村用水碑取払い一件 袋「佐野村水田碑文引払いにつき伺書類并請書。二 三九、二四八番在中」 寺内多宮 天保一〇年五月八日		一点さ三六
役代紛紛議一件留書「名右衛門の不服申立および立入人の調停案。名右衛門へ村方より地代金差出、同人地所を取り戻すべき旨」	切繼	一通さ二六六	佐野村水田碑文拓本 吉右衛門 天保九年	150×180	一鋪さ三九
職奉行所召喚人名前書「名主治左衛門・組頭重右衛門・長市十郎・惣代藤左衛門・治右衛門」	切	三通さ二六七	佐野村三役人・頭立惣代連印答書「碑文の文字内容につき尋答。文中に事実誤認あり」 名主文左衛門ら六名 代官所宛 天保一〇年二月	堅繼	一通さ二四〇
役代紛紛議一件覚書「三役人より提出書類の内容摘記 争点列記」 (立入人カ)	切繼	一通さ二六八	代官西沢軍治伺書「水田碑一件、村方答書差添え伺い」 (郡奉行所宛) 三月	切	一通さ二四一
某申上書写「役代紛紛の村方規定書には不行届あり、名右衛門は承服せざるべき旨」 (立入人カ)	切繼	一通さ二六九	郡奉行寺内多宮内々伺書「佐野村水田碑そのまま差置き難き旨」 (家老宛) 三月	切	一通さ二四二
田畑譲り証文写「田畑高三石九九年余、舟頭分小右衛門分 代金二六兩余」 西寺尾村議主藤左衛門・請入彦三郎(奥書、三役人) 紫の一宛 天明七年二月	堅繼	一通さ二七〇	家老矢沢監物内意書「追年見込み通り引水ありて田方潤沢の節に石碑建つべきを申渡」 寺内宛 三月一六日	切繼	一通さ二四三
年貢諸夫銀皆済書写「中町出作人名右衛門、紫の一兩名分の勘定書」 西寺尾村 中町出作人宛 天保七、八年	切繼	三通さ二七〇	郡奉行寺内多宮申上書「石碑撤去、咎は不問にて職奉行とも評議一決の旨」 (家老宛) 四月	切繼	一通さ二四四
中町出作人分地有高書上「紫の一、名右衛門分の岡神明組有高・舟頭分・本郷分有高」	折	一通さ二七一	家老矢沢監物内意書「水田碑は建立者の屋敷内へ引取らずべきこと等」 寺内宛 五月三日	切	一通さ二四五
			郡奉行寺内多宮申上書「石碑建立者不定につき、ただ屋敷内へ引取るべき旨を代官より申渡のこと。評議上申」 五月	切	一通さ二四六
			家老矢沢監物差函書「同前申立ての趣、聞済みの旨」 寺内宛 五月八日	切	一通さ二四七

佐野村吉右衛門・三役人等連印請書「水田碑は吉右衛門屋敷内に仕廻置、村益出来の節、実事のみ記して再建の旨」 名主伊野右衛門ら七名 代官所宛 天保一〇年五月

堅繼

一通さ二六

○天保一一年
下水鉋村御手充一件

封筒「水鉋村奎左衛門極窮につき御手充下され一件 村役人書面在中」 天保一一年五月

一点さ六九

下水鉋村常右衛門・三役人連印請書「常右衛門年寄奇特の筋あり御手充として粉」二〇俵下さる。これにて旧地所を買戻すこと」 名主彦三郎ら四名 郡奉行所宛 天保一一年正月

堅繼

一通さ九〇

借用金年賦証文写「年賦返済金残額七両、銀一二匁余」 常右衛門・親類久蔵ら四名 同村惣蔵宛 天保一一年正月

堅繼

一通さ九一

借用金一件和談為取替証文写「御手充粉」二〇俵の代金にて二表地を買戻し都合三表地の所持となる。一切の貸借はご破算の旨」 常右衛門 惣蔵宛 天保一一年正月

堅

一通さ九三

借用金一件和談為取替証文写「二表地は返還、このうえは双方に印証あるともご破算の旨」 惣蔵 常右衛門宛 天保一一年正月

堅

一通さ九三

常右衛門・同親類組合連名誓書写「三表地を返下され、以後心得違ひ致すまじき旨」 常右衛門・久蔵ら四名 惣蔵宛 天保一一年正月

堅

一通さ九四

家老矢沢監物差図書「別紙書類返却の旨」 寺内多宮宛 二月七日

切

一通さ九五

○天保一一年
沓野村祭礼作花粉議一件

封筒「沓野村洪組若者共、佐野村産神遷宮に作花差出につき本郷と混雜一件書類。一〇二二一〇二七番在中」 金児丈助 天保一一年四月

一点さ二〇三

湯田中村安代組源治郎訴書「沓野村本郷と洪組の若者、佐野村祭礼時の雑用割合をめぐる紛議、内済和談を試みるも不調。騒動の恐れある旨」 御役所宛 天保一一年四月

堅繼

一通さ二〇三

沓野村紛議一件答書綴 金児丈助 四月

一綴さ二〇六

1 沓野村洪組若者・三役人等連印吟味答書「難洪村に關らず祭礼に作花を差出たる一件 若輩者の無思慮、三役人も等閑の段、吟味を蒙り一同恐入の旨」 弥蔵・直吉・藤作・庄五郎・名主寅蔵・頭立惣代団蔵ら九名 □郡奉行所宛 天保一一年三月

堅繼

一通

2 沓野村本郷若者・三役人等連印答書「祭礼入用として洪組に金二分に酒一斗を割合たるに同組拒否して作花を差出し紛議となる旨」 助七・由松・糸五郎・名主寅蔵・頭立惣代団蔵ら八名 代官所宛 天保一一年三月

堅繼

一通

郡奉行連名伺書 并家老附札「沓野村紛議一件仕置伺い。御仕置御規定」にて擬律、許可附札」 寺内多宮・岡嶋莊蔵・金児丈助 四月

切繼

一通さ二〇四

家老矢沢監物差図書「別紙附札の通り心得べき旨」 金児丈助宛 四月

切

一通さ二〇五

沓野村洪組本郷若者・三役人等連印請書「一件処罰申渡の請書。洪組若者は叱置、本郷若者は万端相慎、三役人らは咎不問」 弥蔵・直吉・助七・由松・名主寅蔵・頭立惣代団蔵ら一二名 郡奉行所宛 天保一一年四月一六日

堅繼

一通さ二〇三

○天保一一年、里穗苅村
拝借金年賦返済紛議

袋「里穂苅村紛議一件書類」 岡嶋莊藏 子年（天保一一）三月	一点さ 五〇
拝借掛役人申上書「里穂苅村拝借金返納の件、新九郎・勇左衛門を見習いて村民らの返納不調。両名・三役人らの吟味ありたき旨」 二月	一通さ 五六
里穂苅村吟味人親類・三役人 并 町宿連印請書「勇左衛門・吟味のため町宿預け」 親類組合兼小助・町宿栄左衛門ら五名 郡奉行所宛 天保一年三月一七日	一通さ 五五
里穂苅村吟味人親類・三役人 并 町宿連印請書「孫右衛門・新九郎・吟味のため手鎖にて町宿預け」 佐次右衛門・利右衛門・町宿ら五名 郡方手付坂口惣三郎ら四名宛 同年三月一九日	一通さ 五二
里穂苅村安光寺歎願書「拝借金返済滞り紛議一件にて御答の名主孫右衛門・惣代新九郎を赦免ありたき旨」 郡方出役衆宛 天保一一年三月	一通さ 五九
里穂苅村吟味人親類・三役人連印答書「手鎖にて村預けの孫右衛門・新九郎、農作に宅を離れる等不埒のこと」 孫右衛門親類組合兼佐次右衛門・仮名主久右衛門ら五名 郡方手付坂口惣三郎ら四名宛 同年三月	一通さ 五三
里穂苅村一件吟味人等名前書「孫右衛門・新九郎・勇左衛門、三役人・立入人・町宿ら詮議召喚者」 （郡奉行） （四月二二日）	一綴さ 五三
里穂苅村一件吟味人等名前書	二通さ 五六
里穂苅村戌年名主佐吉答書「名主役中、拝借金取立元帳の不成成につき尋答。違付村方困窮にて上納の者なき故」 代官所宛 同年四月	一通さ 五〇
里穂苅村申年名主勘藏答書「同前件。上納者分の受払帳のみ作成」 代官所宛 同年四月	一通さ 五九
四ヶ村立入人連印願書「里穂苅村の拝借金返納滞りは村内混雑に起因。当月二八日までには和融済口を整える旨」 新町村音吉・大原村安右衛門・山穂苅村勝三郎・山上条村孫左衛門 郡奉行所宛 同年四月	一通さ 五三
里穂苅村吟味人親類・三役人連印請書「四ヶ村立入調停のため孫右衛門ら三名、御情けにて村預けに變更」 新助・亀吉・小助ら六名 郡奉行所宛 同年四月二〇日	一通さ 五九
里穂苅村与右衛門内々聞置届書「新九郎、私の小作麻畑地を買得引取るため迷惑の旨」 □（宛所不明） 同年四月	一通さ 五八
袋「里穂苅村村方混雑一件書類」 代官手代宮尾久吾・玉井一郎左衛門 四月	一点さ 五九
里穂苅村平助答書「去年、拝借金永年賦切替願一件につき尋答。願人別連印帳の宛名は惣代勇左衛門ら三名」 宮尾・玉井宛 天保一一年四月	一通さ 五〇
里穂苅村諸組惣代連印答書「同前件。出願人別は四〇人余、規定書の文言は失念」 小池組彦右衛門・北組長八ら七組七名 同前宛 同年四月	一通さ 五二
御拝借切替願人別帳写「去年秋の願人別帳のうち覚ある者の書上」 同前七組七名 同前宛 同年四月	一綴さ 五五
里穂苅村諸組惣代連名内々歎願書「新九郎、小前の頭取として永年賦切替出願をなすも一村当惑」 同前七組七名 同年四月	一綴さ 五七
代官手代連名申上書「拝借切替願人別のうち田地買得など致す者列記。村方より提出の書類差添え復命」 （代官宛カ） 四月	一綴さ 五八

兵次申上書「内済手順の折衝次第。四ヶ村は藩への 緋りと吟味人の赦免を先と言ひ、里穂荻村側は村 内和談を先と主張」 四月一八日	切紙	一通さ 叁三	里穂荻村三役人・立入人等連印請書「拝借金上 納の月延べ、一件吟味流し願ひ」 名主飯役久右 衛門ら二名 同前宛 天保一二年七月	堅紙	一通さ 叁三
代官手代連名内々申上書「勇右衛門名主のおり村 役人一同への褒美金を一人で取込み。新九郎の小 作人への横暴など三件の実情報告」 宮尾・玉井 四月	切紙	一通さ 叁四	里穂荻村一件和談規定書「取立元帳の明朗化、郷 法遵守・栄助ら三名の役本出席、等」 三役人・ 小前惣代・立入人ら一〇名 同前宛 同年一二月	堅紙	一通さ 叁六
里穂荻村一件穿鑿申上書「関係者の性格・行状報 告。新九郎博奕・遊所通いを嫌ひ、彼故に同村に 博奕する者なし等」	横長美	一綴さ 叁六	新九郎・親類組合・三役人・立入人等連印請書 「同前件赦免につき万事謹慎の旨」 名主孫右衛 門ら一七名 同前宛 同年七月	堅紙	一通さ 叁七
里穂荻村一件穿鑿申上書「拝借金切替願印形帳の 仕様。本文と名面の執筆は名主孫右衛門弟平助、 差出宛所は佐治右衛門筆、金調は与兵衛筆、継目 印形は新九郎印判。本帳面は正月一八日に町宿に て孫右衛門・新九郎より勇左衛門へ取置たること 等」□（町宿力）	切紙	一通さ 叁七	里穂荻村三役人・頭立小前惣代連印願書「新九 郎身上富裕なれど拝借金返上納を拒絶。同人の糾 明願ひ」 名主三之丞ら七名 拝借掛宛 天保一 一年一二月	堅紙	一通さ 叁七
里穂荻村一件密書「新九郎、名主孫右衛門、頭立 要左衛門ら行状。新九郎天保四年江戸出訴のおり 滞府人用を過分に徴集。村役人選任の件など」	折紙	一通さ 叁七	里穂荻村吟味人親類組合・三役人等連印請書「 新九郎・勇左衛門吟味につき町宿預け」 長作・ 林右衛門・町宿栄左衛門ら八名 郡奉行所宛 天 保一二年五月	堅紙	一通さ 叁七
里穂荻村一件極密申上書「一件混雑の趣を隣村木 内村・牧野嶋村・牧田中村など七ヶ村の者より聴 取の報告」	切紙	一通さ 叁七	新九郎吟味答書「身上裕福にて拝借金返納滞りの 件尋答。一言申訳なき旨」（奥書、三役人） 同前 宛 同年五月	堅紙	一通さ 叁七
四ヶ村立入人連印申上書「和談規定書を取纏め村 民九〇余人の調印を終えるも、なお清右衛門ら一 〇人余は村役元出席者の人選問題で不同意の旨」 勝三郎ら四名 郡奉行所宛 天保一二年五月	堅紙	一通さ 叁三	頭立勇左衛門吟味答書「拝借金返納滞りの件尋答。 近年違作にて借財莫大」（奥書、同前） 同前宛 同年五月	堅紙	一通さ 叁四
四ヶ村立入人別段申上書「村役元出席者の人選に つき、村内融和のため職奉行所から御役留の者も 赦免されたき旨」	紙片	一通さ 叁三	新九郎親類組合・三役人連印請書「新九郎手鎖・ 腰縄のまま村預け」 長作ら五名 同前宛 同年 五月一七日	堅紙	一通さ 叁三
四ヶ村立入人連印申上書「残り一名への和談説 得を試みるも不調。手切れを命ぜられたき旨」 勝三郎ら五名 同前宛 天保一二年六	堅	一通さ 叁四	勇左衛門・三役人連印請書「勇左衛門村下となる も農業の外は他行禁止」 同前宛 同年五月一二 日	堅紙	一通さ 叁三

郡奉行連名同書并附札「新九郎は所払い、勇左衛門は頭立取上げの刑罰裁可」寺内多宮・岡島莊藏・金児丈助（家老宛）六月

切繼

一通さ 五二

吟味人・同親類組合・三役人等連印請書「新九郎所払い。勇左衛門頭立取上げ」新九郎・勇左衛門ら二名 郡奉行所宛 天保一二年六月

堅繼

一通さ 五四

里穂苅村三役人訴書「所払いの新九郎、南長池村弥惣八方へ同宅につき村送り」名主伴右衛門ら三名 郡奉行所宛 天保一二年六月

堅

一通さ 五六

○天保一四年
日名村女子せい駆込訴一件

封筒「日名村儀兵衛娘せい、目付久保極人方へ駆込訴。郡方へ引渡しとなるも、最初職方の取扱いゆえ同方へ引渡し」郡奉行竹村金吾□天保一四年正月

一点さ 二〇

日名村せい歎願書「儀兵衛屋敷内の組持用水井戸の普請の入用金割合紛議。村役人より五貫五百文の納入を求められ難渋。同人を村より立退かせんとの謀計」郡奉行所宛 天保一四年正月

堅繼

一通さ 二三

目付久保極人用状「私宅へせい駆込訴、御用番より郡方への引渡し之差図」竹村金吾宛 正月二八日

切繼

一通さ 二三

職奉行松本源八用状「せい駆込訴一件、当方にて引渡され吟味のこと承知の旨」竹村宛 正月晦日

切繼

一通さ 二三

郡奉行竹村金吾用状留「目付・職奉行との往復用状の写」

折

一通さ 二四

○天保一四年
小市村溜池払堰引高一件

封筒「小市村溜池払堰形高障引高一件、村方三役人吟味御仕置関係書類」大検見廻村岡嶋莊藏・道橋方掛藤井喜内 天保一五年正月

一点さ 九六

溜池払堰高障一件済口証文写「溜池築立てたところ払堰添の田方へ土砂入にて紛議、名主召出され委細御尋のうえ和談」地主頭立三郎右衛門・世話人頭立源右衛門・名主半太ら七名 道橋奉行所宛 天保一四年六月

堅繼

一通さ 一〇〇

小市村地主連印答書「溜池払堰の高除を村役人願出たれど地主らは願わざること、道橋奉行の仲介にて別紙済口証文提出のうえは高引の御受けは致しかねる旨」辰之助・伊右衛門・三郎右衛門（奥書、頭立源右衛門・勝右衛門）池田良右衛門・立合西沢甚右衛門宛 天保一四年九月

堅繼

一通さ 九八

小市村三役人答書「地主より願もなき高除願い如何尋答。村方先例にて変地の節は水帳に関わるゆえ有形願いを致したる旨。組頭、長百姓は「御用につき無印」と連印欠落」名主半太夫ら三名 郡奉行所宛 天保一四年閏九月

堅繼

一通さ 九八

小市村組頭・長百姓連印答書「名主半太夫の出願を一同承知の有無尋答。先の和談書に齟齬につき連印致しがたき旨」織右衛門・弥五八 池田良右衛門・西沢甚右衛門宛 天保一四年

堅

一通さ 一〇一

小市村三役人請書「三役人不埒の出願をなし道橋奉行所にて叱責。それにつき御高除帳を返却され受取たる旨」名主弥三郎・組頭織右衛門・長百姓弥五八 郡奉行所宛 天保一四年二月

堅繼

一通さ 九七

勘定元役御尋物答書「新堰設置の節、高除出願有無の尋答。新堰高除願わざる向は引高無し村方もある旨」（郡奉行所宛力）閏九月

切

一通さ 一〇三

小市村払堰高除一件書類目録「新堰形引御末書帳一帳、地主共書付一通、半太夫書付一通、組頭長百姓書付一通」

切

一通さ 一〇四

道橋奉行連名同書并家老附札写「払堰高除一件
処罰案。半太夫を急度叱り、織右衛門・弥五八を
叱り。許可の家老附札」 祢津綾之介・馬場介作・
藤井喜内 一二月 半 一綴さ1001

道橋奉行藤井喜内用状「高除一件別紙の通り附札
をもって命ぜらる。先般より御廻しの書類を返却
同書一卷は御覧のうえ返されたき旨」 郡奉行岡
嶋莊藏宛 二月二日 切継 一通さ1005

○天保一四年
差紙通送遅滞一件

封筒「湯田中村宛の差紙通送につき福島村など四ヶ
村遅滞不埒一件、寺院へ縫り訴訟の關係書類。一
〇一三〇一〇二〇番在中」 天保一四年正月 一点さ1011

福島村二役人綴書「郡奉行所より湯田中村宛の差
紙、順達遅刻にて御用問欠となり不調法の至り。
取りなし下されたき旨」 名主江右衛門ら五名 堅継 一通さ1013

小河原村三役人綴書「同 前」 名主文左衛門
ら三名 肴町西念寺宛 同月 堅継 一通さ1014

大熊村三役人綴書「同 前」 名主勇之丞ら三
名 大熊村大円寺宛 同月 堅継 一通さ1015

佐野村三役人綴書「同 前」 名主専介ら五名
田中村淨福寺宛 同月 堅継 一通さ1016

肴町西念寺歎願書「福島村三役人綴りにつき旦那
の縁にて託言申上」 岡嶋莊藏・金兒丈助・竹村
金吾宛 天保一四年二月 堅継 一通さ1017

肴町西念寺歎願書「小河原村三役人綴り」 同前
宛 同月 堅継 一通さ1018

大熊村大円寺歎願書「大熊村三役人綴り」 郡奉
行所宛 同月 堅継 一通さ1019

田中村淨福寺歎願書「佐野村三役人綴り」 岡嶋・
金兒・竹村宛 同月 堅継 一通さ1020

○安政六年
牛島村訴訟入用混雜一件

牛島村元稗島一件惣代連名同書「稗島一件入用
銀の割合につき小前ら異議申立。先に藩に提出の
請書の約定確認」 徳右衛門・桂左衛門 郡奉行
所・道橋奉行所宛 安政六年三月 半 一綴さ1020

牛島村倉太願書写「一件訴訟人より藩へ提出の答
書の内容は偽り、關係者を召喚されたき旨」 郡
奉行所・道橋奉行所宛 安政六年十一月 半 一綴さ1021

牛島村吟味人親類組合・名主等連印訴書写「倉
太吟味中手鎖・腰繩にて郷宿預けのところ二一日
夜に外出」 常三郎・名主寅藏・郷宿友之助 同
前宛 安政六年十一月二三日 半 一綴さ1022

牛島村倉太請書写「不浄場へ参りたる件、御情け
にて手鎖・腰繩赦免にて他行差留のこと」 (奥書、
三役人) 同前宛 安政六年十二月 半 一綴さ1023

牛島村倉太請書写「稗島一件入用金、村役人ら不
手順の洛方にて不服につき、同入用金を奉行所へ
提出致す旨」 (奥書、三役人・郷宿・役人代) 同
前宛 安政六年十二月 半 一綴さ1024

牛島村小前百姓連印答書写「稗島一件入用金、役
所へ提出すべしとの命なれど、村役人不手順の吟
味なくば差出し難き旨」 忠兵衛・祐五郎ら一〇
名 同前宛 安政六年十二月 半 一綴さ1025

牛島村三役人・小前惣代等連印申上書写「入用
金不服一件年内埒明かず 来春に一〇名の者を召
出のうえ出金を命じられたき旨」 名主寅藏・小
前惣代七郎治ら七名 同前宛 (安政六年二月) 半 一綴さ1026

公用日記 (郡奉行所) 二月一日〜二月二八日

横長美

一綴さ二〇七

○慶応三年
矢代村水主身分混雑一件

矢代村三役人・頭立小前惣代連印申上書「水主ら内献金の御賞として宗門人別帳も別とし、船頭組として村方並とすべしとの仰せなれど、村方先規仕来りに崩れ村内混雑の旨」名主祖右衛門・幸右衛門ら一四名 勘定元ノ役所宛 慶応三年六月

美

一綴さ二〇〇

某勘右衛門用状「矢代村水主人別帳の件、寛政八年・文化五年の水主身分の取扱に関する申渡の報告」郡奉行草間一路宛 八月一七日

切

一通さ二二

勘定方宮澤善治申上書「一件吟味経緯報告。寛政八年の申渡以来の制度変更の事実をもって矢代村三役人を叱責するも承服せず、事件長引き恐入る旨、別紙相添申上」 七月八日

切継

一通さ二三

矢代村水主身分一件書類写「暖口上」「御内願之趣意」などの写

折

一通さ二三

矢代村一件召喚者名前書「組頭石坂安次郎・長百姓多田兵七・庄三郎・頭立・小前惣代ら二名」

切

一通さ二四

○明治二一三年(カ)
祢津左馬助桑原村出入荷担一件

調役申上書「桑原村小前惣代忠左衛門・十作ら太前を相手取り出入のところで祢津左馬助の趣、始末穿鑿のうえ復命」 九月

切継

一通さ二五

祢津左馬助書状「花房屋登楼一件の儀につき御苦勞ながら呉々も相願う旨」 高松屋御館中宛 八月二四日

切継

一通さ二六

郡村名主幸右衛門口上書写「河原左京・祢津左馬助方より桑原村栄治・灰原村喜市を召捕りを命ぜられたれど、余り手重につき当村清四郎立会にて栄治を尋問。昨年、村役人の跡にて権堂村花房屋に一宿したる趣を申述べたること」 桑原村忠八郎宛 九月一日

切継

一通さ二〇四

祢津左馬助家臣別府治郎兵衛達書写「灰原村喜市、昨年四月に柳沢忠八郎供として花房屋に参りたる由を申すにつき、実否取調の旨」 郡村嘉作宛 八月二十九日

切

一通さ二〇五

祢津左馬助家臣某達書写「喜市・栄治・唯重三名花房屋へ登楼の件、実否取調の旨」 同前宛 八月二十九日

切継

一通さ二〇六

下目付申上書「祢津左馬助の出入り荷担疑惑一件、穿鑿復命。同人、喜市・栄治らを女郎買の件で拷問・非違の処置をなすこと。同人家内中不身持ちにて博突打ら出入りとの風聞」 (目付宛カ) 九月

切継

一通さ二〇七

目付御尋物答書「祢津千里の桑原村出入荷担疑惑一件につき処置方尋答。出入荷担のうえ私曲を計り不埒至極、石高二〇石没収、御番勤御免、閉門百日が妥当の旨」 一〇月

切継

一通さ二〇八

勘定吟味役御尋物答書「祢津千里処置方尋答。目付答申に同意。万機改正の時節ゆえ土道鍊磨のため厳正処置が妥当の旨」 一〇月一六日

切継

一通さ二〇九

某誠太郎御尋物答書「同前件評議答申、御番御免、閉門七ヶ月が妥当。また祢津千里母も不行跡なれど答は見合わせ親類より教示致さすべき旨」 一月一八日

切継

一通さ二一〇

仕置類例書「小川瀧治、文化一四・文政五・同二一・天保九年に村方出入に荷担して閉門」

切継

一通さ二一一

御家中演説書写「村方・町方出入の節、当事者より家中屋敷への内意申入れを禁止」□（家老） 目付中宛 文化一三年十一月	半	一綴さ二〇二	一件処罰申渡書案文「森松多は給使罷免にて遠慮、乙治は謹慎」 一件処罰申渡書「同 前」	切	一通さ二〇七 一六 一通さ二〇七 一七
少参事御尋物答書「祢津千里処置方尋答。監察、大監察の両案あれど、御番御免・閉門百日が妥当の旨」（明治三年カ）二月八日	切	一通さ二〇四	封筒「紙屋町友之助、外田町峯吉等証文」 拝借金返済滞り諸件答書綴	切	一点さ二〇四 一綴さ二〇四
議長御尋物答書「同前件処置方尋答。大監察の案の御番御免・閉門七ヶ月が妥当、少参事の百日案は過少の旨」 二月二二日	切	一通さ二〇三	1 紙屋町長作答書「病死友之助の御内借掛りよりの借用金返済滞り一件」（奥書、長町人万兵衛） 奉行所宛 文久三年四月	堅懸	一通
処罰申渡書案「御番御免、閉門」 祢津千里宛			2 紙屋町留吉答書「自分女房きとの役代音吉、金二二両の拝借金返済滞り一件」（奥書、名主上野要助） 奉行所宛 同月	堅懸	一通
郡奉行連名同書写「仕置案。嘉作は過怠夫一ヶ年、桑原村源四郎・竹松は同断百ヶ日、ともに普請人足使役、栄治・喜市は構なし」 草間一路・市場源七郎	半 切	一通さ二〇五 一綴さ二〇六	3 紙屋町音吉・親類組合兼又七連印答書「同前件」（奥書、長町人万兵衛） 奉行所宛 同月	堅懸	一通
○明治年間 与一郎打擲一件			4 紙屋町留吉組合惣代止助・長三郎連印答書「同前件」（奥書、名主上野要助） 奉行所宛 同月	堅懸	一通
松代藩主簿申上書「新御安口安治伴与一郎、一六日夜に中条辺にて打擲され負傷の件、穿鑿復命」 （監察宛） 七月（二四日）	切懸	一通さ二〇七 一	御内借金借用証文綴「松代藩勘定所の御内借金の借用証文」		一綴さ二〇三
松代藩主簿申上書「犯人は森松多、足輕乙治の旨」 （同前宛） 八月	切懸	一通さ二〇七 一	1 御内借金借用証文「金二三両」 紙屋町音吉・組合兼友之助ら四名（奥書、清水戸佐久） 勘定所内借掛り宛 嘉永三年十二月	堅	一通
松代藩監察御尋物答書「森松多は給使罷免、遠慮二十日。乙治は叱り置が妥当の旨」 八月	切懸	一通さ二〇七 一三	2 御内借金借用証文「金二三両」 友之助・親類半蔵ら四名（奥書、上野要助） 同前宛 弘化四年三月	堅	一通
松代藩大監察御尋物答書「同前件尋答。監察の申し立てはあれども松多若年にて初犯につき謹慎三十日。乙治は同罪につき謹慎三十日となすべき旨」 （大参事宛カ） 八月八日	切懸	一通さ二〇七 一四			
松代藩少参事御尋物答書「大監察の意見に同意の旨」 （大参事宛カ） 八月一〇日	切	一通さ二〇七 一五			

3 御内借金借用証文「金一五両」 友之助・組合
惣代平治郎ら三名（奥書 同前） 同前宛 嘉
永二年二月

堅

一通

○年不詳
矢代村惣代徳兵衛一件

道橋奉行馬場介作用状「一件帳も本書も見当らざ
ること、徳兵衛は辰年以後の惣代の旨」 岡嶋莊
蔵宛

切

一通さ1030

馬場介作用状「辰年に徳兵衛を惣代に申付たるは
石倉源五左衛門にて、自分病中ゆえ覚なき旨」
同前宛

切

一通さ1031

矢代村徳兵衛申上書 井下札「文政三年河原見分
境立一件覚書。一二月九日に河原見分のうえ境立
は来春と定めたる旨」 馬場介作宛

切

一通さ1031

○その他

上横田村三役人申上書「当村地境争論の件、地境
確定のため西境の矢代村の立合印形を求めるも同
村難色」 名主忠右衛門ら三名 郡奉行所宛 安
永五年二月

堅

一通さ1031

田畑永代売渡証文写「年々貢上納金に差詰り田
畑・山林永代に譲渡の旨」 福土村地主磯五郎・
加判善次郎・儀右衛門 寛左衛門、伝右衛門、重
蔵、幾右衛門宛 寛政一一年二月九日

堅

四通さ二兎

長井村小作人・三役人連印請書「幕領今里村左
門某の作徳年貢滞り一件、速やかに片付くべき旨
一 仲七・卯八・名主九右衛門ら六名 郡奉行所
宛 文化一四年

堅

一通さ1031

大岡村宮平組三役人・扱人連印答書「当組北小
松尾村伴右衛門、甥瀬左衛門と高違いの儀につき
出入に及ぶも和談内済に至る。その調停経緯の報
告」 扱人嘉惣太・名主又次郎ら六名 勘定本
役所宛 文政五年三月

堅

一通さ二四八

加賀井村混雑一件上申書類写「同村三郎右衛門を
巡る紛議。他人の地所を自由に扱い、高借財にて
混雑」 文政六年

美

一綴さ10八

羽尾村村役人 井須坂村出作人物代等連印申上
書「羽尾村の須坂村出作分地の役儀勤方を巡る紛
議、内済成立につき提出書類を返却されたい旨」
羽尾村名主五郎右衛門・出作惣代清右衛門ら一
名 郡奉行所宛 文政七年三月

封筒

一通さ1031

四ツ屋村出入り扱人連印日延願書「同村紛議和
談趣意書、小前百姓に申聞すため来月一七日まで
日延べ願い」 三郎治・佐平 郡奉行所宛 文政
六年一二月

堅

一通さ1100

上横田村願人・三役人 井下横田村三役人等連
印申上書「三左衛門田地は与三郎へ譲渡の内談の
ところ、源弥・儀惣治から異議。このたび和談成
立につき吟味流し、訴答書類返却ありたい旨」
与三郎・三左衛門ら一三名 郡奉行所宛 文政八
年四月

封筒

一通さ1031

幕府勘定所差紙「松代領福島村要左衛門・重郎次・
久左衛門、吟味筋あり早々に出頭すべき旨」 勘
定奉行石川主水正 真田家留守居宛 （文政八年）
八月二日

切

一通さ二四

上徳間村亀吉親類惣代連名答書写「亀吉の桑代
三年分支払い滞りにつき平林村銀右衛門より出訴
の件尋答」 又右衛門・三郎兵衛 文政九年一月

切

一通さ1031

上松村大小百姓願書「富右衛門の名主役中の悪事につき詳細密訴。月割先納年貢に過分の利子を付して賦課、役料粗は一升到六合つ増徴など」宛所欠 文政九年四月

堅継

一通さ 四六

上松村願人某願書写「当村新湯の儀、捨湯のため呑水にも障り、また善光寺よりも大勢入込みて風俗悪化、村方若者も長湯いたし耕作の妨げなれば差止られたき旨」奉行所宛 文政九年七月

堅継

一通さ 二五

上松村願人某願書写「同前件。異文」松代御公儀奉行所役人衆中宛 文政九年七月

堅継

一通さ 二六

沓野村町宿中町惣五郎純書「沓野村米之丞御呼出しの件、触面遅刻のため三役人同道すべきところ組頭一人の付添いとなり失態。取りなし方嘆願」一代官所宛 文政九年九月五日

堅継

一通さ 二六

上小嶋村富右衛門等連印誓書写「借用金の返済整わざる時は質物を処分されたき旨」女房・長蔵ら四名 当村民八宛 文政九年

切

一通さ 二四

東条村南組徳左衛門・三役人等連印請書「夫銀割合騒動一件、処罰申渡の請書」名主健左衛門等二一名 郡奉行所宛 文政一〇年九月

堅継

一通さ 二四

質地出入立人人連印日延願書「八郎左衛門持地二六石余、杭瀬下村義太夫より質地金百両の返済滞り一件、内済不調につき来正中まで日延べ」下戸倉村熊蔵・東寺尾村三郎治 郡奉行所宛 文政一〇年一二月

堅

一通さ 四四

質地出入済口証文「八郎左衛門持地二六石余、質地金百両の返済滞り。返済計画詳細取極め」願人杭瀬下村義太夫、相手方上山田村八郎左衛門・請人四五八・名主宗右衛門・立人人三郎治ら九名 郡奉行所宛 文政一一年三月

堅継

一通さ 四四

町寺尾村三郎治等連名日延願書「上山田村八郎左衛門、杭瀬下村儀太夫よりの年貢質金返済滞りの件」三郎治・下戸倉村熊蔵 郡奉行所宛 文政一一年正月五日

堅継

一通さ 二六

湯田中村与五右衛門答書「团右衛門九ヶ年以前の家の家代金、兵十郎へ預置き一件尋答」(奥書、三役人) 郡奉行所宛 文政一一年三月一日

堅継

一通さ 二〇

湯田中村五郎治答書「同前件尋答。自分は团右衛門の借財整理に関与なき旨」(奥書、三役人) 同前宛 文政一一年三月一日

堅継

一通さ 二五

新町村三役人訴書「行倒人を当村三味場へ埋葬のところで、上条村より同地を同村分地と唱え死者を掘出し騒動の旨」名主久右衛門ら四名 郡奉行所宛 文政一一年八月

堅継

一通さ 二七

大岡村処罰人親類惣代・三役人連印願書「茂兵衛過意夫のところ、親林右衛門重病につき三ヶ日宿下り許可ありたき旨」勝右衛門・名主吉郎太ら四名 役夫調役所宛 文政一一年八月

堅

一通さ 二六

役夫調役同書「別紙出願の件、文政九年大岡石津組留蔵の出願の振合により許可ありたき旨」(郡奉行宛) 八月一〇日

切

一通さ 二五

郡奉行岡嶋在蔵用状并勘返状「同前件、振合にもあれば申渡すべきの旨。―先例もあれば余儀なき旨勘返」 職奉行石倉源五左衛門宛 (月日ナシ)

切 一通さ二四〇

里穂荻村利右衛門申上書「藍商売の仕入金差詰り不法の高書入にて弥津左盛方より金子借用。此度返済完了の旨」 代官所宛 天保四年三月

豎 一通さ二八三

網掛村三役人・立入人連印申上書「桑畑一件内済に至れども、良右衛門方より一件雑用金の支払いを巡り不服申し立て。明細帳は町宿帳の他には無き旨」 名主常吉ら六名 勘定所元ノ役所宛 天保四年四月

豎 一通さ二四五

小嶋村小前惣代連印内々願書「頭立栄吉・要右衛門ら村中役定にて三役人に就けども小前ら承服せず。役替に差上りたる節、御理解を加えられたき旨」 伴五郎・要左衛門・武左衛門 代官所・郡奉行所宛 天保七年正月

豎 一通さ二八

小弥山村井戸出入一件訴答人・村役人等連印願書「市兵衛強情の申立てにより一件再紛議、同人町宿預けとなり先非後悔。済口証文の履行を承知したるにより吟味流しありたき旨」 願人市兵衛・相手庄左衛門ら一三名 郡奉行所宛 天保七年五月

豎 一通さ二四〇

上徳間村三郎兵衛訴書「稲荷山宿騒動の次第報告。六百人の打ちわし勢。上田表より郡奉行・代官出役下五〇人」 村山左五兵衛代三郎兵衛 勘定所元ノ宛 天保七年八月(二六日)

切 一通さ二五

中牧村諸組惣代等連印請書「同村困穀積入方につき紛議。和談のうえ済口書面提出」 目方組森之助・石津組民蔵・中山組善五右衛門ら六名(奥書、三役人・町宿左兵衛) 郡奉行所宛 天保一〇年十一月

豎 封筒 一通さ二四四

下八町村吟味人親類組合惣代・三役人等連印請書「名主半左衛門、吟味中手鎖にて町宿預けの旨」 名主坂役弥五右衛門等六名 郡奉行所宛 天保一三年十二月

豎 一通さ二九

下八町村夫銀割紛議一件済口証文「夫銀割の節、名主半左衛門より長百姓伊右衛門に悪口乱暴の一件和談内済の旨」 願人伊右衛門・相手半右衛門等一〇名 郡奉行所宛 天保一三年十二月

豎 一通さ三〇〇

田野口村治右衛門地所出入一件留書 嘉永七年二月

一綴さ二六

正宗刀剣預主売渡し一件願書等綴

一綴さ二四三

1 小山謙斎歎願書写「小嶋田村静之助方へ預置き、の正宗の刀は上永鮑村村松八左衛門より借用のものにつき早速返し呉るよう取計れたき旨」 万延元年十一月

半 一綴

2 小山謙斎内々歎願書「静之助に掛合わんとすれども同人の居所不明にて困惑」 三月(カ)

切 一通

3 小山謙斎返答書写「亡父玄敬、村松八左衛門より預かりの正宗の刀を上小嶋田村万作へ預置き、同人子静之助これを売却との風聞につき返還を求めるも埒明かざる旨」 安政七年正月

半 一綴

大豆嶋村三役人答書「土屋坊村名主安左衛門より土堤築立申談の件申入れ。当方は松代藩よりの下知なくしては始め難き旨を返答」 名主佐兵衛ら六名 郡奉行所宛 文久二年五月 美 一綴さ二四六

松代藩勘定役青柳丈左衛門書状草案「土屋坊村公訴一件内済調印に至り安堵。その節の厚恩への謝意」 須坂藩役人中沢孫右衛門宛 二月 半 一綴さ二四七

金子拝借証文綴「御城用世薪入料」 南長池村宮沢弥惣八 御城用世薪掛り役所宛 明治二年 豎 一綴さ二四八

新町村三役人・頭立小前連名願書写「当村三昧場につき三条村より同村分地の由申立てあり、糾明ありたき旨」 (宛所ナシ) 子八月 切繼 一通さ二四九

音羽村徳右衛門・同親類連名申入書写「自分所持の田地につき清兵衛名前の証文あることから所屬紛争。毎年の上米の米手形も所持するうえは自分田地に紛れなき旨」 徳右衛門・惣七 八ヶ村肝煎宛 巳年九月二十四日 豎 一通さ二五〇

仁礼村問屋・肝煎連印申上書「坂木表中之条代官所へ出願の件につき経過報告。江戸注進のため江戸屋敷へ添状を下し置かれたき旨」 市郎左衛門・小兵衛ら四名 奉行所宛 亥年八月二十五日 豎 一通さ二五〇

某家家臣連署伏「自領中水鉋村利右衛門より松代城下中町美濃屋市左衛門への貸金返済滞り、善処方要請」 二本兵太夫・大平多喜治 磯田音門・草間一路宛 五月一〇日 切繼 一通さ二五七

中之条代官所役人連署状「松代藩初右衛門女房たつ、坂木宿旅籠屋利右衛門を相手取り娘なか取戻し願いの公事。内済和談吟味下げの旨」 松野茂一郎・水野良平 草間一路・前島友之進宛 一二月二七日 切繼 一通さ二五六

菊池伊惣治申上書「小川瀧治知行所西和田村百姓欠訴一件、大林寺へ縋りて願書貰下げを願ひおる旨」 切繼 一通さ二五五

八幡村出訴人連名答書案「市郎兵衛を相手取り糾明出願につき代官所・富沢勇蔵も同腹とて欠訴。欠訴は制禁なるを忘却いたし一言申訳なき旨」 郡蔵・利助等六名 (宛所ナシ) (年月ナシ) 半 一綴さ二五八

八幡村三役人申上書「天保一二年に百姓伊勢吉病身のため髪結渡世に転身。同人死後の跡渡世を巡り混雑一件」 名主庄右衛門ら三役人 郡奉行所宛 (年月ナシ) 半 一綴さ二五九

某内々申上書「上布施村名主喜伝次、年来私欲の取計い。その他同村恒左衛門・権五郎らの身上報告」 折 一通さ二六〇

奉行所召喚者名前書「上布施村・瀬戸村・中山新田村・牧野島村・下市場村」 切 六通さ二六三

屋敷地鑑絵図「喜伝次屋敷と同人所持の畑地および境界」 20×23cm 一通さ二六六

上布施村年貢割付状抜書 切 三通さ二七〇

文化一四一弘化二年
南長池村紛議一件

○善右衛門欠落始末一件

欠落善右衛門滞金勘定書「松代藩よりの拝借金、私人よりの借金の書上げ」 善右衛門 午三月五日

折紙

一通さ 三三

南長池村潰百姓一五人親類連印願書「寅蔵ら一五人、高金引負にて家内分散。持地・建家は村役元にて小作地・貸家として借金并済に充てたき旨」 潰惣吉親類名右衛門・惣五郎ら三〇名（奥書、三役人） 矢野倉惣之進・古若十右衛門 文化一四年八月

堅紙

一通さ 六五

南長池村小前太兵衛願書「欠落ち立戻りの親類善右衛門、職奉行所より入牢。牢扶持・過点銭は倅大吉が負担すべきを自分に課せられ難渋至極。同人とは不通いたしたき旨」 懸り役人宛 文政四年十二月

堅紙

一通さ 六六

善右衛門親類・組合連印願書「欠落人善右衛門立戻りにつき親類ら等閑。過料銭の一面は才覚するも残金三両余は用捨されたき旨」 大吉・太兵衛ら一名（奥書、三役人・頭立惣代） 吉澤十助・池田良右衛門宛 文政五年十一月

堅紙

一通さ 六七

善右衛門親類・組合・三役人連印請書「善右衛門領分追放なれど、病身につき領内徘徊御免」 太兵衛・名主七兵衛ら一四名 郡奉行所宛 文政六年五月

堅紙

一通さ 六八

善右衛門親類組合惣代・三役人連印屈書「同前件 職奉行よりの申渡に御請の旨」 太兵衛・重左衛門ら五名 吉澤・池田宛 文政六年五月

堅紙

一通さ 六九

鍛冶町町宿丈助答書「丈助方へ善右衛門罷越しの有無尋答。武右衛門娘大病につき引取りに来る旨 町同心伊堀英次・松本元右衛門、郡方手附坂口惣三郎宛 文政七年十一月三日

堅紙

一通さ 六〇

○南長池村一件訴陳状

南長池村訴訟惣代宇平次・和平連印誓書「弁金帳を閲覧して承服。此上異議なき旨」（奥書三役人） 吉澤十助・池田良右衛門宛 文政六年四月

堅紙

一通さ 六五

南長池村弥惣八誓書「同前件。村内寄合等なきよう致す旨」 吉澤・池田宛 文政六年四月

堅紙

一通さ 六五

南長池村三役人・頭立小前惣代 并 立入人連印請書「名主選出の件紛議和談。申酉年は名主義兵衛、下役久右衛門・弥惣八、戌年名主役は弥惣八の旨」 名主甚右衛門・立入人新町村源之丞ら一六名 池田宛 文政七年五月

堅紙

一通さ 六〇

南長池村訴訟惣代衆七等連印答書「名主役選出に弥惣八に入札の訳。また御掛り役人より断わりあるやの旨尋答」 衆七・七郎治・音右衛門 代官所宛 文政七年七月

堅紙

一通さ 六九

南長池村頭立・小前惣代等連印願書「持高二石余の弥惣八の名主役は一村混雑の基。入札を主張の弥惣八并同人へ入札の者の詮議ありたき旨」 長百姓又左衛門・頭立又左衛門・小前惣代藤吉・利右衛門ら九名 代官所宛 文政七年七月

堅紙

一通さ 六二

訴訟惣代音右衛門等連印願書草案「諸件糾明願い。連証寺借入金三六両余、欠落善右衛門年貢滞分四九両余等の件。弥惣八自筆の草案」 音右衛門・七郎治・衆七（代官所宛） 文政七年八月

堅紙

一通さ 六三

訴訟惣代音右衛門等連印願書「六九三番の正文」 同前 代官所宛 同年八月

堅紙

一通さ 六五

訴訟惣代音右衛門等連印内訴書「六九五番願書を代官所へ提出のこと内々届」 同前（宛所ナシ） 同年八月	堅継	一通さ 六四	六右衛門子和平書取「弥惣八・寅蔵らに誘われ古役人糾弾に参加、庄左衛門作成の帳面に連印など先非後悔の旨」 立入人宛 文政七年十一月	横長美	一綴さ 二五
南長池村小前惣代喜平太等連印願書「弥惣八の名主役に不服。古役の勘定不正は糾明ありたき旨」 喜平太・名左衛門・三郎兵衛 代官所宛 文政七年九月	堅継	一通さ 六六	宇左衛門子宇平治等連名書取「私宅へ弥惣八ら多数参集し庄左衛門筆記の帳面に連印」 宇平治・親類庄五郎 同前宛 同年十一月	横長美	一綴さ 二一
南長池村古名主等相続人連印申上書「親の古名主に不正あるや否や嚴重吟味ありたき旨」 午年名主与右衛門跡名右衛門・申酉年名主久右衛門跡久右衛門 同前宛 同年九月	堅継	一通さ 六七	町宿周兵衛等連名書状類留書「和平女房ら欠訴一件、教唆人の糾明。東寺尾村三郎治への書状など書面の留書」 同年十一月	横長美	一綴さ 二五
南長池村長百姓又左衛門等連印返答書「条七らの古役不正申立一件への全二ヶ条の返答」 又左衛門・義兵衛・勇右衛門 代官所宛 文政七年九月	堅継	一通さ 七〇	南長池村太兵衛誓書「自分難渋につき親浅右衛門差出の屋敷地六斗九升を小作。寅年に又左衛門より粉一俵貰い受け」 小林三左衛門・古岩彦作宛 文政七年十一月	堅	一通さ 七三
訴訟惣代音右衛門等連印答書「小前の惣代となる次第尋答。一同に頼まれるに相違なき旨」 音右衛門ら三名（奥書、名主甚右衛門・組頭弥左衛門・長百姓又左衛門） 郡奉行所宛 文政七年一〇月	堅継	一通さ 六六	卯辰年名主甚右衛門等連印誓書「卯辰年の夫銀控帳・人別割合元帳の所在不明。夫銀割元帳はあり」 義兵衛・甚右衛門・弥左衛門・又左衛門 同前宛 同年十二月	堅継	一通さ 七三
南長池村一郎右衛門答書「蓮証寺借用金の件尋答。自分年貢上納のため同寺先住より金三兩借用に相違なき旨」（奥書、三役人） 郡奉行所宛 同年一〇月	堅継	一通さ 六九	甚右衛門口書「夫銀割付後は扣元帳のみを残すにつき下帳は等閑紛失のこと不調法の旨」 同前宛 同年十二月	堅継	一通さ 七四
長百姓又左衛門等連印願書「本村紛議の腰押をなす西尾張部村市右衛門と蓮証寺を吟味ありたき旨」 又左衛門・義兵衛・久右衛門・喜平太 同前宛 同年一〇月	堅継	一通さ 七〇	又左衛門口書「同前」 同前宛 同年二月	堅継	一通さ 七五
南長池村善蔵・親類組合惣代連印答書「親利兵衛病氣にて御理解への返答なしえず。庄左衛門を召出、理解を加えられたき旨」 善蔵ら三名（奥書、三役人） 同前宛 文政七年十一月	堅継	一通さ 七二	又左衛門・義兵衛連印口書「子丑年役中の夫銀明細帳を紛失不調法の旨」 同前宛 同年二月	堅継	一通さ 七六
			午年名主弥左衛門口書「夫銀明細帳の下帳は紛失不調法の旨」 同前宛 同年十二月	堅	一通さ 七九
			甚右衛門答書「文化四年役中、蓮証寺・中越村長十郎より借用金につき年賦割合方。暮に取集め自分手元に預かりおくこと不調法の旨」 同前宛 同年十二月	堅	一通さ 七八

南長池村吟味人・小前惣代・三役人等連印請書 〔庄左衛門・七郎治吟味中人牢なるも寒中ゆえ出牢のこと〕 庄左衛門・七郎治・喜平太・音右衛門ら八名（奥書、立入人三郎治ら三名） 郡奉行所宛 同年二月二十五日	堅繼	一通さ 七七
庄左衛門書取「弥八の教唆にて一件荷担、先の答書は七郎治と弥惣八の強要に基づくもの」立入人宛（文政八年）正月一〇日	横長美	一綴さ 三三
又左衛門答書写「連証寺・長十郎借金取計方など四件尋答」 文政八年八月	横長平	一綴さ 六六
義兵衛・又左衛門等名代連印願書「義兵衛らより差上の子丑寅年の弁金取集帳、扱人ら閱覧のため拝借したき旨」 寿吉・喜平太 郡奉行所宛 文政九年一月七日	堅	一通さ 六七
頭立弥惣八・小前惣代和平・忠兵衛連印訴書 〔扱人ら調停手切れを当一四日に名主方まで申入の旨〕 評定所宛 文政一〇年二月	堅繼	一通さ 六八
大前百姓久右衛門等連印訴書〔同 前〕 久右衛門・喜平太・助之丞 同前宛 同年二月	堅	一通さ 六九
頭立弥惣八等連印願書類写「義兵衛ら夫銀元帳など紛失と唱えて埒明かず、早急に吟味ありたき旨」 評定所宛 文政一〇年九月	横長美	一綴さ 三九
○西尾張部村喜惣治取調一件		
鍛冶町宿丈助請書「宿にある南長池村小前らを他村の者と逢対させまじき旨」 郡奉行所宛 文政七年一〇月一七日	堅	一通さ 四三
西尾張部村三役人請書「南長池村一件につき当村喜惣治不審を蒙り、吟味中手鎖にて村預け承知の旨」 名主文左衛門ら三名 同前宛 同年二月	堅	一通さ 四〇
西尾張部村三役人願書「喜惣治差紙にて召喚されるも大病につき日延べ願ひ」 名主久右衛門ら三名 同前宛 文政八年二月	堅	一通さ 四七
喜惣治親類組合惣代・三役人等連印請書「喜惣治詮議中、町宿預け承知の旨」 親類市左衛門・中町町宿米蔵ら七名 同前宛 同年二月二十四日	堅	一通さ 四九
喜惣治縫書「南長池村一件につき連証寺にて向御所村七郎右衛門と口論し、御上の悪口をなす。この段取りなし方歎願」 光蓮寺宛 文政八年三月	堅繼	一通さ 四三
光蓮寺奥書「先に提出の書取を聞流し、返却されたき旨歎願」 立入人衆宛 同年二月	堅	一通さ 四三
喜惣治・親類・三役人連印縫書「喜惣治、南長池村小前并連証寺の腰押荷担の咎にて手鎖村預け。赦免の執成方依頼」 市左衛門ら五名 光蓮寺・立入人衆宛 文政八年三月	堅繼	一通さ 四三
光蓮寺・立入人衆連印願書「同前件、吟味流し歎願」 光蓮寺・東寺尾村三郎治・中町六郎兵衛・伊勢町周兵衛 郡奉行所宛 同年三月	堅	一通さ 四二
喜惣治・親類・三役人連印請書「菩提寺の歎願にて赦免有難き旨」 市左衛門ら五名 同前宛 同年三月	堅	一通さ 四二
音右衛門・七郎治連印答書「利兵衛より上納滞り無き旨の書付を受取り、弥惣八に書写を頼みたる事実なき旨」（奥書、三役人） 郡奉行所宛 文政八年四月	堅繼	一通さ 二四
善蔵口上書「弥惣八より自分親利兵衛に、上納滞り無きとの下書を差遣たる旨」 喜平太宛 西三月	堅	一通さ 二四
音右衛門口上書「弥惣八に頼まれ庄左衛門へ書面を遣したる事実なき旨」 同前宛 同月	堅	一通さ 二四

喜惣治親類組合・肝煎連印請書「喜惣治詮議中、手鎖にて組預け承知の旨」市郎右衛門・新吉・丈七 評定所宛 文政八年六月 堅継 一通さ 四四

裏柴町喜惣治内々絶書「弥惣八・忠兵衛らに頼まれ投訴のこと等恐入。旦那寺へ縋りくれたき旨」梅煎院宛 同年六月 堅継 一通さ 四四

新町村源之丞親類組合・三役人等連印請書「源之丞詮議中、手鎖町預け承知の旨」親類龍八・町宿巳之吉ら七名 郡奉行所宛 同年六月二四日 堅 一通さ 四六

喜惣治・肝煎丈七連印請書「喜惣治の手鎖赦免の旨」評定所宛 文政八年七月 堅 一通さ 四六

○西尾張部村蓮証寺
貸金有無取調一件

金子借用証文写「貴方口入れにて龍光房より金二二兩借用、引当田地三石余。返済滞金の覚書付属」南長池村借主利兵衛・受人儀右衛門（奥書、名主久右衛門） 中越村長蔵宛 享和元年二二月 堅 一通さ 二九

金子借用証文写「金一五兩、引当田地一石五斗余。返済滞金の覚書付属」利兵衛ら二名（奥書、同前） 蓮証寺宛 同年二二月 堅 一通さ 二五

金子借用証文写「金一〇兩、引当田地一石一斗余。返済滞金の覚書付属」南長池村借主儀右衛門ら二名（奥書、名主小左衛門） 同前宛 享和二年二二月 堅 一通さ 二五

西尾張部村蓮証寺覚書「金一〇兩を利兵衛へ融通のこと実正の旨」（宛所・月日欠） 切 一通さ 二五

南長池村又左衛門等連印願書「欠落善右衛門分の借用金の処置方」又左衛門・喜兵衛・義兵衛 矢野倉惣之進宛 文化一三年四月 堅継 一通さ 二五

西尾張部村三役人答書「蓮証寺より南長池村へ貸金なき由の書付を、同村和兵衛へ渡す旨、等」名主文左衛門ら三名 郡奉行所宛 文政七年一〇月 堅継 一通さ 三二

西尾張部村役元覚書「代官所へは蓮証寺より南長池村への貸金一切なしと返答の旨」一〇月 堅 一通さ 三八

西尾張部村光蓮寺頼書「蓮証寺より本坊光蓮寺宛の絶書の内容の伝達依頼。南長池村への貸金は先年はあれど手段金にて清算して今はなし。しかるに弥惣八・和平・庄左衛門らの申立に任せ貸金一切なしとの下案通りの書付を渡したる旨」立入人衆宛 文政七年一二月 堅継 一通さ 三三

一件立入人衆連印奥書「同前本文の奥書印形」三郎治・六郎兵衛・周兵衛 郡奉行所宛 三三

西尾張部村蓮証寺絶書「同前貸金一件、「当時一切無しと認めるべきを書落とし不調法の旨」（奥書、光蓮寺） 代官所宛 同年一二月 堅継 一通さ 三三

蓮証寺答書「貸金一件につき庄左衛門に頼まれ下案の通り認めたる旨」（奥書、光蓮寺） 丸山六右衛門宛 文政八年四月 堅継 一通さ 三四

蓮証寺新発智識諦欠訴状「同寺より郡奉行所宛の願書、取用なきにより欠訴。九ヶ年以前の利兵衛への貸金は偽りにて、利兵衛子の善蔵と同寺先住の密議による旨」大目付海野藤馬宛 文政八年六月 堅継 一通さ 三五

蓮証寺新発智識諦請書「吟味中他出留め承知の旨」（奥書、光蓮寺） 評定所宛 同年七月 堅継 一通さ 三六

南長池村弥惣八等連印絶書「古役人義兵衛・又左衛門・利兵衛親子ら私欲願われ牢舎。われら牢舎御免となるも連証寺貸金など三ヶ条の借用金問題あつて難渋。一件示談吟味流しとすべく取計れたき旨」 弥惣八・和平・忠兵衛 証連寺・西蔵寺宛 文政八年十二月

堅懸

一通さ 七二

連証寺新発智誠諦覚書「南長池村への貸金一件につき偽りの書付を認めた事情説明」(奥書 連証寺) 旦中七郎右衛門宛 一二月

堅懸

一通さ 七九

連証寺覚書「同前件、連証寺先住の一件への対応、事情説明」 旦中七郎右衛門宛 一二月

堅懸

一通さ 七〇

南長池村一件連証寺借金関係書類

堅

一綴さ 〇三三

1 西尾張部村連証寺覚書「南長池村より当寺へ年賦金返済は勿論、金子貸付は一切無き旨」 弥惣八・和兵衛宛 文政六年二月

堅

一通

2 西尾張部村連証寺覚書写「同 前」 同前宛 同月

堅

一通

3 南長池村利兵衛答書「同村四郎兵衛の連証寺よりの借金有無尋答。ただ今まで一切借金はなき旨」(奥書、三役人) 郡奉行所宛 文政七年一二月

堅懸

一通

○南長池村一件
御掛より御下書面

南長池村組惣代和兵衛答書「不正勘定一件尋答。連証寺と利兵衛の謀計に欺かれしものにて同腹にあらず。また徒党頭取にてもなき旨等」 立入人宛 文政七年一〇月

堅懸

一通さ 五二

南長池村和平誓書「連証寺より当村に貸金一無しとの同寺差出の書付は同寺自筆の旨」(奥書、三役人) 同前宛 同年一二月

切堅

一通さ 五三

南長池村音右衛門誓書「組合の者同様に名主役は弥惣八に入札。代官所への答書、奉行所への欠訴も弥惣八の差図によるもの等」 同前宛 同年一月

堅懸

一通さ 五三

南長池村利兵衛等連印誓書「弥惣八・弥八らの申に任せ、連証寺借金無しと先に答えしは事実相違の旨」 利兵衛・善蔵・太兵衛(奥書 三役人・又左衛門・義兵衛・久右衛門) 同前宛 同年一月

堅懸

一通さ 五四

一件立入人衆連印奥書「同前件赦免の旨歎願」 三郎治・六郎兵衛・周兵衛 郡奉行所宛

五四

付箋「品々申訳無之段立入人元差出候書類」(郡奉行所)

五四

長沼地蔵町文太夫絶書「自分親類七郎治、利兵衛・莊左衛門らに同腹のこと恐入り。妻子ら困窮につき出年執成方」 立入人衆宛 同年一二月

堅懸

一通さ 五五

一件立入人衆連印奥書「同前件歎願」 三郎治ら三名 郡奉行所宛

五五

南長池村善蔵答書「連証寺より借金あること申立てんとするも寅蔵に威嚇され虚偽を申せしこと等」 立入人衆宛 同年一二月

堅懸

一通さ 五六

一件立入人衆連印奥書「同前件歎願」 同前 同前宛

五六

南長池村三役人・吟味人親類等連印誓書「弥惣八・寅蔵・弥八病気の件につき医師玄仁らより差上の別紙容鉢書に相違なき旨」 名主甚右衛門・弥惣八親類組合兼太左衛門ら六名 郡方手附岡村方之丞・宮本熊右衛門・御加人孝右衛門宛 文政七年十二月

堅懸

一通さ 六三

西尾張部村医師玄二容鉢書「弥八喘息甚だしく歩行困難」(奥書、岡村・宮本) 岡村・宮本宛 二月三日 切継 一通さ 六二	風間村医師通卓容鉢書「弥惣八持病の疝氣にて歩行困難。寅藏眼病のうゑ風邪寒熱」(奥書、同前) 同前宛 同日 切継 一通さ 六〇	南長池村村役人等連名申上書「弥惣八ら左程の病氣にも見えざる旨」 組頭弥左衛門・長百姓又左衛門・頭立義兵衛 勘定所元ノ役所宛 文政八年正月 堅継 一通さ 六三	南長池村弥吉等連印絶書「親弥八、大病にて重き咎にては一命は計らい難く自分身代りとされたき旨」 弥吉・親類政之丞 立入人衆宛 文政八年三月 堅継 一通さ 五七	一件立入人衆連印奥書「同前件歎願」 同前 同前宛 五七	向御所村七郎右衛門答書「自分兄中越村長重郎より南長池村への貸金無しと申立の件。同村への貸金は日記に明白記載ある旨」 立入人衆宛 文政八年六月 堅継 一通さ 五八	南長池村勘定不正一件穿鑿覚書「一件当事者の名前書、村方弁金割付の金額等取調べ報告書(郡奉行所力)」(文政七年頃) 横長半 一綴さ 四九	南長池村勘定不正一件穿鑿覚書「名主義兵衛らの藩よりの御手充初代金の横領等。訴訟過程の偽巧の次第取調べ」(同前力) 六月 半 一綴さ 五〇	松代藩役人申上書「甚右衛門の代行者又左衛門・儀兵衛の不正報告。長門殿の蔵本としての年貢上納分に横領謀計」(目付下役力) 六月 切継 一通さ 五二	
松代藩役人申上書「又左衛門の諸勘定の不正。儀兵衛ら頭立弥惣八の名主役就任を妨害せんとするも小前らは同人を支持」(同前) 七月 切継 一通さ 五二	松代藩役人申上書「連証寺の虚偽申立の件、同寺と善藏との掛合は事実」(同前) 七月 切継 一通さ 五三	松代藩役人申上書「一件内密穿鑿の復命。中越村長十郎よりの借用金の有無の件、訴答双方の申分列記」 六月 半 一綴さ 五四	南長池村儀兵衛答書写「連証寺・中越村両所借金の件、その返済名目で村方より徴集の金子は地頭方難渋につき取替差出、等」 八月二一日 切継 一通さ 五五	西尾張部村連証寺答書「貸金一件虚偽の書付は利兵衛より金主手書なくしては申訳立たず、山林する他なしと頼まれるに拠る旨」(藩役人宛) 文政八年六月一五日 横長美 一綴さ 五六	南長池村上納滞金勘定書「御内借金、寅年より巳年まで滞納分六筆三一兩三分余」 七月 切継 一通さ 五七	南長池村上納滞金勘定書「丑年分、金二兩二分余」 切 一通さ 五八	南長池村上納滞金勘定書「御手入金、丑年より巳年まで滞納残金一二兩。御内借金、三一兩三分余」 切継 一通さ 五〇	郡奉行御用廻状「南長池村善兵衛痢病ゆゑ手鎖赦免願出の件、快気まで願の通り申付べきや相談申入」 金井左源太 岡野弥右衛門・石倉源五右衛門・片岡主計・小野喜太右衛門宛 九月 切継 一通さ 五八	○潰利兵衛持地并借金調 南長池村三役人・頭立義兵衛連印願書「潰利兵衛指出地所の坪数の件、弥惣八ら疑惑申立につき御検使見分ありたき旨」 仮名主名右衛門ら四名郡奉行所宛 文政八年四月 堅継 一通さ 六二

莊左衛門・善藏連印吟味答書「連証寺借金は本来あれども弥惣八らに同腹いたし虚偽の申立をなす旨」(奥書 三役人) 同前宛 同年四月

堅継

一通さ 六九

南長池村三役人・頭立・小前惣代等連印答書

「当村田畑小作入坪数など村法規定の有無尋答一俵納で二坪より七七坪ほど、田方坪数は畔際より一尺除き竿打、等」 仮名主名右衛門ら一三名 水井忠藏・片桐重之助宛 文政八年五月

堅継

一通さ 七三

南長池村久右衛門答書「利兵衛の連証寺・長十郎よりの借用証文に自分亡父奥印せしに相違なき旨」

郡奉行所宛 同年五月

堅

一通さ 七九

南長池村勇右衛門答書「連証寺借金の件、文化一四年に又左衛門より手段金を利兵衛に渡して証文を取戻たる旨」 同前宛 同年五月

堅

一通さ 六〇

義兵衛・又左衛門連印答書「連証寺へ二両、長十郎へ三両の手段金をもつて証文を取戻の旨」 同前宛 同年五月

堅継

一通さ 六二

南長池村又右衛門答書「潰利兵衛と自分親庄左衛門と御用地差引の件尋答。庄左衛門譲受の田地代金二二両の返済不調となり、三〇ヶ年賦の村方弁金に切替の旨」 評定所宛 文政八年八月

堅継

一通さ 六三

潰利兵衛分田地入上積り御書上帳「田地二石四斗余の小作初と年貢諸役との差引勘定」

横長半

一綴さ 六三

潰利兵衛 井欠落善右衛門・浅右衛門地所之分作入坪数明細書 水井忠藏・片岡重之助 五月小

横長半

一綴さ 六三

○組合諸村より立入一件

隣村村役人等連印願書「南長池村内和融せず困惑。竹花代官の手にて和談調停ありたき旨」 風間村長百姓弥五右衛門・上高田村名主市左門・下高田名主名代喜三郎ら四名 代官所宛 文政七年二月

堅継

一通さ 六四

煤花川用水組合拾九ヶ村惣代連印願書「用水普請入料夫銀割合の件、南長池村紛議未解決につき吟味日延のうえ立入異見なされたき旨」 里村山村市三郎ら八ヶ村九名 証連寺・浄真寺ら六ヶ寺宛 文政八年九月

堅継

一通さ 六九

寺町証連寺等六ヶ寺連印願書「南長池村一件、拙寺より異見和熟せしむべく吟味日延ありたき旨」 証連寺・浄真寺・西光寺・長命寺・康楽寺・西徹寺 評定所宛 同年九月

堅継

一通さ 六六

南長池村一件立入人連印願書「示談難航につき年明けまで猶予の旨」 用水廿二ヶ村組合惣代下高田村与惣治・北長池村庄左衛門ら六名(奥書、代官竹花庄左衛門) 代官所宛 文政八年二月

堅

一通さ 六〇

南長池村一件立入人連印願書「立入懸合中、吟味人らの処置を赦免ありたき旨」 同前(奥書、同前) 同前宛 文政九年二月

堅継

一通さ 六三

南長池村一件立入人惣代連印請書「久兵衛・甚右衛門・勇右衛門・儀兵衛・又左衛門・庄左衛門・善藏・弥八の八名 自分らに預けのこと」 立入惣代庄左衛門・与惣治 職奉行同心新井七右衛門・郡方手附坂口惣三郎宛 同年二月二三日

堅継

一通さ 六三

南長池村一件立入人連印申上書「示談難航。六ヶ寺院・牟礼宿浅右衛門らに立入を任せられたく、私共は手切の旨」 庄左衛門ら六名評定所宛 文政九年七月

堅継

一通さ 六三

南長池村一件立入人連印申上書「私共の調停不能の旨」 同前 郡奉行所宛 同年七月

堅継

一通さ 六四

職奉行岡野弥右衛門用状「牟礼宿浅右衛門、一件立入を申出。同人の人物等を勘弁のうえ貴意を伺いたき旨」 郡奉行金井左源太宛 七月三日

切継

一通さ 六五

南長池村一件立入人連印申上書「奉行所の沙汰なくして内済なしとて調停拒否。よって一同引取りたき旨」 庄左衛門ら六名 評定所宛 文政九年八月 堅継 一通さ 六五

南長池村弥惣八等連名答書「牟礼宿浅右衛門の内済和談の立入に取り合わざるにつき勘定所にて譴責。同人の調停を受入れるべき旨」 弥惣八・和平・忠兵衛 職奉行所・郡奉行所宛 文政九年八月 堅 一通さ 〇三

南長池村喜平太願書「現在の扱いが破談の時は、羽場村幸左衛門らを調停者に頼みたき旨」 代官所宛 文政九年八月 堅継 一通さ 〇六

南長池村一件立入人連印願書「一件破談としたき旨」 同前（奥書、竹花庄左衛門） 同前宛 文政一〇年二月 堅継 一通さ 六六

○南長池村一件御預け、入牢等請書

弥惣八親類組合惣代・三役人等連印請書「弥惣八詮議中、手鎖腰繩にて町宿預け」 親類惣代喜兵衛・町宿周兵衛ら六名 郡奉行所宛 文政七年一〇月 堅継 一通さ 六二

七郎治等親類組合惣代・三役人等連印請書「七郎治・庄左衛門手鎖町宿預け」 太兵衛・町宿惣五郎ら七名 同前宛 同年一〇月 堅継 一通さ 六三

寅蔵親類組合惣代・名主組頭等連印請書「寅蔵・同前」 弥八・和平・町宿ら五名 同前宛 一〇月一七日 堅 一通さ 六三

音右衛門親類組合惣代・三役人等請書「音右衛門・同前」 金兵衛・弥左衛門・町宿周兵衛ら六名 同前宛 同年一〇月 堅継 一通さ 六四

中町町宿佐平請書「弥惣八母・和平女房・寅蔵女房三人、大目付へ欠訴につき町宿預け」 同前宛 同年一〇月 堅 一通さ 六五

七郎治等親類組合惣代・三役人連印請書「七郎治・庄左衛門吟味中牢舎につき牢扶持命ぜられ承知」 太兵衛・万之助・斧右衛門ら一名 職奉行所・郡奉行所宛 文政七年十一月 堅継 一通さ 六六

医師仁科松泉容牒書「庄左衛門寒熱頭痛にて柴胡桂枝湯投与の旨」 申（文政七年）十一月九日 切 一通さ 六八

西尾張部村利兵衛請書「吟味中他行留め承知」 （奥書、三役人） 郡奉行所宛 文政七年十二月 堅継 一通さ 六九

甚右衛門親類組合惣代・三役人連印請書「南長池村名主甚右衛門、手鎖村預け」 源右衛門・藤藏ら四名 同前宛 文政八年二月一日 堅継 一通さ 六八

弥八親類組合惣代・三役人等連印請書「弥八町宿預け」 弥吉・町宿ら七名 同前宛 同年二月二十四日 堅 一通さ 六七

甚右衛門・親類善助連印答書「是迄の心得違ひ一言申訳なき旨」 （奥書、三役人） 同前宛 文政八年三月 堅継 一通さ 六九

南長池村和惣治答書「在江戸の自分親半左衛門、代官所より召喚されるも病氣歩行困難の旨」 （奥書、三役人） 同前宛 同年三月 堅継 一通さ 六〇

又左衛門等親類組合・村役人等連印請書「長百姓又左衛門・頭立儀兵衛、詮議中手鎖町宿預け」 久左衛門・助左衛門・仮名主名右衛門・組頭弥左衛門・町宿惣八郎ら七名 評定所宛 文政八年七月 堅継 一通さ 六三

又左衛門等親類組合・村役人等連印請書「又左衛門と儀兵衛子寿吉、吟味中町宿預け」 久左衛門・町宿ら七名 評定所宛 同年七月 堅継 一通さ 六三

勇右衛門等親類組合・三役人等連印請書「勇右衛門・善兵衛・利兵衛町宿預け」 庄兵衛・太兵衛・久兵衛・町宿惣八郎ら一〇名 評定所宛 同年七月	堅 一通さ 六三
弥八親類組合・三役人等連印請書「弥八町宿預け」 藤藏・源右衛門・町宿ら六名 評定所宛 同年七月	堅 一通さ 六四
甚右衛門親類組合・仮長百姓連印請書「甚右衛門他行留めのところ不慎につき村預け」 藤藏・仮長百姓弥兵衛ら四名 評定所宛 文政八年八月四日	堅 一通さ 六五
勇右衛門等親類組合・三役人連印請書「勇右衛門・善兵衛町宿預け免除、手鎖腰縄にて村下け」 庄兵衛・久兵衛ら七名 評定所宛 同年八月一日	堅 一通さ 六六
弥八親類組合・三役人等連印請書「弥八病氣につき手鎖赦免」 藤藏・町宿ら六名 評定所宛 同年八月二日	堅 一通さ 六三
又左衛門等親類組合連印願書「又左衛門・儀兵衛病氣ゆえ弟・悻らを代人に牢舎赦免方」 伊右衛門・助左衛門・喜平太 (町宿宛) 文政八年八月	堅 一通さ 六六
又左衛門弟与惣治願書「又左衛門病病ゆえ自分替代にて出牢命ぜられたき旨」 (町宿宛) 同年八月	堅 一通さ 六三
義兵衛次男田藏願書「義兵衛の入牢代願い」 (奥書、三役人) (町宿宛) 同年八月	堅 一通さ 六五
職方同心・郡方手附連印申上書「牢舎の儀兵衛・又左衛門病氣の件、甚だ難渋の旨医師玄順より容鉢書上申」 職奉行同心植村勇助・白澤慶左衛門、坂口惣三郎 文政八年八月	堅 一通さ 六三

東寺尾村医師玄順容鉢書「儀兵衛は脚氣、又左衛門は下痢にて両名とも難渋の旨」 評定所宛 西八月二三日	切 一通さ 六四
伊勢町宿惣八郎内々伺書「両名重病にて親類ら出牢數願方を頼む。宿下けを命ぜらるべきやの旨」 評定所宛 文政八年八月一二日	堅 一通さ 六四
儀兵衛親類組合・三役人等連印請書「儀兵衛病氣につき出牢、腰縄町宿預け」 助左衛門・町宿喜代八ら六名 評定所宛 文政八年八月	堅 一通さ 六五
又左衛門親類組合・三役人連印請書「又左衛門牢舎のところ病氣につき腰縄町宿預け」 伊左衛門・与惣治・町宿佐平ら六名 評定所宛 同年八月	堅 一通さ 六六
甚右衛門親類組合・三役人等連印請書「甚右衛門手鎖町宿預け」 善助・源右衛門・町宿ら六名 評定所宛 同年八月一六日	堅 一通さ 六七
医師仁科松泉容鉢書「弥八痰積・眩運につき伏荅投与の旨」 八月	切 一通さ 六五
善兵衛親類・三役人連印願書「善兵衛病病ゆえ手鎖腰縄赦免願い」 久兵衛ら四名 評定所宛 文政八年九月二一日	堅 一通さ 六七
善兵衛親類・三役人連印請書「善兵衛手鎖赦免、腰縄は従前通り」 久兵衛ら四名(奥書、内山忠治) 郡方手附内山忠治宛 同年九月	堅 一通さ 六六
善兵衛親類組合・三役人連印願書「善兵衛の腰縄も赦免ありたき旨」 久兵衛・久三郎ら五名 評定所宛 同年九月二四日	堅 一通さ 六〇
善兵衛親類組合・三役人連印請書「善兵衛病氣難渋ゆえ腰縄も赦免」 久兵衛・久三郎ら五名(奥書、平井安右衛門) 郡方手附平井安右衛門宛 同年九月	堅 一通さ 六九

善兵衛親類組合・三役人答書「村預けの善兵衛出奔。行方五日尋ね命ぜられ承知の旨」名左衛門・栄左衛門ら五名 職奉行所宛 文政八年一〇月一五日

堅継

一通さ 六二

南長池村久兵衛親類組合・三役人等連印請書「久兵衛手鎖、首鎖にて町宿預け」久右衛門・徳兵衛・町宿周兵衛ら六名 職奉行所・郡奉行所宛 同年一〇月

堅継

一通さ 六三

善兵衛親類組合・三役人連印御訴書「善兵衛行方一〇日尋ね命ぜられるも不調。日切につき此段御訴の旨」名左衛門・栄左衛門等五名 職・郡奉行所宛 文政八年一二月

堅

一通さ 六四

善兵衛親類組合・三役人連印請書「善兵衛なおまた二〇日尋ね命ぜられ承知の旨」同前 同前宛 同年一二月三日

堅

一通さ 六五

久兵衛親類組合・三役人連印請書「久兵衛首鎖救免にて村下げ」名左衛門・栄左衛門ら五名 同前宛 同年一二月

堅

一通さ 六六

○南長池村一件紛議再発

弥惣八等連印絶書「古役人義兵衛・又左衛門らの不正一件、職・郡奉行所に訴えるも取上げられず。よって欠訴の旨」頭立弥惣八、小前惣代和平・忠兵衛 大目付役所宛 文政一〇年一二月

堅継

一通さ 六六

弥惣八等親類・三役人連印請書「弥惣八・和平町宿預け救免にて村預け。逃亡の節は身代り入牢」喜兵衛・源右衛門、仮名主弥兵衛・組頭弥左衛門・仮長百姓庄兵衛 郡奉行所宛 文政一〇年一二月七日

堅継

一通さ 六八

南長池村一件訴答百姓・三役人連印請書「一件入組みて不容易、同村亡所の恐れあるにつき疑惑は不問に付し急度叱り申渡」又左衛門・久右衛門・弥惣八・衆七・喜平太ら二十七名 評定所宛 同年一二月二日

堅継

一通さ 六四

頭立久右衛門・小前喜平連印内々申上書「町宿預けの弥惣八ら義兵衛・又左衛門との対決を求めて絶書の提出を拒否」（奥書、仮名主・組頭）代官所宛 文政一〇年一二月

横長美

一綴さ 二八

弥惣八等連印答書「長百姓久右衛門の選任に不承知の誤尋答。儀兵衛・又左衛門と同腹にて如何敷弁金を村民より取立る者の旨」弥惣八・和平・忠兵衛（奥書、三役人）代官所宛 文政一一年二月

堅継

一通さ 六二

仮名主弥兵衛願書「名主役代り定日につき寄合のうえ仮長百姓の庄兵衛に跡役決定するも同人固辞にて困惑。同人に命ぜられたき旨」代官所宛 同年二月

堅継

一通さ 六三

新名主庄兵衛答書「長百姓の久右衛門指名に異議出来にて人事難航。同人不可とあれば自分も辞退の旨」同前宛 同年二月

堅継

一通さ 六七

仮名主弥兵衛願書「名主は庄兵衛引請、長百姓は私指名となるも、頭立久右衛門の組頭任命に異議出来。善処方願い」同前宛 同年二月

堅継

一通さ 六三

久右衛門等連印聞置届書「村役人選任につきわれら九名を弥惣八強硬に非難。暫く役元出席を延引したき旨」又右衛門・久右衛門・初三郎（奥書、三役人）同前宛 同年二月

堅継

一通さ 六四

組訳願人惣代連印願書「紛議止まることなし。四名余の人別にて組訳、別村同様の扱いとされたき旨」喜平太・徳兵衛（奥書、三役人）同前宛 同年二月

堅継

一通さ 六五

郡奉行伺書 并附札「南長池村一件、吟味流しとするも村役の儀にて紛議再発。裁許違反につき三人を吟味中入牢せしむべきや伺い。裁可の旨附札」(家老宛) 三月一日	切	一通さ 六五	忠兵衛親類組合惣代・三役人等連印請書「忠兵衛詮議中町宿預け」甚右衛門・源右衛門・町宿ら六名 郡方手附宮本熊右衛門・平井安右衛門宛 同年三月二六日	堅	一通さ 六九
家老恩田頼負差図書「別紙伺い、附札の通り心得べき旨」 郡奉行興津権右衛門宛 三月五日	切	一通さ 六五	義兵衛子寿古御訴書「京都東坊へ縋り居る欠落善兵衛婦住の件」 代官所宛 文政一一年三月	横長美	一綴さ 二六
弥惣八和平親類組合・三役人連印請書「弥惣八・和平吟味筋につき手鎖町宿預け」弥八・源右衛門・町宿ら八名 郡奉行所宛 文政一一年三月七日	堅繼	一通さ 六三	東照寺・康楽寺連印詫状「吟味中出奔の善兵衛の婦住願い」 代官所宛 同年三月	堅繼	一通さ 六七
弥惣八親類組合・三役人連印請書「忠兵衛吟味筋のところ病氣につき村預け」弥八・源右衛門ら五名 同前宛 同年三月七日	堅	一通さ 六三	善兵衛・親類組合・三役人連印請書「善兵衛婦住後の押込処置、今日赦免」善兵衛・寿吉・初三郎、名主庄兵衛・組頭弥兵衛・長百姓久右衛門職・郡奉行所宛 同年四月二〇日	堅繼	一通さ 六八
忠兵衛親類甚之丞願書「忠兵衛召喚のところ病氣につき御答猶予ありたき旨」(奥書、三役人) 同前宛 同年三月一日	堅	一通さ 六五	弥惣八等親類組合惣代答書「弥惣八・和平詮議中入牢。縁者ら兩名に異見せぬは等閑」弥八・源右衛門・文吉(奥書、三役人) 郡奉行所宛 同年四月	堅繼	一通さ 六六
南長池村三役人・頭立小前惣代連印申上書「村内にて異議の人別申上。庄左衛門はなお承服せず、音右衛門・源左衛門・幸七・五郎次・九右衛門らは九名の役儀に不承知」名主弥兵衛ら五名 郡奉行所宛 文政一一年三月	堅繼	一通さ 六三	南長池村一件名前書「同村頭立名前一覽、郡奉行所への召喚者名前一覽」(郡奉行)	紙片	二通さ 六八
新古名主・頭立小前惣代等連印請書「われら今回の役前に故障は毛頭無き旨」古名主弥兵衛・当名主莊兵衛ら五名 郡奉行所宛 同年三月	堅	一通さ 六九	南長池村一件名前書「一件疑惑も解け承服の者一覽。九右衛門・五郎治ら」	紙片	一通さ 六五
甚右衛門等五名連印請書「久右衛門の長百姓選任を承服」甚右衛門・幸七・源左衛門・伝左衛門・助八 同前宛 同年三月一日	堅繼	一通さ 六五	南長池村一件名前書	紙片	四通さ 六八
庄左衛門請書「親利兵衛より村方へ差出の地所、私これまで小作するも此度引上げ」(奥書三役人) 同前宛 同年三月一日	堅	一通さ 六四	内借金逼勘定書「金四一両」片桐重之助 亥(天保一〇)年二月	小紙	一通さ 六九
			拝借金証文「金三〇両、年利一割。引当は小作人上粉三〇俵の田地五石余の地代金」借主名主寿吉・受人組頭勇右衛門・長百姓又左衛門 勘定所内借掛役所宛 天保三年二月	堅繼	一通さ 六七

拝借金証文「金二一兩。引当田地三石の地代金」 同前 同前宛 同年二月	堅繼	一通さ 五九	拝借金証文「金一〇兩。引当田地三石の地代金 借主寿吉・三役人 同前宛 同年二月	堅繼	一通さ 五五
拝借金証文「金三〇兩。引当は借主持高」三役人・頭立小前ら七名（奥書、保崎莊助） 同前宛 天保四年十一月	堅繼	一通さ 五八	拝借金証文「金二〇兩。引当田地五石の地代金 三役人 同前宛 同年二月	堅繼	一通さ 五九
拝借金証文「金六六兩余。返納滞り分の元高結入れ、組直し拝借金二〇ヶ年賦」 同前（奥書、同前） 同前宛 同年二月	堅繼	一通さ 五四	拝借金証文「金六五兩。引当田地三石余の地代金」借主弥八・三役人 同前宛 天保一二年正月	堅繼	一通さ 五八
拝借金証文「金二六兩余。組直し二五ヶ年賦」 同前（奥書、同前） 同前宛 同年二月	堅繼	一通さ 五七	内借金返納受取覚「金七三兩余。戌より辰年まで滞り分」 宮澤善治・入久左衛門・池田良右衛門・吉澤十助 南長池村宛 弘化二年九月	横長半	一綴さ 五二
拝借金証文「金四四兩余。組直し二五ヶ年賦」 同前（奥書、同前） 同前宛 同年二月	堅繼	一通さ 五九	内借金返納受取覚「金一兩余。申より辰年まで滞り分」 同前 同前宛 同年九月	切	一通さ 五三
拝借金証文「金七〇兩余。組直し三〇ヶ年賦」 同前（奥書、同前） 同前宛 同年二月	堅繼	一通さ 五〇	内借金返納受取覚「金三兩余。丑・辰年滞り分」 同前 同前宛 一〇月	切	一通さ 五七
拝借金証文「金六兩余。組直し二五ヶ年賦」 同前（奥書、同前） 同前宛 同年二月	堅繼	一通さ 五二	内借金返納受取覚「金六八兩余。申より辰年まで滞り分」 同前 南長池村寿吉宛 弘化二年一〇月	横長半	一綴さ 五八
拝借金証文「金八兩余。組直し二〇ヶ年賦」 同前（奥書、同前） 同前宛 同年二月	堅繼	一通さ 五三	内借金返納受取覚「金三八兩余。申より辰年まで滞り分」 同前 南長池村弥八宛 同年一〇月	折紙	一通さ 五〇
拝借金証文「金三兩。引当田地八斗の地代金」三役人 同前宛 同年二月	堅繼	一通さ 五六	内借金返納受取覚「金九兩。亥より辰年まで滞り分」 同前 同前弥八宛 同年一〇月	切	一通さ 五三
拝借金証文「金一五兩。引当田地三石余の地代金」借主弥八・三役人 同前宛 天保六年三月	堅繼	一通さ 五六	内借金返納受取覚「金六五兩余。申から子年まで滞り分」 同前 南長池村宛 弘化二年	横長半	一綴さ 五九
拝借金証文「金一八兩。引当は借主持地」三役人 同前宛 天保六年二月	堅繼	一通さ 五三	○一件評議書類		
拝借金証文「金一五兩。引当田地三石余の地代金」三役人 同前宛 天保七年三月	堅繼	一通さ 五四	代官成沢文治申上書「支配南長池村にて古村役人の不正疑惑。小前ら八人札にて弥惣八を名主に押し立て村内混雜にて自分詮議不能の旨」(郡奉行宛)(文政七年)九月		
拝借金証文「金二〇兩。引当田地四石の地代金」三役人 同前宛 同年三月	堅繼	一通さ 五五	切繼		

郡奉行廻状「南長也村」一件明日申渡につき出席あり たき旨 金井左源太・弥右衛門・源五左衛門・ 主計・喜太右衛門・陽之助宛 九月三日	切継	一通さ 三	代官保崎在助申上書「南長也村村役人選定の件、 莊兵衛名主役引受を難渋、久右衛門の指名に弥惣 八ら異議申立など村内混雑。手限り吟味不能の旨」 二月	切継	一通さ 三
職奉行岡野弥右衛門用状「一件書類通読のうえ返 上」 金井宛 二月二六日	切継	一通さ 三	評定所一座連名同書 并家老附札「義兵衛・又左 衛門病氣につき出牢、町宿預け」 岡野弥右衛門・ 石倉源五左衛門・片岡主計・小野喜太右衛門・金 井左源太・望月権之進・藤井喜内 八月一四日	切継	一通さ 三
職奉行岡野弥右衛門用状「一件書類拝見、容易に 弁別も仕業の件なれど入牢の三人不埒につき吟味 ありたき旨」 金井左源太宛 三月	切継	一通さ 三	評定所一座連名同書 并家老附札「一件吟味の ところ訴答とも追放など処罰者多数に及び同村哀滅。 二十二ヶ村の内済立人を許可ありたき旨」 岡野・ 石倉・片岡・小野・金井・望月 八月	切継	一通さ 三
郡奉行連名廻状「名主甚右衛門所持の御用箱帳面 の保全方相談。同村喜平太らの内願」 金井・岡 嶋 弥右衛門・陽之助ら五名宛 八月一日	切継	一通さ 三	岡野弥右衛門用状「一件引受けるも発端の事情不 呑込みにて暫く見合わせ。内済立人の成功を期待 など」 望月権之進宛 九月一二日	切継	一通さ 三
郡奉行連名廻状「欠訴一件、審理場所は勘定所か 評定所かの選定相談」 金井・岡嶋 弥右衛門・ 陽之助ら五名宛 八月三日	切継	一通さ 三	金井左源太用状 并勘返状「一件召喚人の見込み書 き上げ。半左衛門は江戸の高崎侯屋敷に居る旨な ど」 望月権之進宛 九月二日	切継	一通さ 三
郡奉行岡嶋莊蔵用状 并勘返状「先刻の廻達書入 れの通り申来につき願書を差出さすべきや」 金 井左源太宛 八月二日	切	一通さ 三	金井左源太用状 并勘返状「私差控に及ばぬ旨御差 図あり。一件明日八時に召喚の件相談」 岡野宛 九月三日	切継	一通さ 三
職奉行岡野弥右衛門用状「一件別紙、忤へも仰下 の趣承知の旨」 金井宛 一二月一九日	切	一通さ 三	金井左源太用状追伸 并勘返状「連証寺偽証一件 は住職欠落ちにつき新発智へ一通り軽く申渡すべ きや。」 同前宛 九月三日	切継	一通さ 三
評定所一座連名同書 并家老附札「一件混雑につ き吟味流し、別紙の通り一統叱り申付べき旨」 岡野弥右衛門・石倉源五左衛門・小野喜太右衛門・ 松木源八・金井左源太・岡嶋莊蔵・興津権右衛門 一二月	切継	一通さ 三	一件評議書「代官竹花庄左衛門の調停介入の是非。 牢舎者の出牢の理由。召喚人の決定」 □（郡奉行 金井） □（職方宛）	切	一通さ 三
家老矢澤監物差図書「別紙同書へ附札の通り心得 られるべき旨」 岡野・小野・金井宛 一二月一 九日	切	一通さ 三	某用状「伊折村源兵衛帳面の包みの風呂敷の件」 袋町 代官町宛 二〇日	切	一通さ 三
			一件勘定諸帳面目録「潰欠落弁金 并人別拝借取立 元帳など」 小林三左衛門・古岩彦作	切継	一通さ 三

岡野弥右衛門用状「吟味人病氣、牢内にては療養行届き難き旨医師申し立て」	金井宛 四月一三日	切繼	一通さ 三三	南長池村一件訴当名前書「評定所への召喚人」	切	二通さ 三三	
職奉行石倉源五左衛門用状「小前の者難渋につき夫銀は高割が妥当の旨」	金井宛 二月一七日	切繼	一通さ 三三	南長池村一件勘定書	切	三通さ 三三	
郡奉行廻状「評定所への召喚日の打診」	金井弥右衛門・源五左衛門・喜太右衛門・源八宛 二月一九日	切繼	一通さ 三三	京都東坊役者信観書状写「善兵衛差戻すも東照・康楽兩寺にて保護されたき旨」	康楽寺宛 (文政一一年) 三月三日	切繼	一通さ 三三
家老矢沢監物用状「一件このうえ申立てあらば興津権右衛門へ懸り申渡すべきやの旨問い合わせ」	金井左源太宛 二月二三日	切	一通さ 三三	郡奉行連名用状 并 勘返状「欠落善兵衛、康東寺より願出あらば帰住は許し、押込二〇日に処すべき旨提案」	金井・望月 岡野・石倉宛 三月二〇日	切	一通さ 三三
南長池村御手充粉・拝借金等勘定書 弥惣八・七兵衛・甚右衛門		折紙	一通さ 三三	郡奉行連名廻状「善兵衛手鎖処置の件」	金井・岡島 同前宛 九月二四日	切	一通さ 三三
和平誓書「弥惣八母、寅藏・自分女房の大目付方へ駈訴の件、誰も手引のことなき旨」	立入人宛 文政七年十二月	堅繼	一通さ 三三	郡奉行連名廻状「善兵衛腰縄免除につき請書 并 医師容牒書とも進覽」	同前 同前宛 九月二八日	切繼	一通さ 三三
寅藏請書「小前騒動の頭取、寅藏と諸人申立てのこ		堅	一通さ 三三	南長池村医師玄郁容牒書「善兵衛痼病・疝積にて重病の旨」	平井安右衛門宛 九月二七日	切	一通さ 三三
南長池村一件覚書「一件所感。利兵衛、蓮証寺ら不用意に小前同腹の書面を差出し不埒なれど、御呵が妥当の旨」	(立入人) (郡奉行所宛)	小紙	三通さ 三三	南長池村一件書類		切	六通さ 三三
南長池村一件覚書「善右衛門借財の有無取調べ一件」	七月一九日	小紙	三通さ 三三	○一件内済関係書類			
南長池村一件評議書「弥惣八らの大目付欠訴に対する処罰申渡案。職奉行の下札による意見開陳」	(郡奉行) (文政一〇年)	半	一綴さ 三三	郡奉行連名用状 并 勘返状「扱人より別紙申出につき立入を申渡すべきや」	金井・岡嶋 岡野・石倉宛 二月一四日	切繼	一通さ 三三
南長池村一件処罰申渡案「二八〇番と同文。郡奉行所内での修正意見」	□(郡奉行所) □(文政一〇年カ)	半	一綴さ 三三	郡奉行連名廻状「南長池村各の者、扱中の出牢・手鎖払いの処置につき手附役人の出役有無の問合わせ」	金井・岡嶋 弥右衛門・源五左衛門・主計・喜太右衛門・陽之助宛 二月二二日	切繼	一通さ 三三
				郡奉行廻状「答の者の髪・月代手入れの許可の件」	同前宛 二月二二日	切繼	一通さ 三三

郡奉行連名用狀「南長池村咎の者、扱中の赦免方請書を送付」 金井・岡嶋 岡野・石倉宛 二月二十四日	切	一通さ 三六	庄左衛門書取「連印帳の表紙上書 并人別の部分を弥八らの差図にて認たること等、八件の証言」 同前宛 （二月二十六日）	横長半	一綴さ 二六三
中越村長五郎等連印答書「病死の親長蔵より利兵衛への貸金有無の件。」 郡奉行所宛 文政七年一二月	豎	一通さ 三三	善蔵書取「連証寺借用金一件、西尾張部村の者ら本坊光連寺の処置に悪口」 同前宛 文政七年一二月	横長半	一綴さ 二六四
南長池村紛議一件和談内済下案「村中へ割賦の連証寺よりの借入金三六兩等の弁金、欠落善右衛門の滞金など虚妄の件など。古役人に不行届もあれど扱入にて貰請けの旨」	横長美	一綴さ 三九	庄左衛門書取「家中への投訴は事前には不存、投訴帳面の前文は自分筆跡」 同前宛	横長美	一綴さ 二六五
町宿周兵衛等連名書狀写「東寺尾村三郎治により一件調停を計るも、申口不同にて同人立腹。殊に和平を見殺しになさるべきやの旨」 周兵衛・六郎兵衛・惣三郎 弥惣八・寅蔵・弥八宛 （文政七年） 一二月四日	切繼	一通さ 三三	弥惣八自筆、利兵衛・庄左衛門連名覚書「上納滞金、村方へ一向懸けず私方にて年賦返済の旨」 惣代三人宛 八月	切	一通さ 二六六
町宿周兵衛等連名書狀写「三郎治へ内意の訳合申出られたき旨」 周兵衛ら三名 弥惣八・寅蔵宛 一二月三日	切繼	一通さ 三三	甚右衛門名代風間村政之丞答書「先に和談書面を執筆し、此度甚右衛門不承服の書面を取次ぎ、両様の返答となり恐入」 評定所宛 文政八年六月一四日	豎繼	一通さ 二六七
向御所村七郎右衛門書取「利兵衛借用金につき西尾張部村喜惣治と口論の件。喜惣治は金井奉行ら御上の悪口放言」 三郎治・立入衆宛 一二月二三日	横長美	一綴さ 三〇	甚右衛門・又左衛門等連名和談書「勘定疑惑一件、使途明瞭につき和談の旨」 甚右衛門ら四名 評定所宛 文政八年六月	豎繼	一通さ 二六八
利兵衛・善蔵連名書取「連証寺よりの金子借用有無、弥八方へ徒党寄合の件など」	横長美	一綴さ 三三	南長池村村入用勘定書	横長美	一綴さ 二六九
七郎治書取「役本の勘定帳面も見ず疑惑申立て恐入の旨」 立入人中宛 （文政七年一二月）	横長半	一綴さ 三三	又左衛門内密答書「松代藩役人への村方よりの付届・礼品の明細書上げ」 郡奉行所宛 文政八年六月	豎繼	一通さ 二七〇
七郎治書取「弥八の教唆にて弥惣八を名主に推し、連証寺借用金一件の返答日延べを願いたる旨」 同前宛 文政七年一二月二六日	横長半	一綴さ 三三	喜平太・久右衛門・善蔵連名書取「寅蔵方にて弥惣八の謀議など五件の内情証言」 一一月	折紙	一通さ 二七三

甲府・越奥出兵

戊辰年下筋出兵関係書類

合衆製懸り甚右衛門怪我養生手充評議書類写 〔武具奉行同書及家老差図書〕 四月	255	一綴け二五五
各村夫人出立帰着日取調書 慶応元年四月、 十一月	横128	仮一冊け二六二
奇兵隊名面覚 六月	152	一通け二六四
道橋方手附申上書〔七月二四日夜長岡放火之節 生捕ニ相成拾三人御手充被下方〕 慶応四年八 月	163	一通け二七九
被生捕人別取調書 八月一日調	156	一通け二七〇
下筋出張道橋附申上書〔辰年下筋出張人夫方之 内別段働候者取調〕 明治二年正月	横130	仮一冊け二五一
羽田三藏伺書〔於長岡大小銃彈藥出来人夫御賞〕 明治三年二月	宿紙148	一通け二七六
被討死手負人別 病死人別共 明治三年一〇月 二三日調	横126	仮一冊け二五〇
半田善作口上覚〔戊辰五月以後下筋出張中勤功〕	163	一通け二七九
被討死手負人別写〔前々号、前号の写〕	罫紙251	一綴け二七六
下筋出張兵糧方同書 同兵糧奉行貼添 〔御仲 間助之者御賞筋〕 明治三年閏一〇月	152	一通け二七六
市政方記録掛用状〔呼出之弥兵衛住居確認依頼〕 矢野唯美宛 一二月二日	154	一通け二七三

税手助当分出仕名面〔五明富弥ほか六人〕	150	一通け二六七
柘植彦四郎申上書〔士卒功勞等級取調〕七月	156	一通け二七四
山越新八郎申上書〔北征之節夫人功勞等級取調〕 七月二十八日	152	一通け二七七
牧野大右衛門同書〔去辰年下筋旗持勤の福島新 田村忠治組入之儀〕一〇月二五日	150	一通け二七五
矢代村唐木田藤左衛門勤向写	149	一通け二六八
辰年下筋郡夫過勤并差留人数取調書	128	仮一冊け二六一
御賞筋等級別人数金高書出	152	一通け二六五
才領組之者永石被下高案	155	一通け二六六
下筋出張御賞方案	横折129	一通け二五三
御賞被下方案〔断簡〕	横折129	一通け二五三
討死軍夫供養	横折126	一通け二五四
越奥出兵之節諸色請拂勘定書類		け二五九
1 越奥御出兵器械方諸色請拂御勘定帳〔辰四月 5閏四月迄〕 宮川国蔵 明治三年十一月	横長143	一冊
2 同前〔辰閏四月5月迄〕 同前 明治三年一 月	横長143	一冊
3 同前〔辰六月5月迄〕 同前 明治三年一 月	横長143	一冊
4 同前〔辰八月5月迄〕 同前 明治三年一 月	横長144	一冊
5 下筋出兵之節入料金銭勘定一紙 請取証文添 〔福島村及飯山表にて買上物并武器修復料、前記 1引合証文〕 宮川国蔵 明治元年二月	240 以下 (二八通)	一綴

6 同前 請取証文添「小千谷村にて買上物并武器修復料、前記2引合証文」 同前 明治元年一二月	242 ほか	一綴 (二四通)
7 同前 請取証文添「与板表にて同前入料、前記3引合証文」 同前 明治元年一二月	242 ほか	一綴 (五九通)
8 同前 請取証文添「三条村にて同前入料、前記4引合証文」 同前 明治元年一二月	242 ほか	一綴 (一八通)
甲府表銅錢買上二条評議書類「甲府表にて差留之小錢を買上二条ニ付伊東千右衛門御咎の当否評議」	け二七九	
1 綿貫泰蔵用状「伊東周旋金之内為替送金」 佐藤為之進宛 六月一日	157	一通
2 御勝手元ノ申上書「前項之通為替取組承認」 六月	155	一通
3 御目付御尋物答書「春原織右衛門呼戻之件」 六月	147	一通
4 調役穿鑿申上書「倉科村竹八・杣口村孫八へ被下物渡方実否調査」 六月	147	一通
5 春原織右衛門用状「小錢買上事情説明」 佐藤為之進宛 六月二二日	155	一通
6 御勘定吟味御尋物答書 七月五日	149	一通
7 前島友之進御尋物答書「伊東は不埒ながら私欲に非ざれば情状を考慮」 七月	148	一通
8 春原織右衛門用状別紙「伊東慎中の処、小錢返戻等のため帰甲依頼」 前島友之進宛 七月二二日	155	一通
9 前島友之進内々申上書「甲府表品々之儀」	149	一通
10 帳面遣拂差引覚「甲州入料金」	165	一通
甲州表調役穿鑿申上書類「各項につき下目付一同が風説を調べ調役から上申」 (明治元年一二月)	け二七九	
1 「伊東千右衛門等小錢買上一条」 一一月	157	一冊
2 「伊東千右衛門甲府御徳居平野屋元兵衛方青錢買上一条」 一二月	157	一冊
3 「十日市場村辺小錢一条」 一二月	157	一冊
4 「甲府統遠光寺村清兵衛方小錢一条」 一一月	157	一冊
5 「十日市場村兵助弟政次郎方買受小錢一条」 一二月	157	一冊
6 「八代郡八田村八田伴左衛門身元并勝手同」 一月	157	一冊
7 「甲府町在へ旧臘小錢倍增戻しニ付御家之風聞」 正月	157	一冊
8 「甲府山田町辺方借入夜具紛失一件」 一二月	157	一冊
9 「出張人数へ扶持米并雑用銀渡辻滞分割戻シ一条」 正月	157	一冊
10 「倉科村竹八、杣口村孫八勝手同等」 一二月	154	一通
11 申上書「穿鑿書類返上」 五月九日	158	一通
錦肩印返納書類 焼失・紛失届共「返納三通、焼失紛失一五通」 巳二月・三月	159	一八通 け二八六
水原県達書「中条・保田・加茂へ半小隊宛交番出張方」 松代藩戌兵宛 明治三年正月	210	一通 け二八四
水原県達書「不審者取締、民間公事訴訟、国益筋申出」 同前宛 明治三年正月	210	一通 け二八三

新潟県庁達書「半小隊曾根表へ出張方」 隊長宛 明治三年四月	190	一通	け一六三
水原出張兵隊夏戎服渡方評議書類 明治三年			
1 加藤直衛用状 同役宛 四月二四日	163	一通	け一六五
2 宮嶋嘉織・松木源八他用状 加藤直衛宛 四月二四日	177	一通	
3 軍監伺書 五月	149	一通	
4 計政副主事再御尋物答書 五月	138	一通	
5 軍監再伺書 五月	149	一通	
6 計政副主事再御尋物答書 計監答書貼紙 五月	138	一通	
7 議事評議答書 五月	162	一通	
8 用度属見積書 五月	宿紙 153	一通	
9 諸士以下人数書出	宿紙 157	一通	
10 家老差函書 鎌原伊野右衛門 五月一八日	149	一通	
11 岩崎懋用状 河原均宛 五月一八日	150	一通	
12 河原均用状 岩崎懋宛 五月一八日	159	一通	

財政

諸役方

御勝手元

御繰廻御下金請取証文「御公務急御入用引当金」
岡嶋莊藏・興津権右衛門 矢沢監物宛 文政一
一年一二月

御勝手元内々申上書「臨時入料等別段金勘定」
出 同前 天保三年一二月

宿紙 156 一通 け一七二

御内用御金出一条申上書「文科通鑑売上、真月院
様南部坂引移入費受取等」高田幾太 岡嶋莊藏・
竹村金吾外宛 嘉永六年八月

147 一通 け一七一

岡嶋莊藏・金井左源太連署用状 勘返状「江戸
御在所入料積之内御省略中余り金取扱方」北沢
源次兵衛宛 二月四日(同一五日返)

宿紙 157 一通 け一七五

内借金勘定差出書類(安政元年カ)

1 高田幾太用状 竹村金吾外宛 二月一九日

154 一通

2 寅正月月中内借引替済取調帳

横長 125 一冊

3 寅二月中内預ケ金内借金調

横長 125 一冊

御納戸金銭請込書出 御勝手元宛 万延元年 (正、二、四、七、八、九、十月分は御金方、三、 閏三、五、六、十一、十二月分は御元方差出)	宿紙151 一三通 け163
御在所御金向被仰付書「江府御金出莫大ニて為替 差支ニ付上納督促」 御勝手元宛 一二月五日	151 一通 け170
御勝手元宛御尋物答書 (文久三年)	宿紙153 一通 け163
1 「御前様御迎立掃足輕被下物」 八月六日	一通
2 「御前様貞松院様御供御料理所向仕切賄等」二〇月 三〇日	一通
3 「同前」 一〇月二日	一通
4 「御供御口太田詰立掃之者仕切賄」 一〇月一〇 日	一通
5 「貞松院様御供御組之者夜具水油代被下之義」 一〇月	一通
6 「江戸方荷物之内雇人馬」 一〇月	一通
7 「宮本彦之進立掃御供二重賄返上」 一月	一通
8 「御雇鉄砲師小沼茂平仕切賄」 一月	一通
9 「貞松院様御供御向御賄」 一月一日	一通
10 再答書「同前」 一二月朔日	一通
11 「同前」 一二月五日	一通
12 「御前様御附女中江府へ差継方」 一二月	一通
御勝手元宛御尋物答書 元治元年六月「『その三』 82ページ「子年御答」追補」	宿紙155 一通 け173
1 御收納郡方伺書「御旗奉行詰高」 朔日	一通

2 「土屋常左衛門等去々戌太田詰御免四分一御手充 再答」 二日	一通
3 「同前」 二日	一通
4 「御上京御供御口之者被下物」 四日	一通
5 「同前再答」 六日	一通
6 「御上京御供小頭足輕被下物」 五日	一通
7 「伊木七郎兵衛武術修業御手充」 六日	一通
8 「牧野保三郎長詰掃道中金」 二日	一通
9 「御上京御供御組元宛御手充」 六日	一通
10 「蟻川賢之助外割返高前借過当内願」 六日	一通
11 「御上京御供下坐見御増願」 六日	一通
12 答書貼紙「御組之者御供上京被下物」 六日	一通
13 「武具方京都出荷物持運人足」 六日	一通
14 「御上京御供小納戸被下物」 六日	一通
15 「御上京御供小頭足輕被下物再答」 七日	一通
16 「御上京御供小頭被下物増願」 七日	一通
17 答書貼紙「御供上京人馬懸之者被下物」 八日	一通
18 「同前」 八日	一通
19 「小野喜平太倅内借願」 七日	一通
20 「小野喜平太内借金再願」 一三日	一通
21 「御上京御供小頭足輕被下物三答」 七日	一通

22	〔御上京御供書役小僧役拝借金願〕	七日	一通
23	〔御上京御供立婦山崎卓馬被下物〕	八日	一通
24	答書貼紙〔湯殿番御供上京拝借金〕	八日	一通
25	〔漬物師立婦上京御手充〕	八日	一通
26	〔奥坊主御供上京詰中御手充〕	八日	一通
27	〔御上京御供奥坊主御手充扶持〕	六日	一通
28	答書貼紙〔御馬飼之者人足遣〕	九日	一通
29	答書貼紙〔御料理所向拝借金〕	九日	一通
30	〔番士御借夫給金上納方〕	九日	一通
31	〔御上京御供両組才領并馬人足〕	九日	一通
32	答書貼紙〔両組之者竹馬持人等〕	九日	一通
33	答書貼紙〔御台所仲間等江戸婦拝借金御拂切〕	九日	一通
34	〔下目付歎願筋〕	九日	一通
35	〔樋畑翁輔御供上京被下物〕	一〇日	一通
36	〔御上京御供下坐見拝借金〕	一〇日	一通
37	〔橋詰専太郎御供上京被下物〕	一〇日	一通
38	〔御膳立市川七郎治切米渡方〕	一〇日	一通
39	〔御上京前割番詰之者御賄等〕	一〇日	一通
40	〔文武修業友野隼太郎外御手充渡方〕	一〇日	一通
41	御勝手元ノ答書添書〔下目付歎願筋心得調〕	一〇日	一通
42	御勝手元ノ答書添書〔同前〕		一通
43	御勝手元ノ答書添書〔下目付申立書類見調〕		一通
44	割番申立書〔参府足輕被下物〕	六日	一通
45	〔砲術修業上京之向御手充〕	一二日	一通
46	〔御上京御供人馬賃錢受取方〕	一二日	一通
47	〔御鉄砲師御供上京被下物〕	一三日	一通
48	〔駒村佐十郎下役拝借〕	一三日	一通
49	〔駒村佐十郎御供上京被下物〕	一三日	一通
50	〔下坐見定押御供上京被下物〕	一三日	一通
51	〔樋畑翁輔腰痛駕籠被下〕	一五日	一通
52	〔樋畑翁輔御供上京被下物〕	一五日	一通
53	〔樋畑翁輔御供上京御手充拝借〕	一五日	一通
54	〔御医師詰番〕	二八日	一通
55	心得添書〔医師名面〕		一通
56	心得添書〔医師詰場割合〕		一通
57	心得書〔御上京御供立婦御手充〕		一通
	御勝手元ノ御尋物答書（元治元年）	七月	宿紙ニ引ほか け一七三
1	答書貼紙〔御台所仲間代御借人〕	三日	一通
2	〔足輕番代勤繁勤御手充〕	晦日	一通

3 御台場御屋敷御徒士目付人配心得	一通	22 御收納郡方伺書「御徒目付等詰中御手充渡方」 二三日	一通
4 「江府」立婦御供下目付婦府之節伝馬願」 三日	一通	23 御勝手元ノ伺書「出張人数御賄代被下方」二四 日	一通
5 「医術修業在府中御雇被下物」 三日	一通	24 「急上京小頭足輕被下物等」二五日	一通
6 見合書「同前」	一通	25 答書貼紙「御前様御居間張附師助昼御扶持」二七 日	一通
7 御勝手元ノ伺書「館孝右衛門出府中止ニ付御手 充取扱方」 四日	一通	26 答書貼紙「足輕人少御城番組方繰合方」二七日	一通
8 答書貼紙「太田表関門足輕番御手充」 三日	一通	27 「番頭申立之儀」二八日	一通
9 「荷物才領日数延賄代増願」 六日	一通	28 答書貼紙「割番夕調御賄蠟燭等」二八日	一通
10 「江府足輕部屋等破損御手充」 六日	一通	29 答書貼紙「京地急人数出割番諸賄」二八日	一通
11 「仁科章碩外科伝授入料」 六日	一通	30 「江府御人増」二八日	一通
12 「武術修業人拝借金」 六日	一通	31 「普請奉行詰番」二八日	一通
13 「麻統宿」桑原村迄賃錢」 一八日	一通	32 「江府医師交代人配」二九日	一通
14 御收納郡方伺書「北沢喜三郎親類歎願之義」 九日	一通	33 「御台場物頭御留守居等交代」二九日	一通
15 「月岡桂齋上京被下物」 一四日	一通	34 別紙「御徒士一条」二四日	一通
16 答書貼紙「荷物才領日数延賄代増願」 一八日	一通	35 伺書案「山崎卓馬御供立婦道中被下物」	一通
17 答書貼紙「月岡桂齋御手充」 一三日	一通	36 試書「詰合以下被下物高」	一通
18 「中奥仲間共雜用錢渡方」 一八日	一通	37 別紙「急上京人数書一番頭以下御口之者迄二六九 人」	一通
19 「吟味方物書昨春居延御手充」 一九日	一通	38 別紙「前借調」	一通
20 御收納郡方伺書「出府御免再度出府御手充」 二二日	一通	39 御番頭申立書「役替後跡人数補充方」二六日	一通
21 御勝手元ノ伺書「同前」二二日	一通		

御勝手元ノ御尋物答書 慶応四年「『その三』」 94
ページ「御書類御答袋」 参照
宿紙55ほか け174三

- 1 「御金遣拂格別引請」 正月一四日 一通
- 2 「硝石製職人江御扶持方」 正月一七日 一通
- 3 「武具方手附詰給等」 正月一八日 一通
- 4 「旧臘臨時炊出不足分被下切」 正月一九日 一通
- 5 「青木直馬等御扶持被下」 正月二六日 一通
- 6 「御留守居役江府詰高」 正月二五日 一通
- 7 「小銃世話方御手充等」 正月一九日 一通
- 8 「御上京御先立小銃組被下物」 二月七日 一通
- 9 「江戸詰高月割被下方」 二月一〇日 一通
- 10 「青木直馬等御手充筋」 二月二一日 一通
- 11 「答書貼紙「才領組之者転尻馬」」 二月二四日 一通
- 12 「答書貼紙「小森沢村騒動出張人賄」」 二月二四日 一通
- 13 「答書貼紙「道橋方手附等出役賄粉」」 二月二四日 一通
- 14 「答書貼紙「陣場方元ノ御手充」」 二月二四日 一通
- 15 「返上書貼紙「下田半兵衛書類」」 二月二四日 一通
- 16 「答書貼紙「不明」」 二月 一通
- 17 「答書貼紙「江戸御抱仲間」」 二月二四日 一通
- 18 「答書貼紙「御供小頭等仕切御賄」」 二月二四日 一通
- 19 「答書貼紙「間庭順之助拝借金」」 二月二四日 一通

- 20 「窪田富之助江府古内借金上納方」 二月二五日 一通
- 21 「両角玄脩扶持江戸送數願」 二月二五日 一通
- 22 「山内唯七長詰數願」 二月二五日 一通
- 23 「館孝右衛門居延御手充」 二月二六日 一通
- 24 「飛脚宰領組御手充被下」 二月二六日 一通
- 25 「宮本義治詰中御手充」 二月二六日 一通
- 26 「大御前様御同居増人」 二月二六日 一通
- 27 「小頭津田莊吉去寅上京之節拝借金」 二月二六日 一通
- 28 「金切米之向四人歎願之儀」 二月二六日 一通
- 29 「手代土屋直吉下坐見助御手充」 二月二六日 一通
- 30 「御殿小頭御口之者等寅京都詰御手充」 二月二六日 一通
- 31 「宰領組荒井伴之助拝借金上納方」 二月二六日 一通
- 32 「小納戸子寅兩年上京被下物」 二月二七日 一通
- 33 「小給者京江戸詰粉割引」 二月 一通
- 34 「草間一路宛返章稿「詰高月割一条」」 二月 一通
- 35 「御台所抱仲間」 二月 一通
- 36 「御雇鉄砲鉄物師訴訟筋」 二月 一通
- 37 「答書貼紙「御科人手先追分宿賄被下方」」 三月七日 一通
- 38 「小銃組小頭等折返御手充被下」 三月八日 一通

39	〔善光寺上人護送人数被下物〕 三月一三日	一通
40	佐藤為之進用状案〔京詰足輕月々被下物〕 根井小右衛門宛 三月一日	一通
41	用状〔被下物之件〕 (次号付属) 三月十五日	一通
42	家老用状 鎌原伊野右衛門 佐藤為之進宛 三月十五日	一通
43	〔貞松院様御広式使廻〕 三月一六日	一通
44	〔新御殿鍵番等増人〕 三月一六日	一通
45	〔新御殿御奥使廻増人〕 三月一六日	一通
46	〔遠国御用御手充改正〕 三月一八日頃	一通
47	〔下目付御人増〕 三月二五日	一通
48	〔西村弥太郎・近藤鉄次上京被下物〕 三月	一通
49	〔定府等帰着之節御賄〕 三月	一通
50	〔松本八郎左衛門御扶持被下〕 三月	一通
	御勝手元ノ御尋物答書 慶応四年 宿紙ニモほか け七四	
1	御勝手元ノ伺書〔諸関門出張之向へ増御手充〕 閏四月二四日	一通
2	〔腰越宿人馬賃錢〕 閏四月一五日	一通
3	〔同前〕 閏四月一六日	一通
4	〔御雇足輕下筋出張中御手充〕 閏四月一七日	一通
5	御勝手元ノ伺書〔嫡子并隠居次三男等臨時出張増御手充〕 閏四月二七日	一通
6	〔甲府へ割番所御立〕 四月朔日	一通
7	〔甲府出張之向へ替服荷物送〕 四月朔日	一通
8	〔甲府出張人数御手充拝借〕 四月朔日	一通
9	〔甲府御出入原田兵之丞御抱〕 閏四月	一通
10	〔佐竹周藏立帰出府御手充〕 四月八日	一通
11	〔去丑年御参府本陣触才領被下物〕 四月八日	一通
12	勝手元ノ伺書〔出府御免御供上京之向御手充〕 四月一四日	一通
13	答書貼紙〔出甲人数御手充被下物〕 四月一五日	一通
14	〔足輕江戸詰辻御扶持拝借願〕 四月二四日	一通
15	〔森五十三上京御手充前借金〕 五月晦日	一通
16	試書〔軍用金及出張人増御手充用状返書案〕 五月二七日	一通
17	〔藪原宿迄追欠飛脚被下方〕 六月三日	一通
18	日記留試書〔臨時出張増御手充〕 五月一八日	一通
19	〔急出府小頭足輕道中賄被下〕 六月朔日	一通
20	〔藪原宿6呼戻し之飛脚御手充等〕 六月朔日	一通
21	〔当春急出府小頭足輕道中増賄代〕 六月三日	一通
22	〔北島三智金切米添御手充〕 六月三日	一通
23	〔森五十三御手充再答〕 六月八日	一通
24	草間一路伺書〔長谷川三郎兵衛并支配向出府被下物〕 六月一〇日	一通

25 森五十三用狀「出張御手充之内荷物賃錢取扱方問合」 宮本慎助・半田龜作宛 六月二二日	一通	
26 森五十三宛返書案「同前返事」 六月二二日	一通	
27 「足輕八重勤御手充」 六月一四日	一通	
28 答書貼紙「伊藤録太郎等早追賃錢拂切」 六月一七日	一通	
29 答書貼紙「不詳」 六月一七日	一通	
30 「江府詰辻足輕上京拝借金」 六月一七日	一通	
31 答書貼紙「御雇組之者七月渡被下糲繰上願」 六月一八日	一通	
32 「成沢勘左衛門等出甲被下物」 六月二〇日	一通	
33 御收納郡方申立書「去月分伺書之内御差図無之分被下願」 六月二六日	一通	
34 「江戸詰辻足輕松原者仕法替」 六月二九日	一通	
35 「京都詰足輕被下物」 六月二九日	一通	
36 根井小右衛門用狀「京地詰足輕月割被下方」 佐藤為之進宛 一二日	一通	
37 見合書「先立足輕被下物」	一通	
38 見合書「諸士以下御番入并御役勤被下物積」 御勝手元ノ御尋物答書	一通	宿紙153 け二七六
1 「御徳居島田大蔵伊勢屋吉兵衛差加染願」 九月一二日	一通	
2 「矢野倉謙兵衛内献上」 九月二二日	一通	
御勝手元ノ御尋物答書 「順操院御扶持渡方」 一〇月一三日		宿紙155 一通 け二六五
御勝手元ノ伺書 下案共「和田安六用達御囲金之内引替」 正月二二日		宿紙154 二通 け二七五
御勝手元ノ伺書 「御軍用御囲之内江戸御用金出」 三月		宿紙155 一通 け二七七
御勝手元ノ伺書 「御囲金之内引替」 申六月一六日、九月朔日		宿紙153 二通 け二七五
御勝手元ノ申立書 「鼠宿村御茶屋御殿向修復金」 八月		宿紙152 一通 け二七四
御勝手元ノ申立書 「製造金手形引替所建具出来」 九月		宿紙153 一通 け二七三
草間元司申上狀 「来月末借入金利分返済分御金出」 高田幾太・竹村金吾外宛 寅一二月晦日		154 一通 け二八四
草間元司申上狀 「正月以後の御手充金・普請金・雷火銃修復代等御金出報告」 同前宛 卯三月		164 一通 け二八六
草間元司申上狀 「定式外御金出」 同前宛 七月五日		163 一通 け二八三
吟味役申上狀 「月末定式外御金出」 同前外宛 卯五月八日、同晦日		150 二通 け二八二
吟味役申上狀 「御金出」 御勝手元ノ宛 辰年 七月		148 一通 け二八三
1 片岡十郎兵衛 竹村金吾・菅沼九兵衛外宛 三月		一通
2 同前 同前宛 三月一日		一通
3 同前 同前宛 三月二六日		一通
4 同前 竹村金吾・磯田音門外宛 四月四日		一通

吟味役用状 別紙申上状共「定式外御金出」 奥
山忠左衛門 同前外宛 安政五年三月七日

153 一通 け一八四

御收納郡方

御收納郡方同書案 「当寅御蔵入俵減少ニ付給米渡方」 二月一日

宿紙 155 一通 け一七〇

御蔵奉行

頂戴物通帳「飯米及雜用代料の受取記事と松代商人小沼宛領收書」 小沼熊蔵 嘉永四年一〇月、同七年二月

横半 156 一冊 け一六三

来酉十月迄一ヶ年飯米代上納積 申年

宿紙 152 一通 け一六四

給禄・手充

御駕筆者御手廻り等切米請取渡証文綴 鈴木慶一郎 磯田音門・草間一路宛 慶応二年二月

154 一綴 け一七二
(七通)

御尋物答書「新御殿詰切之向へ御賄被下方」 (明治二年カ) 一〇月一二日

宿紙 154 一通 け一六六

元方御金奉行

上納金御余慶方へ相収証文「飛脚幸領組出府御手充拝借其他上納粉代」 徳高恒吉・斎藤善蔵外 弘化五年二月、嘉永五年閏二月

245 一通 け一八〇

上納金御收納方へ相収証文「公事方役所仲間被下粉」 徳高広馬・柘植彦四郎外 慶応三年二月、同四年二月、同一二月

246 三通 け一八五

御余計方内預証文「御預所借入金」 谷中左中 外 佐藤為之進外宛 慶応四年五月、明治二年九月

246 七通 け一八七

御元方問合書 「現在金高を示し、江戸出分等の指示を求む」 御金掛宛 二月二日

宿紙 154 一通 け一八五

御拂切留帳 証文共「武器、御手充繰廻金御札金、長州藩士請取同藩士逗留中賄入用」 明治二年正月

半 215 一綴 け一八六
305 (一冊二通)

上納金御余慶方へ相収証文「町役塩代、同心被下粉代」 斎藤善九郎・徳高広馬外 明治二年一〇月

245 一通 け一八二
246

私方御金奉行

御前様御出府御道中一卷 御拂方 元治元年二月、慶応元年六月

袋入 け一六四

1 出府道中入用勘定書類

○御前様御出府ニ付宿々被下金覚「昼休・小休宿々被下目録金受取渡勘定」 館孝右衛門・小今井友之進 西村源兵衛・池田富之進外宛 慶応元年五月

247 一綴
(一冊七六通)

○道中御賄物品々入料受取渡勘定証文 突合 受取証文添「御賄物、本陣へ目録被下金、御供賄代、小賄物など」 同前 同前宛 慶応元年六月

248 一綴
(八〇通)

2 出府諸入料勘定書類

○御供養持人足賃銭請取証文 春原玄三・宮島通珉 西村源兵衛・池田富之進外宛 元治元年二月

273 一通

○立帰御供駄賃銭請取証文 横田嘉一郎 同 前宛 元治元年二月

304 一通

○立帰御供賄代銭請取渡証文 突合証文添 橋詰勘蔵 同前宛 元治二年正月

245 一綴
(十二通)

○立帰御供入用請取証文「小幡内膳分」 孝之助 同前宛 元治二年正月 280 一通	○立帰御供道中入料遣拂ノ出勘定証文「昼弁 当代、宿泊料」 稲葉恒作・金兒富之丞 同前 宛 元治二年二月 245 ほか 一綴 (二九通)	○御供馬式足飼料遣拂ノ出勘定証文 突合証 文添「馬泊代錢、馬湯代」 同前 同前宛 元 治二年二月 247 ほか 一綴 (二六通)	○御供馬老足飼料遣拂ノ出勘定証文 突合証 文添 同前 同前宛 元治二年一月 245 ほか 一綴 (二一通)	○立帰御供道中賄代請取証文 長谷川藤左衛 門、原田久弥、富岡良右衛門 同前宛 元治二 年四月、同五月 246 三通	○立帰御供往来馬銀請取渡証文 長谷川藤左 衛門 同前宛 元治二年四月 246 一通	山里村々并町方共人別郡役被下代金中借証文 田沢廉助・伊東栄治 池田富之進・堤常之丞外宛 慶応三年一二月 246 ほか 五通 け二七六	御納戸役 安政六年御納戸差出金内訳 246 一通 け二六五	御金掛 弘化三年十二月晦日取調御殘金申上一紙下調 御金懸 袋入 一綴 け二六九 (二一通)	御金出一紙「八十一月分の当用・臨時諸支出高総 計」 嘉永六年二月 160 一通 け二八	村々五分御借入金納高取調書類「各代官別に巳 四月より申九月迄の実質上納高調査」 万延元年 一〇月 け二八七
--	---	--	--	--	---	---	-------------------------------------	---	---	--

1 御金掛用状「各代官ことの集計高の再確認依頼」 田中理右衛門・栗林庄右衛門外宛 一〇月九日 宿紙 155 一通	2 書類綴「各代官ことの集金・引戻金内訳及び十月 三日付御金掛用状」 宿紙 153 ほか 七通	御勘定吟味 御勘定吟味伺書 片岡十郎兵衛 辰四月 袋入 け二七三	1 「玄米御買置当辰年へ送り石代金御金出」 152 一通	2 「卯年中御当用金御増金御金出」 152 一通	御勘定吟味宛差図書 宿紙 126 け二七三	1 「御前様御産用意品代内借」 七月三日 一通	2 「御手許御買上ヒストル代」 七月三日 一通	3 「雷火銃修復入料」 七月四日 一通	4 「御奥新建 井長局模様替等見積入料」 四日 七月 一通	5 「御台場玉打入料」 七月四日 一通	6 「御雇水主二十人分賃銀」 七月八日 一通	7 「簾代」 七月一〇日 一通	8 「葦山形船權買上代」 七月一〇日 一通	9 「上野芳之助暑寒被遣物」 玉川左門 片岡十郎 兵衛宛 七月一日 一通	10 「元松原者庄作差送受取物」 七月二日 一通	11 「修復工事中風災損金を大工へ御手充」 七月一 日 一通
--	---	--	---------------------------------	-----------------------------	--------------------------	----------------------------	----------------------------	------------------------	-------------------------------------	------------------------	---------------------------	--------------------	--------------------------	--	-----------------------------	--------------------------------------

12	「疫邪煎薬代被下」	七月二三日	一通	中借金引当預金証文「享保一五年五宝曆二年迄中借金証文にて請取り宝曆三年の預金とす」依田縫殿進・山本藤藏外二人小崎孝右衛門外宛 宝曆三年八月	338	一通	け二八六
13	「玉川一学日光御使者拝借金拂切」	七月二三日	一通	已之御勘定一紙目録案			
14	「奥向押入等造作入料」	七月一三日	一通	勘定役諸書類綴「当用臨時差引残高、買上物代、内借高など」申年ほか	304	一通	け二七九
15	「五番船碇綱代」	七月一三日	一通	勘定役諸書類綴「当用臨時差引残高、買上物代、内借高など」申年ほか	宿紙 154ほか	一綴 (八通)	け二七六
16	「將監様組合辻番入料」	七月一六日	一通	市場茂右衛門用状「手附定助役料粉及質屋金札使用両件相談」片岡十郎兵衛宛 二月二一日	150	一通	け二六九
17	「永田町屋敷長屋地続引平し入料」	七月一七日	一通	幡湯潤藏用状 勘返状「講金打合せ」堀内宛 二月	148	一通	け二〇五
18	「暑邪拂御薬被下」	七月一七日	一通	御内用入料御下ケ金評議書類「甲州黒駒山ニ浪人等屯集の風説探索出張入料再手続」	154	一通	け二五三
19	「御台場船路堀割普請入料」	七月一七日	一通	1 原田紇歎願書 正月	147	一通	
20	「臨時雇水主延引」	七月二九日	一通	2 望月帰一郎用状 草間一路宛 正月一九日			
21	「葦山形御船稽古御手充」	七月二二日	一通	計政局			
22	「南部坂御広間当番御手充」	七月二八日	一通	歳々出入必用書付「飛脚道中路銭請取渡証文、東京出張所諸費預状扣、借用金札引当古金引渡証文案、その他」	貸入 152~275	一綴 (四一通)	け一八三
賄 役				寅四月中御賄所品々当用金勘定一紙 突合証文 添「胡麻、大豆、麴朶代、足輕等浮扶持代金、馬銀、上京御供馬銀など」酒井渡七、増沢理介 片岡弘人宛 慶応二年七月	245ほか	一綴 (八一通)	け一八三
				寅八月中御賄所品々当用金勘定一紙 突合証文 添「同前」同前 同前宛 慶応二年一〇月	245ほか	一綴 (八通)	け一八四
				寅九月中御賄所品々当用金勘定一紙 突合証文 添「同前」酒井渡七・窪田利左衛門 同前宛	244ほか	一綴 (二一通)	け一八五
				慶応二年一二月			
勘定役書類				郡政副主事 同書 願書添「水熊村久藏城内御船請負金割増」 明治三年二月	宿紙 156、286	一綴 (一通)	け二七五

川北辺金融申談用状 明治三年七月一日	一綴 け二〇三
1 岡野敬一郎用状「川北金受取人に中島啓作派遣」 水野清右衛門宛	158 一通
2 岸善八用状「新地村之者、商社にて官札引替の件」 出納懸宛	155 一通
3 岡野敬一郎用状「川北辺金談は郡政・計政両局調整のこと」 水野清右衛門宛	159 一通
商人共江 御貸下證文 計政方出納掛け（二六〇・二六三）	袋 320×119 一点
官札入手中借金評議書類「官札導入のため、岡本広太へ麻買付代金貸下」 明治三年一〇月五日	け二六六
1 計政副主事伺書 并 承済付札 計監可 一〇月五日	157 一通
2 志垣村岡本広太願書 計政出納掛宛 一〇月	282 一通
3 御下ヶ金請取一札 岡本広太 計政出納掛宛 一〇月、十一月	278 ほか 三通
新堀村和助他差出一札「官札上納と引替に手形札請取」和助・山崎佐右衛門 計政方出納掛宛 明治三年九月	272 一通 け二八六
小根山村豊作受一札「同村酒井伸雄両替上納分御下金請取」小野清右衛門・月岡善平宛 明治三年一〇月八日	275 一通 け二八〇
拝借金證文「横浜商人方借入用達金の分を藩札にて拝借」力石村一郎・内川村平五郎ほか二人 会計出納掛宛 明治四年五月一八日	307 一通 け二八三
拝借金證文 伊勢町小瀧利兵衛 会計出納方宛 明治四年六月	276 一通 け二八三

宮繕方伺書類 明治三年	け二八三
1 宮繕庶務助伺書「藩邸上屋敷御奥御殿玄関長屋共拂下入札掛合落札伺」 一〇月	宿紙 193 一通
2 御殿向入札一札「同前入札」 九月二五日〜一〇月一九日	197〜205 一六通
3 宮繕庶務助伺書「南部坂屋敷庭石燈籠堀樋砲術小屋等拂下入札掛合落札伺」 一〇月	宿紙 191 一通
4 庭石等入札一札「同前入札」 九月五日〜一〇月	200 ほか 七通
5 宮繕方伺書「南部坂御拂立木二番札取調伺」 一〇月	197 一通
司金方内預証文 送金添状共「通商司借入金、東京到來金」 徳嵩広馬 岸善八宛、佐川又左衛門 富永新平宛 明治三年三月〜四年五月	200 ほか 六通 け二九二
諸入料請取書類綴 中嶋渡浪・池田富之進・徳嵩広馬・上村何右衛門宛 明治三年一〇月〜閏一〇月	200 ほか 一綴 け二七三
御内用金請取書 明治三年閏一〇月	一通
当十月中飛脚路銭 并 御手充請取渡証文 明治三年閏一〇月	一通
蛭口吹方修業之者 江 御手充請取帳 明治三年 閏一〇月	横長 一冊
御在所方越州水原迄宿々人足賃錢旅籠料其外入料勘定一紙 請取証文添 明治三年一〇月	三綴
買上米代金請取渡証文 請取証文添 明治三年 一〇月	継一通

賄所入料請取渡証文「巳六月〜九月分」 明治三年閏一〇月	一通	宿紙 157	一通 け二六七
山里村々借入金借居ニ付止宿料請取渡証文 明治三年閏一〇月	一通	305 ほか	一通 け二八七
喇叭修業中御手充請取渡証文 明治三年閏一〇月	一通	306 ほか	一通 (三綴)
去辰甲府表荷物出幸領増入料勘定一紙 明治三年閏一〇月	一通	277 ほか	一通 (四綴)
去卯年東京表荷物出幸領増入料勘定一紙 明治三年	一通	256	一通
当九月京都宿繼用状差立賃金請取書 明治三年閏一〇月	一通	封筒入 160	一通 け二八四
当閏一〇月東京表宿繼用状差立賃金請書 明治三年閏一〇月	一通	宿紙 158	一通 け二七三
去寅年京都表荷物出幸領増入料請取渡証文 明治三年	一通		一通 け二七七
献上金司金方へ相収証文 中嶋渡浪・横田機応 明治三年一二月	一通 け二八三	156	一通
上納金請取証文「東京到来金、初献上代金」 上村何右衛門 岡野教一郎宛、池田富之進 富永新平宛 明治三年一二月〜四年三月	四通 け二八三	283 ほか	一通
諸向上納金証文 中嶋渡浪 池田富之進外宛 明治四年(一二月〜八月)	二五通 け二八九	288 ほか	一通
国役普請金時借分請取手形 徳嵩広馬 富永新平宛 明治四年四月朔日	一通 け二七四	257	一通
計政副主事申上書「式分金手形引替」 一〇月一八日	一通 け二六九	宿紙 153	一通
郡政副主事伺書「今夕調物ニ付記録等へ賄被下方」 一二月一八日			
相場直段差出書類 用度方役所 明治四年	一通 け二八七	305 ほか	一通 (三綴)
1 楮市相場差上一札 牧野嶋村、新町村、八幡村 用度方役所宛 三月一四日	一通	277 ほか	一通 (四綴)
2 御用紙蠟燭直段立替願書 新町村金兵衛、栃原村仲右衛門、志垣村岡本広太、里穂荻村山本要蔵、木町宮沢彦兵衛 用度方役所宛 三月〜五月	一通	256	一通
3 御用紙直段立替願書 新町村金兵衛 用度方役所宛 七日	一通	156	一通
小野忠政用状「賞典高取調修正及為替会社一条大蔵省上納金」 小野善四郎 富永新平宛 四月二二日	一通 け二八四	封筒入 160	一通
有金調「御納戸有金、月割上納金、才賞金」 (明治)五月一〇日	一通 け二七三	宿紙 158	一通
下書及断簡	一通 け二七七		
1 矢野倉謙一郎用状「長国寺副寺上京」 長谷川唯見宛 八月二七日	一通	156	一通
2 武庫司事申上書「青山勝之助去ル辰年居間并出張等級」 (矢野倉謙一郎) 明治四年八月二七日	一通	156	一通
3 租税方伺書「竿手及定附人数案」 八月	一通	宿紙 154	一通
4 永石年限被下案	一通	155	一通
5 断簡	一通		一通

借入金

借財取調覚綴「各人各種借入金書上」 （嘉永二年）三年

宿紙混 一綴 け二五
二〇三ほか （九通）

北山安世、八田競、戸根山民之介、同人「御下金願」、橋本茂左衛門、土屋助九郎、中村健治・小宮山又七・宮原莊左衛門、両角三太夫、林丈左衛門

借財取調覚綴「同前」 （嘉永二年）三年

宿紙混 一綴 け二五
二〇三ほか （三通）

林辰之進、竹花富之進、須田翁助、諏訪部道斎、山田力太、金井藤三郎、厚木伯民・赤塩喜平太・田中増治、沢喜代太郎、内川巳之作、小野喜平太、近藤藤八郎、吉村左織、成沢義人、浅香長斎、（不明）、竹花其右衛門、水野敬之丞、藤田専蔵、高橋伝治、長岡茂市、高久専之助、北島半兵衛、栗山五郎作

借財取調覚「御趣意拝借其他借入元利拂残取調」

宿紙混 一通 け二五
一一月

山田庄左衛門・同健蔵書狀 「金談返事」 酒井市治・水野清右衛門外宛 二月二九日

宿紙混 一通 け二五
157

高田幾太用狀「芝山内借入金」 岡嶋莊蔵・長谷川深美宛 二月二八日

宿紙混 一通 け二五
150

京都守衛入料

京都御守衛中諸入料勘定一紙 文久三年七月、十一月

け二五

- 1 御貸馬道中入料勘定一紙 請取書添 関田莊助 祢津刑左衛門・堤千治郎外二人宛 七月 265 ほか 一綴 (二九通)
- 2 大小銃其他安治川口へ運送船賃等入料勘定一紙 請取書添 同前 同前宛 九月 249 ほか 一綴 (六通)
- 3 七月中旅宿諸色入料勘定一紙 請取書添 台所元へ 関田莊助 同前宛 八月 248 ほか 一綴 (冊四通)
- 4 七月中買上物品々入料勘定一紙 請取書添 関田莊助 同前宛 八月 260 ほか 一綴 (三三通)
- 5 八月中賄入料勘定一紙 請取書添 同前 同前宛 九月 248 ほか 一綴 (冊三通)
- 6 九月中賄入料勘定一紙 請取書添 同前 同前宛 九月 266 ほか 一綴 (冊三通)
- 7 八月中買上物品々勘定一紙 請取書添 同前 同前宛 九月 249 ほか 一綴 (冊二五通)
- 8 七月中九月中日雇人足賃錢勘定一紙 請取書添 同前 同前宛 九月 248 ほか 一綴 (四冊一綴)
- 9 御口之者受取書 「御在所罷婦手充等」 保兵衛 目付方役所宛 九月 249 ほか 一綴 (二通)
- 10 十月中賄入料并引拂入料勘定一紙 請取書添 関田莊助 祢津刑左衛門外宛 十一月 249 ほか 一綴 (九通)
- 11 京都詰中御手充扶持方雜用請取証文 同前 同前宛 一〇月 244 一通
- 12 大小銃返送船積運賃其外入料勘定一紙 請取書添 同前 同前宛 十一月 248 ほか 一綴 (一〇通)
- 13 御用済武器馬具等荷物道中入料勘定一紙 請取書添 同前 同前宛 一一月 265 ほか 一綴 (冊九通)

14御用済御貸馬道中入料勘定一紙 請取書添
同前 同前宛 一一月

横長 249 一綴
(二八通)

内借証文綴「京都御守衛御免帰国用意金」 祢津刑
左衛門外宛 文久三年七月〜九月

袋入 一綴
276 ほか
(一〇通) け一七五

御上京并上坂之向諸向中借証文綴「初代、御手
充、荷物賃金、割返など」 拂方御金奉行宛 文
治元年五月〜慶応元年二月

袋入 一綴
245 ほか
(五七通) け一七五

去子八月中都表へ大銃等船廻し往来入用社切
勘定一紙 御勘定吟味申上書共 寺沢大之輔 矢
野茂宛 慶応元年六月

袋入 一通
247 ほか
(二冊二四通) け一七五

京都御警衛中勘定証文綴 拂方御金奉行宛 慶応
二年三月〜同三年十一月

宿紙混 一綴
252 ほか
(八二通九綴) け一七五

○当寅京都御手充中借証文

○荷物駄賃内借証文

○京都行飛脚并荷物才領賄代手充内借

○上京御供御借馬病氣療治代請取

○同 高崎銀請取

○同 馬銀請取

○京都詰粉代中借

○木曾谷人馬繼立世話のため宰領組金右衛門出役
入料勘定一紙 請取書等添 近藤権右衛門 慶
応二年一〇月

○宰領組金右衛門御手充并人馬賃錢書出「同前ニ
付」 割番所宛 慶応二年四月

○京都〆帰国途中大風雨滞留廻り道入料ノ出勘定
一紙 宰領組百瀬梅司 同前宛 慶応二年五月

○寅京都割返中借

○御上京荷物駄賃金錢請取

○御上京御供道中坊主役御手充請取

去丑一二月〆寅四月中御上京用意武器品々修復
并新規出来入料勘定一紙 請取書添 武具奉行
拂方御金奉行宛 慶応三年四月

245 ほか
(三三三通) け一七五

京都御留守居方入料送金請取書綴 用状共 駒
村佐十郎等 酒井市治等宛 慶応三年七月〜明治
四年七月

276 ほか
(四一通) け一七六

去子年上京坂警衛立帰御留人詰並御手充評議書類
慶応二年〜同三年

け一七六

1割番再応同書「立帰上京小頭足輕三ヶ月以上滞
留者詰並拝借日数割合差支筋」 六月

宿紙 155 一通

2御勝手元ノ再御尋物答書 一〇月二七日

宿紙 154 一通

3足輕奉行添同書 一一月

宿紙 157 一通

4御勘定吟味再御尋物答書 一一月五日

宿紙 150 一通

5家老回状 鎌倉伊野右衛門 河原左京外二人宛
一一月六日

宿紙 157 一通

6御勘定吟味御尋物答書 一一月二日

宿紙 155 一通

7割番再同書 二月

宿紙 154 一通

8去子御手充被下方御達書写「子八月一八日、同
一一月二日付」

宿紙 150 一通

9御尋物答書写 三月

宿紙 155 一通

10割番取調申上書「御留人詰並滞京人別」 五月

宿紙 155 一通

去子丑兩年京都警衛立帰御留人御手充評議書類
慶応三年

け一七〇

1春原織右衛門同書 二月

宿紙 153 一通

2御勘定吟味御尋物答書 三月

宿紙 159 一通

奥向勘定

御側御納戸

御側御納戸役等添状刺「月割金・呉服代・化粧料・繰廻金札金などの送金受領書の送付添状」小野筆・石倉藤右衛門 磯田音門等宛 嘉永二年一月〜同年一月	宿紙混 152 ほか	一綴 け一五三
御側御納戸役等添状刺「同前」石倉藤右衛門・飯島楠右衛門 同前宛 嘉永四年正月〜二月	宿紙 152 ほか	一綴 け一五四
御側御納戸役等添状刺「同前」小野筆等 山寺源大夫等宛 嘉永五年正月〜一月	宿紙 152 ほか	一綴 け一五五
御側御納戸書類		
売上物書出「晒木綿・芳礼綿」 坂屋賀助 御茶部屋役所宛 安政六年十一月	152	一通 け一六一
買物代受取書綴「文箱・匂袋・急須・荷物駄賃」姫路板屋金兵衛等 松代榎田宛 安政七年三月〜閏三月	156 ほか	一綴 け一六〇 (七通)
御奥元ノ役申立書「慧雲院初七日夜食被下入料」(別紙欠) 御側御納戸宛 万延元年五月	宿紙 156	一通 け一六五
奥買上物書類 (文久元年〜同三年)		け一六三
1 買上物受取書「義太夫丸本四冊」 美濃屋与兵衛 御奥役所宛 三月七日	147	一通
2 買上物受取書「義太夫本筆写料」 帳付健兵衛ノ鹿野茂手木 亥正月	宿紙 155	一通
3 買上物書出「紙はさみ、髪さし、させる等」	161	一通

4 奥買上物料渡覚「ひさ薬礼等」二月二日	宿紙 155 149	二通
5 薬礼渡覚「幾野へ渡」二月二六日	横折 129	一通
6 奥入料受取書 幾野 宮下謙大夫宛 二月二日 文久三年七月一日ほか	153 ほか	六通
7 拝借手充金請取書「宮嶋通琅娘出産手充」斎藤友衛 同前宛 文久二年三月晦日	158	一通
8 金子請取渡証文「中老格ひさ願出分」 小山田菅右衛門 同前宛 文久二年八月	260	一通
9 銀子受取書「大平二」 登屋巳之吉 御奥役所宛 閏三月二八日	151	一通
10 買上物代料書上「幟・木綿等」山中 宮下宛	宿紙 156	一通
11 金子請取渡証文「中老格ひさ出府逗留中入料」 山岸助藏 河原敬之進宛 文久元年七月一日	150	一通
12 長谷川三郎兵衛用状「御前様御発興前用意品々入料金送付依頼」 宮下謙大夫宛 一〇月二二日	147	一通
河原敬之進用状「廻送之縮袴地売上切手依頼」 同前宛 六月一日	封筒 147	一通 け一六七
御三方様買上物代金渡方同書「おまき、およし、智光院三人分拂残御下ヶ金」(明治三年六月)	140 153	一通 け一六五
已九月五午六月迄江府表御臨時金御呉服金調一紙	横折 127	一通 け一六五
買上物代書出類綴「紅絹、白油、琴糸、筆、びん付油、齒磨、三味線糸など」 二月〜八月	157 ほか	一綴 け一六八 (一〇通)

御手元御用代差引覚「象革胴、中外新聞」
柘植嘉兵衛 宮下孫兵衛宛 九月八日

166 一通 け一六三

衣類及仕立代見積高覚「坂屋賀助見積高を取次」
明治四年四月

横折23 仮一冊 け一六四

御側御納戸書類断簡「金高寄、添廻状、用状封紙など」

165 ほか 六通 け一六六

○年中入料

御子様方去子年中御入料大概調申上書「貞姫、雄若、秀姫分入料」 杉田九八郎 天保十二年

袋入 け一五五

1 杉田九八郎申上書「貞姫、雄若分は入増となる旨の総括」 二月

宿紙167 一通

2 御入料大概調「三人別に各項の金額集計」 野中量左衛門・山下勇記 二月

宿紙166 一通

奥向入料差引申年未凡積 一一月一二日

161 二通 け一〇〇

奥向諸入料一ヶ年凡積（雛形）「呉服、焚炭、燈油、女中抱、御膳所入料」

242 一通 け一八六

月割金

御側御納戸申上書（別紙欠） 寅二月

け一五三

1 「殿様来卯年中月割金」

161 一通

2 「大殿様月割金引上依頼」

166 一通

上々様月割金中借証文綴 拂切引替証文共 長谷川深美・竹村金吾外 水井市治・谷口左仲宛 嘉永六年・安政四年

245 一綴 け一五五
163 (一〇通)

上々様月割金中借証文綴（寅年分） 磯田音門・竹村金吾外 水井市治・佐藤忠之進宛 嘉永七年

246 ほか 一綴 け一五六
(一三通)

上々様月割金中借証文綴（卯年分） 高田幾太・菅沼九兵衛宛 同前宛 安政二年

245 ほか 一綴 け一五七
(一九通)

殿様御前様月割金中借証文綴 長谷川三郎兵衛、草間一路等 水井市治・上村最仲外宛 文久四年正月・慶応元年六月

245 ほか 一綴 け一五三
(一八通)

殿様月割金等中借証文 同前等 同前外宛 元治二年

246 ほか 一七通 け一〇九

御前様月割金等中借証文 草間一路 同前外宛 元治二年二月・八月・一〇月

244 ほか 三通 け一六〇

貞松院様月割金等中借証文 草間一路・柁津繁人 同前外宛 元治二年二月・二月

243 ほか 五通 け一六二

上々様月割金中借証文 斎藤友衛、草間一路等 同前外宛 元治二年三月・二月

242 ほか 九通 け一六三

殿様月割金差立通知状 佐藤為之進、草間一路 宮下孫兵衛宛 正月・七月

宿紙 163 ほか 七通 け一六七

上々様月割金其他請取手形 宮下孫兵衛等 斎藤友衛、草間一路等宛 慶応二年三月・同三年正月

242 ほか 一綴 け一五七
(九通)

*殿様方月割金請取添状 佐藤為之進宛 慶応三年

1 「殿様九月分」 宮下孫兵衛 九月一四日

160 一通

2 「貞松院様九月分」 寺内友衛門・石倉藤右衛門 一〇月朔日

160 一通

3 「大御前様十月分」 山越右馬允 一〇月六日

142 一通

4 「殿様十月分」 宮下孫兵衛 一〇月七日

163 一通

5 「大御前様十一月分」 山越右馬允 一〇月晦日

142 一通

6 「貞松院様十一月分」 石倉藤右衛門 一一月

160 一通

上々様月割金請取添状 一 柘植嘉兵衛 草間一路宛 二月七日	153	一通 け五三	貞松院様月割金等拂切証文(元治二年分) 同前 同前宛 慶応二年三月	232 ほか (一三通)	け二五九
大御前様月割金請取通知状 山越右馬允 佐藤為之進宛 三月一〇日	143	一通 け一五〇	會計懸伺書「知事上京用意として月割金前借」五月一日	155	一通 け一五八
柘植嘉兵衛用状「上々様月割金請取書送付及臨時金支出依頼」 佐藤為之進宛 三月一五日	160	三通 け二五一	賄料		
殿様月割金拂切証文(安政七年分) 草間元司外 水井市治外宛 文久二年三月	242 ほか (一三通)	一綴 け二六六	照姫様御賄料御金出評議書類 天保二年		け二五七
貞松院様月割金并賄料拂切証文(安政七年分) 同前 同前宛 文久二年三月	243 ほか (一四通)	一綴 け二五五	1家老用状 小山田采女 恩田頼母宛 二月二一日	宿紙 127	一通
淨真院様御在命中賄料拂切証文(安政七年二月分) 同前 同前宛 文久二年三月	242 249 (一一通)	一綴 け二六三	2御勘定吟味伺書 二月	宿紙 127	一通
御前様月割金拂切証文(文久三年分) 同前 同前宛 元治元年三月	243 ほか (一三通)	一綴 け二五七	3草間一路用状 岡嶋莊藏・寺内多宮外宛 二月二一日	宿紙 122	一通
貞松院様月割金并賄料拂切証文(文久三年分) 同前 同前宛 元治元年三月	242 ほか (一六通)	一綴 け二五八	4小林元吉用状 兩人宛 二月二一日	宿紙 122	一通
殿様月割金等拂切証文(元治元年分) 称津繁人外 同前宛 慶応元年一〇月	245 ほか (一四通)	一綴 け二六一	5家老添状 望月主水 岡嶋庄藏宛 二月二六日	155	一通
御前様月割金等拂切証文(元治元年分) 同前 同前宛 慶応元年一〇月	245 ほか (一三通)	け二五〇	貞姫様秀姫様御賄料前借請取証文 若殿様分年賦証文共 矢野唯美 岡嶋莊藏・竹村金吾宛 弘化三年七月	248 250	二通 け二五九
貞松院様月割金等拂切証文(元治元年分) 同前 同前宛 慶応元年一〇月	246 ほか (一六通)	け二五二	御前様賄料引当金請取手形案 長谷川三郎兵衛宛 万延二年三月	247	二通 け二五四
殿様月割金等拂切証文(元治二年分) 佐藤為之進外 同前宛 慶応二年三月	244 ほか (一九通)	け二〇七	御側御納戸伺書「殿様去辰年御賄料御收納辻取調」一〇月	149	一通 け一五三
御前様月割金等拂切証文(元治二年分) 同前 同前宛 慶応二年三月	243 ほか (一一通)	け二〇八	御賄料其他書類		
			新御殿御守役内々申上書 取調別帳添 案共「御子様御賄料及女中等被下物」 巳二月	横長 124 宿紙 153	飯一冊 け一六〇 三通
			御召物類代価積 巳二月	149 ほか	五通 け一六三
			御出生様賄料不足高書出案 被下扶持高寛共	150、137	一通 け一六三

七月御下ケ金拂方覚「幸教家女等へ支拂」	宿紙 157	一通け二六三
御子様賄料及老女等被下物	横折 123	二通け二六四
家扶申上書 別紙共「一昨年以来滞御賄料御渡方」 明治三年二月	150	三通け二六五
文聰院様辰巳御賄料取調 明治四年		一通け二六六
1 興津権右衛門用状 富永新平宛 四月一四日	153	一通
2 富永新平用状 興津権右衛門宛 四月一八日	155	一通
知事以下奥向賄料書出	153	一通け二七五
家 禄		
御家禄之内請取手形 宮入慎七郎 駒村佐十郎宛 明治四年九月一七日	157	一通け二五九
被 進 金		
真月院様へ被進金請取証文 草間元司 高田幾太宛 嘉永六年二月	253	一通け二五〇
高田幾太用状「真月院様へ被進金請取証文送付」 岡嶋莊藏・竹村金吾宛 八月二二日	146	一通け二六三
御前様へ被進金請取証文 鹿野茂手木 宮下謙大夫宛 文久元年二月月〇元治元年二月	250~144	五通け二五五
計政副主事御尋物答書「文聰院様より真晴院様へ年々被進金」 三月一六日	宿紙 152	一通け二六元
仕 切 金		
殿様御仕切金中借証文 斎藤友衛 水井市治・水井忠治宛 元治元年八月〇二月	244	一綴け二五四 (二通)
興津権右衛門用状「文聰院去辰仕切金支出願」 鎌原溶水宛 一二月三日	155	一通け二七〇
殿様去巳御仕切金請取証文 藤井浅右衛門 岡野敬一郎宛 明治三年一二月	258	一通け二五五
殿様御仕切金請取証文 久保極人 同前宛 明治三年七月	257	一通け二五六
大殿様御仕切金請取証文 大日方渡 酒井市治宛 一二月二六日	155	一通け二六六
奥向諸勘定		
香雲院様へ御取替金請取証文 送金見届証文繼 川部源五兵衛 高山内蔵進宛 文政元年八月	252	繼一通け二五六
殿様其外御側金取扱申上書写「天曉院去後に長 国寺へ寄附など」(文政一一年カ) 九月	横長 123 宿紙 150	飯一冊け二六九 一通
御内用金請取手形 御側役など 御勝手元〆宛 嘉永六年〇元治二年	250~146	八通け二六六
奥向入用殘金引渡目録 久保極人 宮下謙大夫宛 文久一二年三月	143	一通け二七六
御表拂諸書類		け二八四
1 御表拂申立扣「鳥犀角代料」 文久二年閏八月	147	一通
2 鳥犀角代覚	149	一通
3 御表拂申立扣 (戌一二月二七日)	宿紙 152	一通
4 臨時入料御表拂申上扣「年中藥礼」 一二月	153	一通
5 臨時入料御表拂申上扣「貞松院入部御着日被進物」 亥年	宿紙 145	一通

6 御在府中懇意坊主へ被下物覚 文久三年ノ四年	横長 127	一冊	当正月中御前様諸色入料勘定一紙 受取書類綴 込 松本賢吾 鹿野茂手木ほか宛 慶応二年一月	237	一綴 (三一通) け一五六
7 坂屋賀助請取書「守袋代」 御奥役所宛 亥一二月	150、152	二通	殿様御側御用内借証文 宮下孫兵衛 片岡弘人宛 慶応二年一月	244	一通 け一七〇
8 大小袋代料書出「万屋納」	150	一通	慶応三年勘定書類		
9 御表拂申立扣 子正月一六日	宿紙 154	一通	宮下孫兵衛添状「八月中殿様月割金受取書送付」 佐藤為之進宛 七月二七日	149	一通 け一五六
10 中俣一平用状「御表拂請取」 玉川左門用状共 宮下謙大夫宛 子三月二八日	宿紙 154	二通	大塚谷平・杉本常左衛門用状「御飯米買付代 金正金送付依頼」 水野清右衛門宛 八月二三日	162	一通 け一五〇
11 中俣一平用状「御難料内借扱」 同前宛 子三月二八日	宿紙 154	一通	柘植嘉兵衛用状「玄米買上代臨時出金依頼」 斎 藤友衛外一人宛 八月二三日	162	一通 け一五三
12 御表拂申立扣「懇意坊主へ被下料」 子三月	146	一通	御用紙年中惣入料高十年比 九月二〇日	宿紙 157	一通 け一五四
13 女中へ被下物代書出「茂尾へ白縮緬」 丑年	150	一通	殿様方月割金請取添状 佐藤為之進宛	160~142	け一五二
14 御表拂申立扣「おかね様へ被進金」 丑年	154	一通	「殿様分」 宮下孫兵衛 九月一四日、一〇月 七日		一通
15 被下物高ノ出	127	一通	「貞松院様分」 石倉藤右衛門 一〇月朔日・ 十一月		二通
戊年中定用臨時御金出ノ高 (文久三年)	横長 123	飯一冊 け一七三			
定用臨時拂代ノ出「亥十月御参府前」	横長 130	飯一冊 け一七四			
興津権右衛門請取証文「御手許金利分、定用金等」 宮下謙大夫宛 元治元年六月	274	四通 け一五八			
綾雲院様生前御入料支拂協議書類 (元治元年)		け一六〇			
1 堀内大二郎用状 宮下謙大夫宛 九月二一日	156	一通	草間一路・柘植嘉兵衛用状「京都御用途之内 へ児島孝之助為替取組」 佐藤為之進・岡野弥 右衛門宛 十一月一〇日	159	一通 け一五三
2 磯田小藤太用状 同前宛 一一月七日	143	二通	才覚金利金請取書太田藤右衛門・海沼龍助 水 野清右衛門宛 慶応三年一一月	164 157	二通 け一五九
3 子年中御最合勘定請取書写	横 128	飯一冊	婚姻前御金繰覚 子年	宿紙 158	一通 け一七九

新御殿家扶伺書「真晴院様諸拂代残金内借」 月	宿紙125	一通	け一六六	布袋屋善右衛門願書「八丁堀様御出入により当用 召物調進出入願」大納戸役所宛 文化一三年五 月	331	一通	け一六五
堀内太一郎用状 別紙共「大殿様御用買上代送金 添状」宮入慎七郎宛 六月八日、八月八日	宿紙122	二通	け一六三	買上衣類等書類			け一六八
買上物代請取書「白粉、房楊枝、紅、香等」 (江戸)玉屋善太郎外 上宛 八月三日外	245~ 160	一三通	け一六九	1 内借金請取書 宮下謙大夫 長谷川三郎兵衛宛 安政三年二月	160	一通	
買上物書出「五分鉄、白蠟、金銀等」(松代) 紙屋忠兵衛外 御茶部屋役所外宛 辰五月	133ほか 160	八通	け一七六	2 御拂入料差引書 佐藤小左衛門 巳九月	163	一通	
殿様其他入料勘定取調下書	宿紙 157ほか	五通	け一七三	3 差引受取書扣 宮下謙大夫 河原敬之進宛 未 五月	149	一通	
馬場弥三郎伺書及用状 午年		け一六三		4 衣類書付綴「注文書写、寸法書、見積書」	147ほか (四通)	一綴	
1 伺書「去巳年迄諸入料御拂残分拝借」一〇月	158	一通		5 熨斗目注文書	147	一通	
2 伺書「御繰廻金利分御下ケ」一二月二五日	160	一通		6 諸書付綴「坂屋嘉助買上物代書上、呉服其他反物 数量など」	149ほか (五通)	一綴	
3 用状「月割金残金等至急送金依頼」一二月二〇 日	163	一通		與向臨時呉服物類勘定書類(安政五、六年)	け一六七		
御子様方諸拂及奥女中扶持代金滞分御下ケ評議 書類 明治四年		け一六〇		1 河原敬之進用状 別紙共「昨年中呉服物臨時入 料仕分」宮下謙大夫宛 一一月二三日	150	二通	
1 竹花新介他伺書「御三方様用紙代残金御下ケ」 七月	146	一通		2 河原敬之進用状別紙「昨年木綿代調べ落分取 扱」同前宛 一二月二三日	151	一通	
2 竹花新介他伺書「奥女中玄米扶持方滞代金御下 ケ」七月	146	一通		3 午年臨時分差引書	150	一通	
3 祢津刑左衛門添伺書「1・2両件」七月	159	一通		4 売上物代請取書「嶋縮緬」万屋七兵衛 上 宛 未正月晦日	169	一通	
4 計監御尋物答書 七月九日	157	一通		5 売上物代請取書「麻紋付ほか」沼田屋大藏 御茶部屋役所 安政五年二月	318	二通	
御尋物答書案「秀姫様御琴師匠へ被下物」 一〇月	126	三通	け一五八	売上物書出「呉服類生地他」万屋七兵衛 上宛 申七月	328	一通	け一六九

○呉服類買上

御奥買上呉服類入料取調書 請取書共		150~158	六通	け二六〇
奥向買上物代書類 慶応二年				け二六二
1 磯田小藤太用状 宮下孫兵衛宛	二月一六日	154	一通	
2 磯田小藤太用状 同前宛	三月一九日	156	一通	
3 磯田小藤太用状 同前宛	二月二七日	151	一通	
4 呉服代内借金差引残金返上書 磯田小藤太同前宛	二月	157	一通	
5 買上物被進内訳書 [前号支拂の井上河内守等へ白斜子調進の内訳]		153	一通	
呉服類買上物売上綴 [「その一」三三八ページ所載あ二三七九、あ二三七八参照]				け二六六
1 慶応二年寅年呉服御買上賣上綴 [買上物受取書、御召呉服物品々御買上取調帳]		横長126 330~151	一綴	
2 慶応二年寅年御臨時売上綴 [買上物代受取渡証文及代金受取書]		310~153	一綴	
○臨時支出				(五通)
去子九月五十二月迄臨時御金出評議書類				け二五三
1 御勘定吟味申上書 [臨時入用金] 草間一路	丑二月	宿紙125	一通	
2 御勘定吟味申上書 [若殿様品々入用]	同前	宿紙125	一通	
3 御勘定吟味申上書 [当用不足金]	同前 丑二月	宿紙125	一通	
4 家老差図書 恩田頼母 御用番宛	三月三日	155	一通	
亥五月五八月迄臨時御金出評議書類 嘉永四年				け二七〇
1 宮下兵馬申上書	一〇月	154	一通	
2 宮下兵馬申上書 [若殿様分]	一〇月	154	一通	
3 家老添状 御用番宛	十一月二日	宿紙126	一通	
4 家老差図書 真田志摩 山寺源大夫宛	十一月九日	147	一通	
5 佐藤為之進申上書 [月割上納申渡報告]	二月二五日	147	一通	
御前様御産入料金請取証文 長谷川三郎兵衛 磯田音門宛 安政五年二月		254	一通	け二四四
若殿様御乗出暮方等積書				け二六八
1 金井左源太内々申上書案	五月	宿紙157	一通	
2 若殿様御暮方凡積下案		宿紙150	一通	
3 若殿様之方上下共被下物取調凡積 [御側役以下湯殿番迄]		宿紙151	一通	
4 矢沢監物用状 金井左源太宛	五月二五日	宿紙145	一通	
5 伊藤環申上書写 [若殿様御定金見積]	子六月二四日	宿紙160	一通	
6 若殿様暮方積書 伊藤環	二月	横長125	一冊	
7 若殿様御膳所品々入料凡積		横長121	一冊	
8 暮方入料見直覚		宿紙160	一通	
9 御乗出御供被下物凡積		150ほか	二通	

10 石高直段引直積覚

宿紙
157 ほか
三通

○夫人等出入国 (→『その二』二八、三六頁を参照)

貞松院様御在所入諸人料請取証文及内借証文
〔御守役請取、御供人内借、宿割人足代、御供立婦
出府諸人用、同手充拝借など〕 池田富之進宛
235 ほか
文久三年三月 一通 け一六〇

貞松院様御前様待受用意金請取拂切手 磯田小
藤太 宮下謙大夫宛 文久三年八月 157
一通 け一六七

貞松院様御供向^用〔兩宿賄代之儀評議書類〔御
供向全員へ賄被下伺につき殿様入部の先例と相異
の旨〕 (文久三年) け一六二

1 御勝手元ノ伺書 一二月朔日 153
一通

2 御勝手元ノ伺書写 一月一五日 153
一通

3 御勝手元ノ伺書写 七月 153
一通

4 代官申上書写〔七月伺書の別添写〕 七月 155
一通

御前様御出府内借中借証文 齊藤房吉、菅沼小弥
太 西村源蔵・池田富之進宛 元治元年、慶応三
232 ほか
年 (八通) け一五六

貞松院様御出府内借中借証文 根井小右衛門外
同前宛 元治二年正月 237 ほか
(二通) け一五九

○繰廻金

道姫様繰廻御下金請取渡証文 岡嶋莊蔵・興津
権右衛門 矢沢監物宛 文政一年一月 329
一通 け一五七

大殿様御側繰廻金内訳調書 一通 け一七三

真晴院様附家扶伺書〔繰廻金御下ヶ願〕 一二
月 151
一通 け一六七

御前様御繰廻御礼金御下ヶ方評議書類 け一六三

1 御勝手元ノ申上書扣 案共 九月 126 161
二通

2 御守役申上書 河原理助・湯本三左衛門 一一
月 宿紙 157
一通

3 家老引継書 小山田采女 矢沢監物宛 一一
月一日 140
一通

興津権右衛門用伏〔大御前様御繰廻金利分支出依
頼〕 谷口弥右衛門宛 七月二二日 153
一通 け一六六

○順操院

磯田小藤太用伏〔順操院拝借金之事〕 宮下謙
大夫宛 正月二五日・二月二日 146
二通 け一六四

順操尼借用金覚 同前宛 一二月朔日 160
一通 け一六六

○貞姫

貞姫様築地江御逗留ニ付御持込道具勘定 南部
坂御守役 袋入
一通 け一六三

貞姫様御道具御買上物直段附 袋入
一通 け一六三

1 御買上物ノ高〔呉服、道具、目録、小間物等
項目別高寄〕 242
一通

2 御召類被下早々調 横長 125 飯一冊
一通

3 南部坂御守役伺書〔御難調達〕 二月 163
一通

4 南部坂御守役伺書〔同前、内裏及雛子方早々
仕入〕 一月 155
一通

5 御土產品々目録 六月一四日	150	一通	順操院書狀 小野肇宛	161	一通	け一五五
品々買上物代寄	150	一通	山寺源大夫外用狀「献上進物等入料取扱」同前 宛 安政元年閏七月二二日	161	一通	け一五五
伊勢屋善四郎積書「細工筆筒、小袖筆筒」 天 保一五年六月	152	一通	順操院殿被下金等之内請取切手 中沢保孝 駒村佐十郎宛 六月二七日	150	一通	け一五五
伊勢屋善四郎願書「御仕舞道具積り書不調法詔 入」 天保一五年七月	337	一通	家老差図書「慧昌院様品々入料 井 八丁堀奥様御 床揚等貞松院様御入料御金出承済」 玉川左門 南部坂御守役宛 安政五年五月二二日	125	一通	け一五七
貞姫様御鉄漿初祝儀御尋物答書下書 貴姫様先 例入用ノ共	123	三通	御床拂御祝儀目録扣	横折123	一通	け一五八
貞姫様疱瘡中臨時入料書類	125	一通	被進物目録控	160	一通	け一五九
1 坂田半兵衛外用狀「二式入用手形送付添狀」 山本嘉十郎宛 三月一日	14	一通	山寺源大夫・磯田音門外用狀「御床拂用意」 小野肇宛 九月二五日	148	一通	け一六〇
2 諸入用受取書 巳正月一二月	240 ほか	継一通	被進物目録案等	162 ほか	九通	け一六一
3 入用請拂証文 松浦八十郎・岡三郎右衛門 巳 三月	247	一通	貞姫様御賄料評議書類		一通	け一五二
4 南部坂御守役伺書	152	一通	1 奥御賄役書上「辰六月一二月分入用請拂不足 高書上」 六月	宿紙142	一通	
5 伺書案	宿紙135	一通	2 南部坂御守役伺書 六月	148	一通	
八丁堀御前様御不快中并御床拂之節被進物及被 下物書類			3 御勘定吟味申上書 七月二二日	150	一通	
八丁堀御奥様御病中被進物并被下物御入料控	横長135	一冊	桑名松平家用人用狀「別紙欠」「貞姫様御入用向 不足之件」 太平九左衛門・宇野五郎左衛門 鹿 野牧人宛 六月一〇日	164	一通	け一六三
南部坂御守役岡田新兵衛 寅五月、九月	横長132	一冊	桑名松平家用人用狀「貞姫様葉礼及琴師範謝礼支 出方問合」 同前 鹿野牧人・宮下但美宛 七月 一三日	165	一通	け一六九
八丁堀御前様御病中并御床拂之節被進被下物 取調御入料控 同前 寅五月、九月	横長132	一冊	桑名松平家用人用狀「別紙欠」「綸子御召物買上 入用別途拂方依頼」 同前 同前宛 七月二九日	162	一通	け一六八
八丁堀御前様御床拂御祝儀控	横長132	一冊				
おほへ帳「贈品の送り先、品名、代料」 四月一 八月	横半130	一冊				

貞姫様へ被進金等請取手形「病中及床揚後」

け二五

1 被進金請取手形 小山田菅右衛門 高田幾太宛
丑七月

164 一通

2 被進物等品々入料貞松院様分請取手形 小野
肇 同前宛 安政二年四月

247 一通

3 被進金請取手形 鹿野茂手木 片岡十郎兵衛宛
安政二年二月

247 一通

珠光院へ被進金請取手形 宮多 白井要人宛 三
月二十七日

159 一通 け二五

珠光院様へ被進金書類

1 磯田小藤太用状「三〇兩渡方」 宮下孫兵衛宛
正月九日

155 一通

2 計政副主事伺書 二月

155 一通

3 磯田小藤太用状 宮下孫兵衛宛 三月九日

156 一通

御仕向

年中御仕向用状類

け二四

1 御守役用状 被仰渡書写共「御在城中御仕向」
鹿野茂手木・竹内晋平 矢野唯美・山中鹿渡宛
七月五日

165 二通

2 貞松院様御守役用状「年中御仕向」
衛門・小野肇 同前宛 七月七日

宿紙 42 一通

3 御仕向帳書抜「貞松院御仕向勤方」

宿紙 43 一通

4 御守役御仕向調書抜

宿紙 45 一通

5 貞松院様御守役用状「御仕向使者勤方依頼」
谷口・小野 山中・矢野外宛 七月七日

宿紙 14 一通

八千世姫様御引移りニ付御召しらべ帳扣寛
「年中式日 井平日召物目録」

横長 124 仮四冊 け二五
162

病氣・療養

横山玄庵年中差上葉数量申上書 一二月

149 一通 け二七

柴田芸庵葉礼御入料一紙「若殿様分」 嘉永三
五年

け二七

1 「酉年分」 嘉永三年正月

245 二一通

2 「戌年分」 嘉永四年正月

243 一三通

3 「亥年分」 嘉永五年正月

249 一三通

柴田芸庵御入料一紙「若殿様正月〜五月分」御台
所目付 嘉永五年七月

237 一綴 け二六
155 ほか (九通)

御遺物(「その」葬送を参照)

大暁院様御遺物入料請拂勘定一紙 突合受取書
共「絹布、木綿、刀箱、表装その他」 渡辺富之
丞 文政二年八月〜十一月

286 ほか 一綴 け二七
(七七通)

大雲院様御遺物諸色入料請拂勘定一紙 突合受
取書共 南部坂御台所元ノ酒井友左衛門、岡田新
兵衛差出 天保十五年ノ一〇月

363 ほか 一綴 け二六
(四四通)

御遺物品々断書上帳「天真院御遺物」 南部坂御
台所役所 文化二年九月

横半 128 一冊 け二八
二

御尋物答書「文聰院様御道具類長国寺へ納方」
(明治二年) 一一月

宿紙 54 一通 け二六

御膳番

御膳所向料理人等拝借金評議書類「京都出陣中禁門之變にて衣類等焼失のため拝借願出」 元治元年 け一七五

1 料理人願書 大谷津又藏・堀井泉藏 七月 宿紙二四 一通

2 佐藤安喜用状「各人被害程度取調方依頼」 御膳番宛 八月二日 宿紙二四 一通

3 衣類等取調書「当日着用衣類及搬出品々」 料理人 八月 宿紙二四 一通

4 申渡書「1への指示」 御膳番宛 156 一通

料理

料理献立積り書 献立書扣共 売茶亭 153 三通け二六三

料理献立積り書 酔月楼 155 一通け二六三

料理献立積り書 酔月楼彦兵衛 七月 156 一通け二六四

年未年始御膳献立案 御勝手元 辰二月 150 一通け二六五

台所

御台所諸色入料勘定一紙 元ノ石川藤治郎、小林太一郎 斎田虎尾宛 256ほか け一八三

1 「寅三月分、酒、塩、味噌、醬油、蠟、松材、豆腐、鰯、箸など」 慶応二年五月 一綴（一七通）

2 「寅七月分、同前」 慶応二年九月 一綴（二二通）

3 「寅八月分、同前」 慶応二年一〇月 一綴（一八通）

4 「寅九月分、同前」 慶応二年一〇月 一綴（一六通）

大殿様御台所諸色入料請拂勘定一紙 元ノ佐藤元吉、大目方渡・藤田岡之進 池田富之進宛 け一六三

1 「辰七月中、干葉、附木、杓子、桃灯、庖丁修理、桶など」 明治二年四月 246ほか 一綴（六通）

2 「辰八月中、黄粉、附木、薬罐修理、平鉢、菜台、桶など」 明治二年五月 246ほか 一綴（七通）

3 「辰九月中、同前」 明治二年六月 246ほか 一綴（九通）

4 「辰十月中、同前」 明治二年六月 246ほか 一綴（七通）

5 「辰十一月中、同前」 明治二年六月 246ほか 一綴（七通）

6 「辰十二月中、同前」 明治二年六月 246ほか 一綴（二通）

去寅御膳所入料「八月〜十月分」 155 一通け二六四

御台所入料金高取調書「拂残分及び見込」 用度 155 一通け二六五

御奥御台所納炭代金滞分書上「明治二年貞松院眞晴院両御奥納入分」 高岡村徳右衛門 明治五年 横折128 一綴（二通）け二六六

御召馬

御預り馬飼料手段金請取証文「竹村金吾預り御召馬斃ニ付 同飼料手段金」 御殿小頭金児銀之助・稲葉恒作 中島宇吉外宛 天保六年三月〜同八年五月 247 三通け二六二

若殿様御召馬飼料請取証文「去ル末年斃ニ付」 同前 同前宛 天保八年三月、五月 247 一通け二六三

奥女中（『その二』八〇〜八一頁を参照）

覚帳「表使等宿下り規定」 南天御次 横半125 一冊け二六三

御奥女中被下物定「下宿中扶持菜銀の期間別規準」 152 一通け二六三

女中下宿中被下物定写「病氣養生御暇中扶持菜銀被下方」 文政二年	169	一通け二六四	御側のふ御暇願「病氣養生のため」 本多伯耆守内今井幾太郎 同前宛 文久元年二月	340	一通け二六三
御奥元ノ役再伺書「中奥仲間勤方」 四月	宿紙165	一通け二六五	御末明石御暇願御下ヶ願「縁組不調ニ付勤統」 登戸村医師良 御奥役人衆宛 慶応四年正月	361	一通け二六三
家老御書取「磯田小藤太娘さくら御小姓御雇」 御奥元ノ役宛	宿紙166	一通け二六二	奉公人紅梅差上一札「夫新助不埒御聞済の上にて奥向再勤」 清野村新助女房紅梅 佐藤小左衛門宛 明治二年七月	277	一通け二六四
御尋物答書案「順操院殿使廻り一人渡方」	163	一通け二六三	女中支度金拝借証文「妹松の被召抱に付」 大野左平治 長谷川三郎兵衛宛 安政六年五月	301	一通け二六五
馬場弥三郎申上書「老女米田等郡山表へ差送出立日限」 五月一〇日	○		女中支度金拝借証文案「妹の御側御雇の節」 大殿様附女中菜銀請取渡証文 松本賢吾 齋田虎尾外宛 慶応二年五月、同一月	148	一通け二六七
新御殿奥女中名前書上案「老女上席以下四人」 新御殿御守役 巳六月	257	一通け二六六	御末時雇被下物代金請取証文「西村孝三郎伯母常盤」 鹿野茂手木 佐藤為之進宛 慶応四年八月	245	一通け二六九
奥向女中等暇及再勤願書			女中死去手向金請取証文「千代野」 玉川市郎兵衛 役人中宛 六月一二日	163	一通け二六〇
御側女中はる御暇願「縁組のため」 松平甲斐守家来牧田佐右衛門 堀川権左衛門宛 天保一二二年十二月	365	一通け二六八	預金元拂殘金引渡勘定書「奥女中賄菜銀及麦菅代差引」 久保極人 宮下謙大夫宛 七月二一日	横折129	一通け二七三
御末明石御暇願「同前」 赤坂田町四丁目松山佐吉 岡田新兵衛宛 嘉永六年八月	315	一通け二六七	奥女中五ヶ年勤被下物「中老増尾以下五人」	150	二通け二七五
御末とみ御暇願「病母看病のため」 松平十郎鷹家来永井善次郎 同前宛 嘉永七年七月	260	一通け二六八	女中等へ被下物「住江以下一人」	167	一通け二六六
藤御暇願「父看病のため」 松平時之助内鳥羽大八 同前宛 安政二年三月	263	一通け二六九	御側時雇女中被下物書類「根来斧右衛門娘美代」 明治二年		け二六八
御次いつ御暇願「縁組のため」 松本賢吾 同前宛 安政二年四月	315	一通け二六五	1十一月十二月両月分取調帳 新御殿御奥支配添役 一二月	横長127	一冊
御仲居柏木御暇願「老母看病のため」 今井三谷町金子屋伝助 同前宛 安政五年二月	364	一通け二六五	2代金受取証文 南沢甚之介 岸善八宛 一一月	245	一通

<p>3 代金受取証文 岩下半兵衛 岡野敬一郎宛 一 258 一通</p>	<p>河原敬之進用状「奥女中拝借金」 宮下謙大夫宛 宿紙152 三通け170^四</p>	<p>浦野勇右衛門用状「九月中奥女中菜銀廻付依頼」 片桐重之助宛 一〇月九日 宿紙155 一通け170^六</p>	<p>家中</p>	<p>奥 勘 方</p>	<p>御奥御使廻り跡式願 御添役宛 慶応四年八月 け165^五</p>	<p>1 「新御安口与右衛門三十才へ」 文太 250 一通</p>	<p>2 「小林隣之助長屋吉太郎五十才へ」 喜作 251 一通</p>	<p>3 「鍛冶町利作三十七才へ」 常次郎 279 一通</p>	<p>御勝手元ノ御尋物答書 「貞松院様御広式帳付組除之儀」 九月二十八日 宿紙155 一通け170^六</p>	<p>柘植嘉兵衛用状 「御奥使廻り勘方被仰渡伝達」 御守役・御奥元ノ役宛 三月二〇日 宿紙154 一通け171^一</p>	<p>維新後家中</p>	<p>武田斐三郎家内四人上東京入用伺書類 け171^二</p>	<p>1 飯島与作伺書 「御借人・道中賄・出立後片付等」 五月 156 一通</p>	<p>2 上京入用凡積取調書 156 一通</p>	<p>3 指図書 「伺之通」 飯島与作宛 160 一通</p>	<p>4 武田斐三郎御借人へ渡金覚 156 一通</p>	<p>河口多喜人略歴調書 「河口左文太の弟、母看病のため若松県調役より帰国滞在」（明治三年カ） け183^三</p>	<p>1 河口多喜人差出書 七月 182 一通</p>
---------------------------------------	--	---	-----------	--------------	---	-----------------------------------	-------------------------------------	----------------------------------	---	---	--------------	---	--	---------------------------	---------------------------------	------------------------------	--	-----------------------------

2 河原左京用状 勘返状 用番宛 七月二十九日 (八月一〇日)	157	一通	
三井孝右衛門外六人有免願書類 「下筋出兵にて賞典を受けた後、結党集会等により御咎の処、大変革を機に赦免復権を願出」 明治四年		け 一八三	
1 割番申上書 「三井孝右衛門復権」 七月	155	一通	
2 割番申上書 「小頭六人復権」 七月	154	一通	
3 副隊長補伺書 「両件伺」 八月	153	一通	
4 下筋出張五番隊惣代願書 「前号添付」 割番所宛 七月	包紙 275	一通	
5 金児弥高外歎願書 「前々号添付」 八月	156	一通	
6 久保三郎御尋物答書 監察認可 八月一〇日	152	一通	
7 議事御尋物答書 八月一六日	156	一通	
8 監督御尋物答書 九月七日	157	一通	
9 跡式人等名面	146	一通	
○旧藩士屋敷			
座間吉人歎願書 恩田新八拝借地絵図共 地差支 = 付恩田新八屋敷地之内を貸渡願 明治四年三月〜四月	包紙 152 277	一通 け 一八〇 一 枚	
増田愛之進願書 「屋鋪地被下方」 松代庁宛 明治五年二月	包紙 162	一通 け 一八二	
今井友之進願書 「同前」 同前宛 明治五年二月	包紙 152	一通 け 一八三	
内川治三郎願書 「御城内建家拝借」 同前宛 明治五年二月	包紙 150	一通 け 一八三	
坂巻与兵衛願書 写共「借地明渡ニ付元宮繕方役所之内拝借願」 同前宛 明治五年正月 包紙 149 丸茂文逸・平野玄祐願書 写共「御貸長屋据置又は御用屋敷へ転住」 明治五年二月 包紙 145 一通 け 一八四 一通 け 一八五			

明治期史料

政治所

徳川家へ御助力伺出願書 辰（明治元年）		封紙入	け二頁
1 河原左京添状 鎌原伊野右衛門宛 一月二〇日	149	一通	
2 玉川一学申上書 一月一八日	152	一通	
3 行政官官掌召喚状 真田家来宛 一月一七日	156	一通	
4 真田信濃守（幸民）伺書并附札 口上書写共 玉川一学 弁事役所宛 一月一二日	194	二通	
伊那県通知状 「伊那県大参事宣下通知」 松代藩宛（明治三年カ）正月二三日	封紙183	一通 け二二	
普仏交戦中居留人旅行之儀通達書類 明治三年八月		け二八元	
1 民部省達書 「仏字戦争中三港居留人陸路通行取計方」別紙共 松代藩宛	196	二通	
2 民部省書付 「松代・小諸・上田三藩名」 松代藩宛	196	一通	
3 玉川一学申上書 「前二号回付及小諸・上田両藩へ回達報告」 八月八日	159	一通	
4 大参事用状 「前号回付」 大熊董 真田桜山宛 八月一〇日	宿紙151	一通	
盛岡県出張後帰藩途中駅通規則違反取調書類 「元盛岡県権大属中村小一郎、坂西広見、竹内多吉ら駕籠人足遣に非法の件」 明治三年			
1 公用人申上書 「駅通司を違反の旨口達を受け取調方依頼」 六月二〇日	165	一通	け二八
2 監察申上書（別紙欠） 「三人方事情聴取の上各申立を添えて答申」 七月	150	一通	
3 松代藩返答差出書扣 三人答書写共 公用人玉川一学 駅通役所宛 寅年七月一八日	置紙216	二通	
4 公用人申上書 「前号による駅通司の反応を報告」 七月一八日	163	一通	
5 少参事評議答書 「六〇八号を添えて三人の処分を答申」 七月三〇日	144	一通	
6 三人へ御沙汰草案 「次号別紙」 議事	147	一通	
7 議事評議答書 七月	148	一通	
8 監察評議答書 大監司 七月	147	一通	
9 少参事申上書 「三人遠慮の日取」 八月四日	149	一通	
10 大熊董用状 別紙共 「三人取調申入」 真田桜山宛 六月二日	164	二通	
11 真田桜山用状 「少参事取調の趣書面送付」 大熊董宛 七月二日	149	一通	
12 金井麗水用状 「監察尋問委細書面送付」 宛名不明 七月	149	一通	
13 大熊董用状 真田桜山宛 七月二四日	164	一通	
監手申上書 「廢藩後富山・金沢両県下風説穿鑿」 明治四年八月	155	一通	

地図取調

信濃国地図取調一条 明治元年〜二年

け二八六

1 執政用状「以下書類回送添付」 赤沢助之進 鎌原伊野右衛門宛 四月五日

封筒入128 一通

2 府県掛弁事通達「地図仕様」 一月七日

181 一通

3 真田家公用人伺書 并御附札「各藩県申合の上管下領地色分けにて全図差出の事」 公用人北沢職之助 弁事役所宛 三月晦日

124 一通

4 公用人申上書「前号伺書御附札を受けて伊那県など取調方」 北沢職之助 四月四日

181 一通

信濃国地図取調一条「松本藩高附帳借受書類」 明治二年

封筒入 け二八七

1 御勝手元ノ申上書 七月

155 一通

2 野中喜左衛門申上書「同前別紙、戸田丹波守家来阿尾勝右衛門へ面会之上同藩高附帳預り之儀」 七月六日

151 一通

3 玉川左門用状 赤沢助之進宛 七月七日

149 一通

4 北沢職之助申上書「駅通司へ差出の所不用に付御下付」 七月二六日

164 一通

5 松本藩阿尾勝右衛門請取書「貸渡中の高附帳返却受領」 野中喜左衛門宛 二年九月

280 一通

他藩士預

村上藩士御預り書類 明治二年

け二九〇

1 玉川一学申上書「加茂卜助、鈴木乙五郎御預ケ之旨弁官次号御渡しに付彈正台へ引取りに罷出る旨」 一〇月朔日

149 一通

2 太政官御書付 松代藩宛 一〇月

212 一通

太政官御書付「村上藩士江坂正之助御預ケ」 松代藩宛 明治二年一二月

212 一通 け二九六

太政官御書付「村上藩士三人御預ケ御免」 松代藩宛 明治三年五月二二日

包紙付212 一通 け二九七

岩村田藩士大原秋治赤岩宇賀之助護送一条

け二九八

1 柘植嘉兵衛用状 鎌原伊野右衛門・大熊衛士宛 一二月二六日

153 一通

2 柘植嘉兵衛用状「京都表へ申入の写」 真田志摩・赤沢助之進宛 一二月二五日

152 一通

3 大原秋治御預中入料書出 (柘植貼添申上) 御台所・御買物役宛

158 二通

4 警固向拝借金其外品々御入用調

板橋帳124 一冊

静岡藩士帰藩書類案「同藩今井三省上戸倉宿に帰農中の処、帰藩出立の節に交付の書類、追記にて所持藩札引替願の件、末尾未完」

160 一通 け二九九

廃藩以後

元盛岡県書記申立評議書類「元年二月以前帰郷者月給在京官員にて配分の件」 明治五年

け三〇〇

1 小幡静御尋物答書 三月

168 一通

2 調役申立書 竹内多吉・坂西広見 三月

153 一通

松代住貫属士卒取締出仕請書 扣及案 長野県庁宛 明治五年三月

147 一通 け三〇一

玄米受取証 捕亡 松代取締長谷川昭道宛 明治五年三月

長野県青野紙 275 一通 け三〇二

明治五年會計雜書類 明治五年		御内借金返納御流願書 小野忠政宛 明治五年	
1 紙札発行金高調 五月晦日調	宿紙 150	1 中町吉兵衛 九月	277 仮一冊
2 酒井市治申上書 「町方借入金取調出張人へ御手 充被下方」 七月	149 一通	2 中町龜吉女たい 九月	277 仮一冊
3 旧松代藩屈書案(断片) 「士族用達金高長野県 へ届」 二月	149 一通	3 鍛冶町安川金藏 九月	279 一通
4 調達金高屈書写 佐藤美与喜 長野県庁宛 二 月	149 一通	4 鍛冶町巳之吉後家戸谷ひさ 九月	274 一通
5 河原権大参事差函書 「上田管下村々借入金利分 支出」 會計懸宛 七月二一日	155 一通	5 鍛冶町牧野東作 九月	279 一通
6 諸向総入料凡積 「海陸軍監・賞典・月給藩用 等」	157 一通	6 鍛冶町栗木重藏 九月	276 一通
7 諸手充申談箇条	横折 137 一通	7 中町芳三郎 九月二五日	277 仮一冊
8 某用状 「矢代村安兵衛調達金再調伺」 八月二三 日	149 一通	8 中町和田長三郎 一〇月	278 一通
9 某用状案 「甲斐国三人へ借入金」	152 一通	9 中町田中新三郎 一〇月	277 仮一冊
10 犀川・煤花川川除金高覚	宿紙 155 一通	10 中沢久右衛門 一〇月	277 一通
11 職事史生月給案 出納方宛	149 一通	11 中町相原□治郎 一〇月	277 仮一冊
12 用達金差出人へ被下物案	152 一通	12 中町市左衛門子市太郎 一〇月	275 仮一冊
元御雇組目役願書写 「去巳年西京詰中鉄砲磨等 兼勤御手充願」 落合峯治・佐藤栄之丞 元武庫 方役所宛 明治五年七月	仮綴 241 一通 け二八四	13 木町池田富作 一一月	277 仮一冊
日影村借用人親類惣代・組合惣代願書 「同村 三十郎村上納金持運中盜賊に遭い家出後、家財処 分にて不足分を拂切之儀」 小野忠政宛 明治五 年九月	277 仮一冊 け二八五	14 鍛冶町真峰小三郎 (宛ナシ) 一一月	278 仮一冊
		15 「同町栄藏・伝右衛門借用分代願」 肴町肴問屋 古森佐助 小野唯之進宛	275 仮一冊
		壬申年御賞典半高分請取證文 春原織右衛門・ 竹村子習・恩田新六・長谷川昭道宛 明治六年一 月二二日	250 一通 け二八五

松代町旧屋願書 矢野唯見付札 「戊辰役人馬
荷物賃錢御下ケ」 杭全鉄之助・滝澤惣八郎 明
治六年十二月 青鷺紙 一通 け二八六

家扶所

飯米代下金受取証 買上受取書共「二月〜八月分」 155
中沢保孝 石倉秀孟宛 明治九年八月 (二四通) け二八三

当用金預証写「難及梅等の拂下料の内」 石倉秀
孟 明治九年八月 158 一通 け二七六

御飯米代下金受取証 「九年九月〜十二月分」 157 ほか 一綴
中沢保孝 石倉秀孟宛 明治一〇年二月二十七日 (一通) け二八四

飯米代請取証 売上証文添 中沢保孝 石倉秀孟
宛 明治一〇年七月、同一一年三月 162 ほか 一綴
(三三通) け二七七

賞状案 中沢芳三郎宛 明治一一年三月二〇日 164 一通 け二八七

中借金請取証綴 「白米・用紙等買上代・月給・
町方拂など」 前島好謙 佐藤則通宛 明治一四
年七月〜同一五年二月 162 ほか 一綴
(二一通) け二八二

諸買上物等書出并受取書綴 「税金・米・炭・
職人手間・人力車賃など」 新御殿、奥役所宛
明治一四年 250〜 一綴
129 (六一通) け二八五

松代邸支出受取書類 「税金・協議費・日用買物
代など」 明治一四年 五綴(五五通)
150 ほか 三通 け二七三

諸受取書綴 「税金・諸買物・送荷物など」 新
御殿役所 前島好謙宛 明治一四年〜同一五年 合綴 256〜 一綴
158 (七五通) け二八一

その他

毛利大膳父子減刑歎願書写 「家老益田右衛門等
騒擾一件につき蟄居中」 元治元年十一月 260 仮一綴 け二八〇

信濃国
松代

真田家文書目録（その六） 解題

文書の内容と特色

収録史料 の範囲

本目録には、当館所蔵の真田家文書のうち書付型史料の一部を収録した。同家文書については、『真田家文書目録の範囲（その一）』（史料館所蔵史料目録第二十八集）、『同（その二）』（同上第三十七集）、『同（その三）』（同上第四十集）、『同（その四）』（同上第四十三集）、『同（その五）』（同上第五十一集）を発行してきた。本集は、これらを受けて続刊したものであり、真田家文書の伝来や概要、関連史料の所在、および目録編成の方針と表題表記の方式などについては、既刊各集に付載した解題にその都度述べてきたので、本集の利用に当たっては既刊各集をご参照下さるようお願いする（以下、既刊分の目録は『その一』のように略記する）。

真田家文書の印刷目録は、『その一』に冊子型史料の大部分を収録し、『その二』以下には『その一』の編成項目を基準にしながら整理した書付型史料を掲載してきた。本集は『その五』に続くものであるが、『その一』の大項目「藩政」のうち『その五』に収録できなかった「村町方」の一部と「財政」に関する史料の一部、および既刊各集から洩れた追加史料の若干を収録した。本集に収載した史料の概要については後述するが、全体としては『その二』以下に収録した史料と同質の史料であって、特に指摘するべきものはない。「村町方」の史料の多くは、被支配者であった村町側から提出されたものであり、同種類の史料は、いわゆる地方史料じかたのなかに控や案文などの形で残存していることが多いが、本文書の場合はいうまでもなく支配者であった大名家側に原本が伝存したものである。これについては『その四』の解題で、その意義を指摘しておいたので参照していただきたい。なお、被支配者側で作成して提出された史料としては、このほかにも各種の請書や、買上物などの見積書、請求書、受領書などの形式で本文書のなかに多数伝存している。それらは被支配者側で作成された史料という共通性をもつが、大名家文書という史料群のなかで他の史料と一貫した体系のもとで理解すべきものである。夫々の史料を受理した役場における関連史料とし

て整理してきたのはそのためである。

また、既刊各集で繰り返しお断りしてきたことであるが、『真田家文書目録』の分冊は整理ができたものから順次に刊行している。もちろん、全く無作為に整理しているわけではなく、関連のある史料はできるだけ分散しないように配慮はしているが、完全に整理が終了した時点で目録編成したものを分冊して刊行するものではない。そのため、各集の編成項目が重複したり、整合性を欠く事態を生じている。これが、史料目録としては極めて不備であり利用にも不便であることは十分に承知しているが、大量の史料を他の事業と併行させながら印刷目録に付す上では、やむを得ぬ措置であることを、重ねてご了承を乞うものである。

史料の配列と概要

本集における史料の配列が、『その一』の分類項目に準拠しながら史料の内容に従って一部を改変したものであるのは、『その二』以降の目録編成の方針を基本的に踏襲している。以下に、各項目ごとの概要と特記事項について略述する。なお、個々の史料の内容は各史料の表題の下に必要に応じて内容摘記を加えてあるので、それを参照されたい。（以下の説明のなかで、『』内のゴチック体は大項目、『』明朝体は中項目、『』は小項目を示し、『（）』内の仮名と数字は史料の整理番号である。）

『藩政』

『普請』の『水道役』は、本来なら『その五』の『普請』に編入すべきものが、後日の整理の過程で出てきたものであり、追加分として便宜上ここに載せた。一部に年欠の史料もあるが、内容から明和期のもものと判定できる。伝存する真田家文書としては、比較的古い史料に属する。次の『京坂役場』も『その五』の追加史料である。前号では関連史料が多かったので細分した項目を設けたが、今回は量も少なく分割すると却って煩わしいので一括して配列した。なかでは冒頭の火薬暴発一件書類（けへい）がまとまった史料である。

（原 島 陽 一）

村方騒動 文書の特質

一般に村方騒動文書は当該村の文書に訴状や済口証文等が残され、それによって大略が把握される場合が多い。しかし、この真田家文書の中における村方騒動文書は、原告の訴状、被告の反訴状、代官所・郡奉行所の尋問に対する関係諸村や関連人物

の答書、吟味書、郡奉行から家老に対する伺書、内済証文、処罰書、和談規定書等、およそ騒動に関係する一連文書が抱括的にまとめられ、一括保存されているところに大きな特質がある。これはまさに、村方騒動に対応する領主裁判権の全貌が明らかとなり貴重なものである。これらの抱括的な村方騒動に関する文書を検討することは、史料論としても重要であり、真田家文書の中に存在しているこれらの村方騒動文書は、それを可能とするものである。

ここでは、村方騒動で一件文書として三五件の文書の目録を収録した。これらの村方騒動文書は、天明五年（一七八五）から明治三年（一八七〇）までの近世後期から明治初年までの八五年間に及ぶが、その中心は文化文政期（一八〇四～二九年）から天保期（一八三〇～四三年）の約五〇年間に集中している。ここでは、天明から天保期の村方騒動の内容を簡単に紹介しておこう。

村方騒動の内容

まずここでは目録の小見出になっている村方騒動一件ごとに、主要な二四件について述べてみたい。

天明五年（一七八五）牛嶋村大豆嶋村論所一件

これは、両村の境目争論の場所の麦を両村立合いのうえ、大豆嶋村で刈取りたい旨両村三役人連印で郡奉行に出願したことが発端となった。最初大豆嶋村で刈取るので次は牛嶋村が刈取るという順序で進行の予定であったが境目そのものに疑義が生じ出入となったものである。

寛政二年（一七九〇）瀬戸川村土地引請連印偽判出入

これは土地引受をめぐって伯父甥の間での争いである。六太郎持田地一石六斗余につき三〇年前の宝暦九年（一七五九）に与五兵衛が半分を引受けることに取り決め、その証文に七左衛門も調印したが、本来は与五左衛門・権六・私（七左衛門）の三人にて引受けるものであったと勘定所に訴えた。これに対し三〇年前のことを今出願するのは何故かと問われ、七左衛門は、その節自分幼年にて力が無かったこととその証文が「謀書」であり、「謀書」の証拠として七左衛門の印判は丸印なのに、六角印が捺印されていると主張している。

文化八～一〇年（一八一～一三）羽尾村境論一件

これは羽尾村明德寺境につき同寺より同村九郎治を相手取り郡奉行所へ出願したものである。結局、境論は証拠不分明につき双方より和談内済を申立て、郡奉行所の内済申渡に一同が承服して落着した。

文化一四年（一八一七）幕領・松代領作徳米出入一件

これは幕領である今里村更級左門が松代領民に土地を貸与したが、作徳米金（小作料）が滞り一向に解決できないので、江戸へ出訴しようとしたものである。今里村を管轄する幕府中之条代官所の手代たちは近領のこと故郷やかに落着させたいと努力している。作徳米を滞納した村々は次のとおりである。鬼無里村・小鍋村・後町村・北上野村・下越道村・川口村・和平村・祢越村・中挟村・吉窪村・下宇木村・上松村・伊折村・久保寺村・北長池村・長井村の一六か村にわたっている。中之条代官手代たちも左門に対する滞納者六七人のうち、二七人は返済するが、四〇人は未済であるため、左門の江戸出訴を許可したのである。これに対して松代藩郡方役人たちも仲介に入り、江戸出訴により松代藩の体面に傷つくことを恐れて返済を促進し、滞り分を皆済させ、安堵の胸をなでおろしている。

文化八（文政一〇年（一八一七））網掛村諸上納滞り一件

これは網掛村の三郎右衛門が諸上納滞りにつき名主大八より代官所へ訴えられ、三郎右衛門は安永年中（一七七二〜八〇）、大八親政野右衛門のとき過分の取立てを受けているのでそれと相殺してほしいと主張した。これに対して、大八は過納一件は寛政年間に勘定が相殺され、すでに和談したと返答した。網掛村三役人は代官所に対し、三郎右衛門は入札で当村蔵本に決定したにもかかわらず拒絶したので、同人を召喚して厳命してほしいと訴えた。また三郎右衛門の親類組合が連印で蔵本拒否の件については三郎右衛門が強情申し立て迷惑の旨を回答している。三郎右衛門は出頭を命ぜられると喘息病という医師の容牒書を提出して、出頭困難を申し出ている。数か月後に病氣全快届を出し、出頭すると詮議中手鎖にて町宿預けとなっている。こうして三郎右衛門にとって事態は不利のまま推移してゆき、見性寺等の寺院から吟味赦免の嘆願書が出された。

文政三（五年（一八二〇〜二二））上布施村松尾大明神紛議一件

これは上布施村産神松尾大明神は往古より上田領戸部村松尾の神主田中長門の持宮であるのに、上布施村は村方持と主張しているので糾明してほしいと神主田中長門が松代職奉行に出願した。これに関連して上布施村三役人から、社内の枯木を無断に伐採したことや神主地所の小作料を差留めたことを詫びた答書を提出している。

文政三〇六年（一八二〇）北高田村公事入用割合紛議一件

これは北高田村伊兵衛が辰年（文政三年）御咎を蒙って北小堀村へ引移り、その後、元村に対し公事を負担しているが、手詮議不能につき書類を差添えて代官成沢文治が郡奉行所へ伺書を提出した。この伊兵衛に対し元組合より上様御手充金一三〇〇両の差出し要求が出ているので、この組合一同を召喚のうえ糾明してほしいと伊兵衛の子団右衛門等から郡奉行に対し願書を提出している。

文政四年（一八二一）入山村九右衛門借財紛議一件

これは九右衛門潰れ一件に関連して、九右衛門跡式の隆三郎の借財片付方をめぐって種々紛議が発生したものである。借財返済不能につき銅山堀子の処罰を求めて、隆三郎や村役人が代官所へ申上書を提出している。結局隆三郎が病氣逆上につき弟七左衛門のところへ腰縄にて御預けになっている。それについて隆三郎腰縄赦免願いが出され、九右衛門の家屋敷は九左衛門等親類へ引上預りとなり、隆三郎は七左衛門へ永預けとなった。

文政六〇九年（一八二三）上小嶋田村重右衛門父子所替赦免願い一件

これは重右衛門・幸右衛門ら九名が紛議の因として村替を命じられたが、一村平和のため村替を破棄してくれるよう上小嶋田村三役人・頭立等が連印して郡奉行所へ出願したものである。このとき重右衛門は重病にて御問書にも返答できない状況であった。そのため重右衛門の女房のふが詮議中町宿預けとなった。これに対し下戸倉村本陣十郎右衛門が極老の祖母と家内の者が小嶋田村に居住しているので、重右衛門と子泰助も帰村を許容してくれるように松代役所宛に嘆願した。しかし結局重右衛門は病氣快方につき小河原新田へ引越し、女房は老母看病につき小嶋田村の居住が許容された。この紛議のものは寺院御朱印地引高を巡るものであった。

文政七〇九年（一八二四）上徳間村用水普請等入用紛議一件

これは用水・川普請入用の村役人の不正を小前百姓五九名が出訴したものである。この小前騒動の頭取で荒所開発の件で処罰刑を受けていた上徳間村重右衛門は赦免された。

文政八年（一八二五）専納村政右衛門投込願書一件

これは専納村小前百姓が連印して内々願書として、政右衛門のために村内が紛議難決するので同人を召出して所替を命じてほしいと郡奉行所や大目付役所へ提出したものである。

文政九年（一八二六）保科村小作年貢引方騒動一件

これは、小作人らが悪作のため小作料の引方を代官所へ歎願したことから始まった。代官所では当村の小作引方の相場勘定の規定について尋ねたが、地主側ではこのたび一件にては小作料は一文も受取っていないと述べている。小前代表は詮議中手鎖となって町宿預けを命ぜられた。さらに太源治・儀兵衛・定吉らは入牢となり村方では牢扶持を命ぜられた。地主藤太らは吟味人親族悲嘆ゆえ赦免願いを代官所へ提出した。郡奉行金井左源太は家老宛「申上書」で、小作相場引下げ一件は小作人の増長で地主に非文なき旨を述べている。これにより一件処罰案として、大吉は二〇〇日過怠夫、扶持方は親類賄い。重三郎は役儀取上げ過料錢二貫文。太源治・定吉・儀兵衛は持地欠所のうゑ鬼無里村御林内の開発労働となり、地主惣代藤太は叱りとなった。

文政九〜一〇年（一八二六〜二七）中牧村本郷由緒紛議一件

これは郷絵図町数書上の件につき石津組と池田組は共に自村を元村と主張して譲らなかった。先年の書上は池田組より提出したが、石津組は当村が元村である証拠ありとして、石津組より町数書上を命じてもらいたいと出願した。結局池田組は当方には証拠ない旨を答書した。

文政一〇年（一八二七）杭瀬下村儀太夫質入地所一件

これは上山田村八郎右衛門が儀太夫より質地証文で金一〇〇両を借用したが返済の日延べ願書を郡奉行所宛に提出しているところが注目される。さらに期限が迫るとさらに日延を同所に提出している。

文政一一年（一八二八）栃原村質地紛議一件

これは栃原村十左衛門の質地取扱につき同村庄右衛門が駈込訴をしたものである。庄右衛門の願書によれば、自分祖父庄蔵が十左衛門より取置いた質地を半金で返還してやったので残り半金を求めると拒絶したとして郡奉行所へ訴えたものである。同村某の「内密申上書」によると十左衛門の悪行次第として、若者共の腰押しをして名主を困惑させているとしている。

文政一一年（一八二八）湯田中村御下ヶ金など不正一件

これは彦右衛門が年貢過納分を返還せず横領しているとして同人の追放を三役人・頭立・小前惣代が郡奉行所に申上書として提出した。彦右衛門は不埒につき鬼無里村高小屋へ新田開発所替を命ぜられた。

天保二年（一八三一）広瀬村直右衛門不埒出願一件

これは潰百姓七左衛門が不埒牢舎のところ直右衛門が連印人偽造のうえ直訴し、寺院縋訴訟を申立てたものである。

天保三（一〇年）（一八三二）下真嶋村寅吉不法田畑譲渡一件

これは寅吉が不行状一件で、同人母より寅吉の所払いが申立てられ三役人は困惑している旨を郡奉行所宛に答書している。寅吉の答書では、母に隠居料として一〇石遣し、自分持高二〇石は本家与右衛門に預けて同人の厄介となる旨を述べている。寅吉親類連印答書では、寅吉の不行状は同人母が弟を偏愛するためによる旨を書いている。寅吉は親類一同に宛て家内和合、農業出精の誓書を提出し、親類らより「吟味流し」にされたき旨を代官所へ縋書を出した。家族史の一資料としても興味深い。

天保四（六年）（一八三三）里穂荊村小前惣代欠訴一件

これは小前惣代善蔵等が連印で村役人・頭立の者が猥りに借財し、ゆえなき村弁金を村民より徴集するを停止してもらいたいこと。また、代官所へ謀計の借財元帳を差し上げていると代官所へ訴えたものである。これに対し村役人・頭立の者からの答書では、例えば長百姓利左衛門は、自分は新役ゆえ借財御書上帳作成の節に取調落となり恐入りますが、謀計の借財御書をなしたことはない旨述べている。

天保四（六年）（一八三三）御林桑甘草苗代金滞納一件

これは関屋村郡左衛門が吾妻銀右衛門に対し、関屋御林御用桑頂戴して蚕業仕たるところ、不作で勘定が滞ってしまっているので借金返済の年延べ証文を提出した。これに対し、銀右衛門は一年半経過しても勘定が未済であるにも拘らず甘草苗代金をもって返済との偽りをなす旨を申立てるとして郡奉行所へ「口上覚」を出している。結局郡左衛門は家屋敷田地譲渡して代金七両のうち五両返済し残金は来年六月までの延期を郡奉行所へ提出した。

天保五年（一八三四）酒造道具代金滞り一件

これは吾妻銀右衛門が酒造道具を西条村茂作らに売払ったが、代金四四両余が滞り、茂作らは日延べ願いを繰り返しているが、支払いが滞っているとして郡奉行所へ出願したものである。

天保五～八年（一八三四～三七）西寺尾村諸役動向混雜一件

これは伝馬人足の件、去年の有地改にて持高変更のため伝馬役勤仕の者たちは居屋敷高割合を主張したが、惣村高割合とするが至当という意見もあり対立が生じたのである。西寺尾村頭立七人の答書では、多くが惣村高割合が至当とした。三役人の見解は村内融和を第一とすべき旨を述べている。しかし、小前惣代の答書では伝馬役の惣高割合は迷惑しているが、日割りをもって当村切の惣高割合で勤めたいとしている。この一件内済規定書では、伝馬役を組切にて勤仕し、年貢は組で取り集めのうえ名主元への持参のこと等一一条を定めている。

天保七年（一八三六）小根山村紛議一件

これは名主手元の勘定諸帳面の疑惑で小前らが徒党寄合を開いたとして、集会に参加した者たちは宿預けとなった。これに対し古山村法蔵寺が歎願書として、小前惣代治郎兵衛ら六人の赦免方を提出した。

天保七～一一年（一八三六～四〇）清野村新田地代金混雜一件

これは旧名主伴右衛門の新田割地の取計方につき穿鑿命令が出された。それによると、売払い地所代金一〇〇両余のうち、郡役御手充金九両余を着服した風説があると指摘している。某内密申上書によると、伴右衛門について近年夫銀倍増、新田売却代金不明、田畑年貢手充引も割戻しなし、役中不正利得の疑惑等があり、この伴右衛門の不法の処置は春日儀左衛門も承知のうえのことと述べている。この問題と関連して五人組合惣代等から名主役を三年任期の入札制と致すべきことの意見が代官所宛に出されている。また小前惣代からも、名主役は二、三年任期制や小前からも相応の商いを致すものを村役人に任せられたいという意見が相次いで提案されている。これは名主の世襲制が種々の弊害を生むことを村民共通の認識としてもっていたということである。

天保八年（一八三七）里村山村新田所持出入一件

これは孫八譲渡の地所をめぐる重吉と喜三七との公事出入一件である。重吉の願書によると自分の新田が間違いで喜三七の所持になっているので差戻されたき旨を代官所へ訴えている。重吉の答書によると、名寄帳・水帳も改竄の疑惑があるとしている。喜三七と三役人の答書によると、家屋敷附并新田高合二斗九合は天明五年に喜右衛門より譲り受け、五〇年間年貢を上納、諸役を勤仕してきたものであると代官所宛で述べている。代官西沢軍治の郡奉行所宛の伺書でも重吉の証拠なき申立につき手詮議不能として書類を差添えて伺っている。結局、済口証文では重吉は証拠もないのに不当の申立てをしたとして町宿預けとなるが、同人難渋者ゆえ、喜三七より資金を融通することで和談となった。

天保八年（一八三七） 夫食米引取延引一件

これは天保の凶作・飢饉の最中で、矢代村は夫食に差支えにつき松本藩預所市野川村より米穀を買付け、運搬用会符一〇枚は外の目的に使用しない旨とりきめた。ところが松本藩預所六二か村では穀留をしており、市野川村与三右衛門より新次郎へ売却したことが露見し混雑した。この一件で平左衛門が察当を受け、願行寺が平左衛門の赦免歎願書を出した。

天保九〜一〇年（一八三八〜三九） 妻科村御飯米代金割合紛議

これは、妻科村市右衛門・佐兵衛が頭取になって御飯米代金割り戻し金子をもって小前に割合うべしと主張して紛議となった。市右衛門は出作人より御飯米代金を取り集めて小前へ代粉を渡すことが慣例として、村役人中へ強談判した。これに対しては、市右衛門の申立ては不当であるから示談の取り計いの旨を主張するものも現われた。結局、市右衛門は手鎖、佐兵衛腰縄で村預けとなった。（森 安彦）

文化一四年〜弘化二年（一八一七〜四五） 南長池村紛議（勘定不正） 一件

本事件の關係史料は極めて膨大なものになっている。それだけ本事件の複雑さを示すものである。太前層からなる村役人の村入用勘定に不正ありとして小前百姓たちが異議を唱え、村入用帳、割元帳の開示を要求した。

問題の第一段は、小前百姓層が村政への参加を要求して、名主役の入札方式による公選制を求めて立ち上がり、文政六年の入札で小前の代表格の弥惣八が入選したことに始まる。大前、頭立層はこれに反発して弥惣八の名主役就任に抗議して、話合いの結果、同年は大前百姓の義兵衛が勤め、弥惣八・久右衛門はその下役とし、翌年に弥惣八が名主役に就くとした。

問題の第二は、勘定不正の追及を巡るものである。弥惣八らは同村でこれまで割掛けられていた村借財なるもののうち、西尾張部村蓮証寺および中越村長十郎よりの借入れ金なるものは虚偽であるとし、村役人の不正割賦であるとして追及した。この過程で、蓮証寺住職の南長池村への貸金は一切無しとの書付が弥惣八側から提出されたのであるが、しかしこれは弥惣八側のなかば強要によって整えられたものであることが判明した。

蓮証寺より南長池村への貸金は存在したのであるが、諸々の経緯の中で、手段金をもって一応清算された形になっており、この文政六、七年段階では消滅していたというべきものであった。

この複雑な問題、事実関係の糾明、謀書や偽証の暴露そしてこれらを巡る、村役人・大前層、小前百姓、そして小前内部での対立する二派、蓮証寺、他村からの調停立入人、代官、郡奉行所、勘定方役人、吟味人を預かる町宿、赦免歎願の執成を依頼された旦那寺とさまざまな階層の人間が各史料・文書に登場し、それらの応答の中にこの複雑な事件の展開を見る事が出来るのである。

なお、本件を扱った論文に、安澤秀一「近世後期農村の社会的政治的生活の一例―信州真田領南長池村混雑一件―」（『社会経済史学』二〇巻一号）がある。

（笠谷 和比古）

『甲府・越奥出兵』は、『その一』の『戊辰役』中の小項目を構成する史料であるが、今回はこの他の戊辰役関係史料の整理が進捗せず、全貌が未確認の状態であることを考慮して、敢えて細分せずに仮の項目を設けて一括のまま配列した。維新争乱期に真田家＝松代藩は、まづ慶応四年二月三十日に甲府へ出兵し、八ヶ月後の十一月八日に引上げた。また同年四月十九日には飯山へ援兵を出し、続いて同二十七日に越後へ出兵、閏四月二十六日の小千谷戦などを経て転戦し、同年十月六日に帰休令を出し同月二十九日に帰藩させた。史料の多くは、帰藩後に戦功や入費を処理・精算したものである。ここでも真田家文書の特色として何度も指摘してきたところの、日常的な微細事項に関する書類が、原本の形式で残存しているのを見ることが出来る。なお、本項に関しては、『その一』の関連項目のほか、給禄・手充や財政などの項目にも関係書類があるし、今後整理して目録化される史料中にも相当量の史料が残っていると予想されるので本目録の続編にも注意していただきたい。

『財政』

この項目のうち『諸役方』の各項は、『その五』の追加史料である。「御收納郡方」「御納戸」「賄役」の三項は『その五』ではなく、ことに前二者は各一点に過ぎないので、他の項目へ併合してもよかったが、可能な限り原部署を尊重する原則に従って新たに項目を設けて配列した。但し、御收納郡方の伺書は『その三』の『御尋物答書』のなかに収録してあるので、併せて利用されたい。諸役のなかでは『御勝手元ノ』に属する史料が多く、その過半は御尋物答書であるが、これも前記『御尋物答書』に同種史料が多数収録してあるので参看されたい。『給禄・手充』は『その三』では大項目で扱ったが、今回は少量の追加史料なので細分せずにここに付載した。明治維新後の財政史料については『その五』では財政の諸役方の末尾へ新役名ごとに区分して掲載したが、今回は「計政局」としてまとめて配列した。前回の分も含めて、この時期の史料には前代からの継続事案に関するものが多く、『財政』の他項目はもちろん『京坂役場』など他の大項目内の史料中に混在している場合があるので、利用に当たってはこの点に留意して下さるようお願いしたい。『借入金』も『その五』の追加史料であるが、特記する事項はない。

『京都守衛入料』は、幕末の京都警備という特別任務に要した経費である。文久三年四月十七日に十萬石以上の大名に対し交代で京都警備に当るべきことを定めた幕令に基く派遣であり、前年閏八月に設置した京都守護職を補強する措置であった。これにより、藩主幸教は翌元治元年六月から同二年三月までの間、途中に大阪警備を挿んで八ヶ月余にわたって任務につき、更に慶応二年四月から八月まで次の藩主幸民が再度の要請に応じて滞京している。こうした藩主の直接警備に随行するだけでなく、上京以前および帰藩以後も藩兵は滞京して守衛を分担したことは、本項に収めた史料からも明白である。なお、両度の藩主上京に関しては『その二』一七～二七頁を参照されたい。

『奥向勘定』には、藩主とその家族にかかる諸経費に関する史料をまとめた。奥向の勘定史料には後段で述べるように特殊な費目があるとはいえ、原則的には財政の他の史料と同様に取扱うべきものである。実際に、財政関係の書付型史料を収録した『その五』には少量ながら奥向の勘定史料があり、それぞれの取扱役場ごとに配列してある。しかし、各役が所掌する事務範囲の確認が不十分なため、各史料の流れを十分に解明できない現状では、関連史料の徒らな分散を防ぐために、編成方針とはやや矛盾するが、史料の内容を基準にした事項分類を併用することにした。一方では、奥向の勘定史料の一部が『真田家』の各項目内に配列されて既に『その二』に収録してある。既刊分との整合性か

らすれば、本項目を『真田家』の追加史料として分離することも考えられるが、勘定史料は『財政』として扱うという方向を残しておく意味を含めて、今回はここにまとめて配列することにしたものである。真田家＝松代藩の組織機構が全面的に解明され、真田家文書の整理が完了するまでの便宜の措置として了承されたい。なお、上述の如く『その二』を併せて参照していただきたい。

今回の小項目のうち主要なものについて、以下に簡単な解説を述べる。「月割金」は当主を始めとする藩主家族の銘々に支給される基本的な毎月の予算金額で、概算年額を月割りにしたための名目である。なかに上々様とあるのは殿様（当主）以下、御前様（夫人）や大殿様（隠居した先代当主）などの分を一括して処理したものである。「賄料」は夫人らの女性家族に支給された費用である。「家禄」は、版籍奉還後に明治政府が武士層に支給した禄米であるが、ここでは御家禄として藩主分を意味する。「被進金」は、前夫人らへの別途調進金であるが、後出の「貞姫」の項でも使用例があるので結婚後の娘へも贈与したものとみえる。因に、真月院は幸貫夫人、真晴院は幸教夫人である。「奥向諸勘定」は一括史料などで細分できない史料のほか、使途別に細項目を設けて配列した。このうち、「夫人等出入国」は『その二』の当該項目を参照されたい。「繰廻金」は藩主らの御手元金などを資金運用したものである。「順操院」は幸良の家女で、九代幸教の実母、「貞姫」は幸良の娘で松平定猷の室。結婚後も婚家先から入用費に対して請求を受けている例がみられる。「御仕向」は藩主らが交換する各種の贈答品、あるいはその基準である。「奥女中」には、召抱に際しての支度金、雇傭中の被下物や菜銀、死去の手向金などに関する規定と、それらを実際に支給した会計史料を中心に、暇取りの願書等をまとめた。暇取りの願書は財政とは全く関係がなく、この項目におくには異質であり、本来なら別途に扱うべきであろう。しかし、本項の冒頭にも述べたように、『その二』では逆に奥向書類のなかに奥向の勘定史料を編入してある。相互の参照が複雑になるのを避けるため、本文中に既刊分の該当箇所を指示した上で、『財政』の末尾に収録しておいた。

『家中』は『その三』に追加すべき史料である。武田斐三郎は明治元年一〇月に松代藩文武学校内の兵制士官学校教頭に招かれていたものである。

『明治期史料』

明治期に作成された史料は、原則として新制度における各役職ごとにまとめるはずであるが、実質的には旧職制の名称を変えただけで役人も書式もそのまま踏襲している場合には、前後の史料の関連性を失わせないために、近世の史料の後へ引

続いて配列したものが多く、しかし、新制度のもとでそれまでにない内容の史料については、当然新項目を設けざるを得ない。『その一』の冊子型史料では、版籍奉還後の松代藩から廢藩置県後の松代県までの史料に対して『松代庁』の項目を置き、四年七月の藩知事の解任によって行政から撤退した後の史料は、もはや藩という組織機能は終息し藩主家の個人的機関に変質したと解釈して『家扶局』の項目を『真田家』の末尾に据えた。但し右の両項目とも、やや補助的な存在で、同時期に作成された史料の多くは、前記したようにそれまでの関連項目の中にも吸収的に扱った。『その二』以降に収録した書付型史料についても、ほぼ同様の手法を採用してきた。その結果、いずれの項目にも編入できない史料を仮に『明治期史料』としてまとめることにした。実は、この項目への合流が予想される史料が、まだかなり残っており、それらと合体させて目録編成を行うべきなのであるが、整理作業の手順が遅れたため、今回は仮の項目で一括して配列することにした。今後、残りの史料の整理が完了した時に、今日の分を含めて適切な目録編成に改訂することができれば、極めて理想的である。右のような事情で仮の項目であるため、すべて小項目として配列したが、項目ごとに特に説明を加えるものはない。

(原 島 陽 一)

〔追 記〕

本目録は長年真田家文書の整理に当ってこられた筈谷和比古氏、原島陽一氏の成果をまとめたものである。筈谷氏は一九八九年四月に国際日本文化研究センターに転任されたが、それまでの在職中の仕事であり、原島陽一氏は一九九〇年三月に定年退官されたが、その後一カ年ほど史料館の嘱託として業務を支援して下さり、本目録の作成に当った。

本目録は両氏の仕事を森安彦の責任で編集したものである。なお整理記号は、原島氏担当分は「け」、筈谷氏担当分は「さ」とし、原島氏の「け」では、史料の形態は簿冊類・一紙書付類ともに原則として、それぞれのタテの寸法をミリメートル単位で示した。(森 安彦)

史料館所蔵史料目録 第五十九集
信濃国松代真田家文書目録(その六)

平成五年三月三十一日 印刷発行

編集兼 国文学研究資料館
発行者 史料館

〒142 東京都品川区豊町二丁目十六番十号
電話〇三―三七八五―七二三一(代)

印刷所 睦美マイクロ株式会社
〒135 東京都江東区東陽一―十六―十二

(本文用紙は中性紙を使用)